

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
258	61	花積下層	90区V-9	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位・斜位に重複施文。	胎土に繊維混入
259	61	花積下層	90区U-9	深鉢	胴部	白色砂粒多量に含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
260	61	花積下層	90区W-9	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを斜位施文。	胎土に繊維混入
261	61	花積下層	90区X-9	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位・斜位施文。	胎土に繊維混入
262	61	花積下層	90区W-13	深鉢	胴部	白色砂粒多量に含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
263	61	花積下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位に重複施文。	胎土に繊維混入
264	61	花積下層	81区1側木	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで縦位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
265	62	花積下層	90区V-9 90区W-9	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLを斜位施文。	胎土に繊維混入
266	62	花積下層	90区V-9 90区W-9	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
267	62	花積下層	90区W-12	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
268	62	花積下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLを横位施文。	胎土に繊維混入
269	62	花積下層	90区V-10	深鉢	胴部	白色砂粒多量に含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
270	62	花積下層	90区X-9	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
271	62	花積下層	90区V-9	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLを横位・斜位施文。	胎土に繊維混入
272	62	花積下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLを横位施文。	胎土に繊維混入
273	62	花積下層	表採	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
274	62	花積下層	81区C-13	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで縦位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
275	62	花積下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
276	62	花積下層	90区W-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで縦位幅の狭い横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
277	62	花積下層	81区D-12	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条RLを横位施文。	胎土に繊維混入
278	62	花積下層	81区A-11	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
279	62	花積下層	81区C-11	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	0段3条LR・RLで横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
280	62	花積下層	81区J-16	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条RLを横位施文。	胎土に繊維混入
281	62	花積下層	90区V-9 90区V-10	深鉢	胴部	礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで横位羽状縄文を構成。底部付近はRLを斜位施文。	胎土に繊維混入

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
282	62	花積下層	81区A-11	深鉢	口縁～胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	胴部はややくびれ口縁は外反する。口縁は平縁。口縁部文様帯には2段の蕨手構図を配す。蕨手は0段多条R・Lを3条1単位とした燃余側面圧痕により構成し、一部、左右・上下対称に磨える。蕨手の渦巻き中心部及び蕨手間は、2本1単位の刺突を充填する。胴部は0段多条LR・RLで横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入 遺構外283・287 と同一個体
283	62	花積下層	81区B-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段多条R・Lを3条1単位とした燃余側面圧痕により蕨手を構成し、蕨手の渦巻き中心部及び蕨手間は、2本1単位の刺突を充填する。	胎土に繊維混入 遺構外282・287 と同一個体
284	62	花積下層	81区G-11	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段多条R・Lを3条1単位とした燃余側面圧痕文を施文。	胎土に繊維混入
285	62	花積下層	90区X-8	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部は平らに面取り。外面にはL・Rによる2条1単位の燃余側面圧痕文を施す。	胎土に繊維混入
286	62	花積下層	81区N-18	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は口唇部がやや細く尖りながら外反する。0段多条L・Rを3条1単位として燃余側面圧痕文を横位・斜位に施す。燃余側面圧痕間には1本単位の刺突を充填する。	胎土に繊維混入
287	62	花積下層	81区A-11	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段多条R・Lを3条1単位とした燃余側面圧痕により蕨手を構成し、蕨手の渦巻き中心部及び蕨手間は、2本1単位の刺突を充填する。	胎土に繊維混入 遺構外282・283 と同一個体
288	62	花積下層	81区55土	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	やや外反して立ち上がる。口縁部文様帯下には隆帯による区面を配し、中には隆帯による蕨手或いは渦巻き状の文様を施す。隆帯上には斜位の刻みを施す。隆帯間には0段多条L・Rを3条1単位として燃余側面圧痕文と1本単位の刺突を充填する。	胎土に繊維混入
289	62	花積下層	81区N-18	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は口唇部がやや細くなりながら外反する。口縁部文様帯には隆帯が環状・或いは渦巻き状に廻り、隆帯上には斜位の刻みを施す。また0段多条L・Rを3条1単位として燃余側面圧痕文を横位に、或いは隆帯を外縁に沿って施す。燃余側面圧痕間には1本単位の刺突を充填する。	胎土に繊維混入
290	62	花積下層	81区N-18	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は口唇部がやや細く尖りながら外反する。0段多条L・Rを3条1単位として燃余側面圧痕文を横位・斜位に施す。燃余側面圧痕間には1本単位の刺突を充填する。	胎土に繊維混入
291	62	花積下層	90区X-10	深鉢	胴部	白色砂粒及び小礫をやや多量に含む。良好。黒色。	貝殻燻染文様	胎土に繊維混入
292	62	花積下層	81区M-18	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁はやや厚尻し外反する。口唇部下には隆帯が1条廻るが、厚尻する口唇部と併せて、2条隆帯の様相も示す。口唇部には矢羽根状の刻みを、隆帯上には斜位の刻みを施す。また口唇部と隆帯間にも区面をするように刻みを連続して施す。胴部にはLRを横位に施文。	胎土に繊維混入
293	62	花積下層	81区M-17 81区L-16	深鉢	口縁	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部は外面が平らに面取りし、0段3条L・Rで矢羽根状に燃余側面圧痕文を施す。口縁下はLRを横位施文。	胎土に繊維混入

2 遺構外の出土遺物

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
294	63	花積下層	81区O-19	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部はやや外前ぎ状に面取りを施すが、丁寧さには欠ける。0段多条LR・RLによる幅の狭い横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
295	63	花積下層	81区N-18	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	口縁はやや外反する。0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入 遺構外304・313 ~323と同一個体
296	63	花積下層	81区A-10	深鉢	口縁	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで縦位羽状縄文を構成。	中道式？ 胎土に繊維混入
297	63	花積下層	81区B-10	深鉢	口縁	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	口唇部は内前ぎ状に面取り。器面の一部に0段多条LRが斜行？	中道式？ 胎土に繊維混入
298	63	花積下層	90区W-10	深鉢	口縁	石英粒・黒色砂粒・白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は平直に面取り。口唇部外面はやや肥厚し瘤状突起あり。頸部は0段多条LRを横位施文。	中道式？ 胎土に繊維混入
299	63	花積下層	81区O-19	深鉢	口縁	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	口唇部はやや内前ぎ状に面取り。厚みのある口縁。口縁外面はRLを横位施文。	胎土に繊維混入
300	63	花積下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで横帯幅の狭い横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
301	63	花積下層	81区O-18	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
302	63	花積下層	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLを横位施文。	胎土に繊維混入
303	63	花積下層	81区B-9	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	草部LR・RLで施文幅の狭い横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
304	63	花積下層	81区B-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入 遺構外295・313 ~323同一個体
305	63	花積下層	81区M-18	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	熟赤帯面匠文及び刺突を施す？	胎土に繊維混入
306	63	花積下層	90区W-9	深鉢	胴部	礫少量含む。良好。黒褐色。	中位で大きくくびれる。0段3条LR・RLによる横位羽状縄文と一部に縦位羽状縄文構成部も見える。	胎土に繊維混入
307	63	花積下層	81区P-19	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLによる横帯幅の狭い横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
308	63	花積下層	81区33土	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLによる施文幅の狭い横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
309	63	花積下層	81区55土	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLによる施文幅の狭い横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
310	63	花積下層	81区55土	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLによる施文幅の狭い横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
311	63	花積下層	81区E-13	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条RLを横位施文。原体端部結節小。	胎土に繊維混入
312	63	花積下層	90区W-10 90区Y-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLによる施文幅の狭い横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
313	63	花積下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入 遺構外295・304 ・314~323同一個体

Ⅳ 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
314	63	花積下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313・315・316～323同一個体
315	63	花積下層	90区Y-11	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313・314・316～323同一個体
316	63	花積下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313・315・317～323同一個体
317	63	花積下層	81区A-9 81区A-11	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313・316・318～323同一個体
318	63	花積下層	90区Y-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313・317・319～323同一個体
319	63	花積下層	81区A-10 81区B-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313・318・320～323同一個体
320	63	花積下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	ややぐびれ、0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313・319・321～323同一個体
321	63	花積下層	81区B-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	ややぐびれ、0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313・320・322～323同一個体
322	63	花積下層	81区A-11	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	ややぐびれ、0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313～321・323同一個体
323	63	花積下層	81区A-10 81区A-11 81区B-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	胴部中位がややぐびれ胴下半は下膨れる。胴部は0段3条LR・RLによる横位結束羽状縄文。	胎土に繊維混入遺構外295・304・313～322同一個体
324	64	中道	81区D-11	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は平坦に面取り。口縁部及び胴部は筋の極めて細かい0段多条LR・RLによる縦位羽状縄文施文後、口縁部に隆帯を1条廻らせ、隆帯上は棒状工具による斜位の削みを施す。また隆帯と器面との上位の接合部には同工具による右斜め上方向からの削突を等間隔に施す。内面は丁寧な器面調整は施さない。	中道式？ 胎土に繊維混入
325	64	中道	81区B-11	深鉢	口縁	白色砂粒及び礫や多く含む。良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は丁寧な面取りを施さない。口縁部はやや肥厚し、棒状工具による矢羽根状削突を施す。胴部は0段多条RLを横位施文。内面は横位の排痕が顕著。	中道式？ 胎土に繊維混入

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	粘土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
326	64	中道	90区X-9	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁部山形突起。断面三角形の隆帯を三又状に貼付け、隆帯上には匙状或いは棒状工具による刻みを施す。口唇部はやや細く尖る。地文はRL縄文か。	中道式？ 胎土に繊維混入
327	64	中道	90区X-10	深鉢	胴部	石英粒・黒色砂粒・白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	三又状の隆帯。隆帯の断面は三角形。	中道式？ 胎土に繊維混入
328	64	中道	81区A-9	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口縁外面には断面三角形の隆帯を廻らせ隆帯上には工具使用による斜位の刺突を施す。胴部は0段多条LR・RLによる縦位羽状縄文構成か。	中道式？ 胎土に繊維混入
329	64	中道	90区W-9	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	外面には断面三角形の隆帯を廻らせ隆帯上には工具使用による刺突を施す。胴部は0段多条LRを横位施文。	中道式？ 胎土に繊維混入
330	64	中道	90区V-10	深鉢	口縁	白色砂粒やや多く含む。良好。褐色。	口縁は複合口縁気味に肥厚しやや外反する。口唇部及び胴部は0段3条LR・RLによる縦位羽状縄文・菱形羽状縄文を構成。内面は器面調整は丁寧に施さず繊維脱痕が顕著。	中道式？ 胎土に繊維混入
331	64	中道	90区45土	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁はやや肥厚し外反する。口唇部はやや内削ぎ状に面取り。口縁部はLRを横位施文。口縁部以下は0段3条LRを横位施文か。	中道式？ 胎土に繊維混入
332	64	中道	90区X-9	深鉢	口縁	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部山形突起。突起外面にはLR施文。	中道式？ 胎土に繊維混入
333	64	中道	81区O-20	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁はやや肥厚し、口唇部は内削ぎ状に面取り。口縁下は無銘Rを横位施文？	中道式？ 胎土に繊維混入
334	64	中道	81区	深鉢	口縁	白色砂粒及び小礫をやや多く含む。良好。黒色。	胴部は0段3条LRを横位施文後、口縁部にLとRの矢羽根状の熱承圧痕を施す。口唇部は内削ぎ状に面取り。	胎土に繊維混入
335	64	中道	90区X-9	深鉢	口縁	石英粒・黒色砂粒・白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。山形突起形状か。外面はための原体0段多条RLを横位施文。	中道式？ 胎土に繊維混入
336	64	中道	90区X-9	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	Rによる熱承側面圧痕か。	胎土に繊維混入
337	64	中道	90区X-9	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	L・Rを2条1単位とした矢羽根状熱承側面圧痕文を施文。	胎土に繊維混入
338	64	中道	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	L・Rを2条1単位とした熱承で縦位・斜位施文。内面は繊維脱痕あり。	中道式？ 胎土に繊維混入 遺構外339同一個体か
339	64	中道	81区N-20	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	L・Rを2条1単位とした熱承で縦位・斜位施文。内面は繊維脱痕あり。	中道式？ 胎土に繊維混入 遺構外338同一個体か
340	64	中道	90区W-10	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	器の極めて細かい原体0段3条LR・RLで菱形羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
341	64	中道	90区W-10	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	器の極めて細かい原体0段3条LR・RLで菱形羽状縄文を構成。	中道式？ 胎土に繊維混入
342	64	中道	90区W-10	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	器の極めて細かい原体0段3条LR・RLで菱形羽状縄文を構成。	中道式？ 胎土に繊維混入
343	64	中道	81区A-9	深鉢	胴部	礫少量含む。良好。明赤褐色。	0段3条LR・RLで縦位羽状縄文を構成。	中道式？ 胎土に繊維混入

Ⅳ 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

番号	PL	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
344	64	中道	81区B-11	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	節の纏めて細かい厚体0段3条LR・RLで縦位羽状縄文を構成。	中道式? 胎土に繊維混入
345	64	二ツ木	81区O-19	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁には角状突起を2個施す。口縁部文様帯には楕円形の瘤状貼付文を施す。地文は燃赤側面圧痕文か。	胎土に繊維混入
346	64	二ツ木	81区N-18	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁には角状突起を1個施す。口縁部文様帯には楕円形の瘤状貼付文を施す。貼付文間にはL・Rによる矢羽根状燃赤側面圧痕文を施す。	胎土に繊維混入
347	64	二ツ木	81区O-19	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	楕円形の瘤状貼付文を施す。地文は燃赤側面圧痕文。	胎土に繊維混入
348	64	二ツ木	表探	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	楕円形の瘤状貼付文を施す。地文は燃赤側面圧痕文。	胎土に繊維混入
349	64	二ツ木	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	楕円形の瘤状貼付文を施す。地文は燃赤側面圧痕文。	胎土に繊維混入
350	64	二ツ木	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	楕円形の瘤状貼付文を施す。地文は燃赤側面圧痕文。	胎土に繊維混入
351	64	二ツ木	81区N-18	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	楕円形の瘤状貼付文を施す。地文は燃赤側面圧痕文。	胎土に繊維混入
352	64	二ツ木	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	楕円形の瘤状貼付文を施す。地文は燃赤側面圧痕文。	胎土に繊維混入
353	64	二ツ木	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	楕円形の瘤状貼付文を施す。貼付文間にはL・Rによる矢羽根状燃赤側面圧痕文を施す。	胎土に繊維混入
354	64	関山	81区1例木	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁はやや内彎する。波状口縁か。口唇部は平らに面取り。口縁部文様帯は半軟竹管による平行沈線で渦巻きを描出し刻みを施した後、瘤状貼付文。	胎土に繊維混入
355	64	関山	81区O-20	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部はやや内彎ぎ状に面取り。1本引きの沈線手法による梯子状の文様を描出し、瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
356	64	関山	81区54土	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。褐色。	1本引きの手法による平行沈線と棒状工具による刻みを施す。沈線描出後、瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
357	64	関山	81区1例木	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁部文様帯と胴部を平行沈線によって区画。沈線間には一距刻みを施し、沈線上には瘤状貼付文。胴部地文はループ文か。	胎土に繊維混入
358	64	関山	81区O-19	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	半軟竹管による平行沈線と瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
359	65	関山	81区M-18	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部はやや内彎ぎ状に面取り。口縁部文様帯には瘤状貼付文を施す。口縁部以下は地文に縄文施文。	胎土に繊維混入
360	65	関山	81区O-18	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部はやや内彎ぎ状に面取り。口縁部文様帯には瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
361	65	関山	90区W-11	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段多条LRを横位施文後、瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
362	65	関山	表探	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部はやや内彎ぎ状に面取り。口縁部文様帯には半軟竹管による平行沈線文。沈線文間には瘤状貼付文。	胎土に繊維混入
363	65	関山	90区V-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁部文様帯と胴部を半軟竹管による平行沈線によって区画し、沈線上には瘤状貼付文。口縁部文様帯には半軟竹管による平行沈線で渦巻きを描出。胴部地文は0段多条LRを横位施文。	胎土に繊維混入

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
364	65	関山	81区N-19	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口唇部は内削ぎ状に面取り。口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で渦巻きを描出し沈線間には梯子状の刻みを施す。また瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
365	65	関山	81区33土 81区O-19	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口唇部は内削ぎ状に面取り。口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で渦巻きを描出し空間は梯子状の刻みを施す。また瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
366	65	関山	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	梯子状の沈線文に円形竹管文を施す。	胎土に繊維混入
367	65	関山	81区C-12	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	刻みのある隆帯に円形竹管文。	胎土に繊維混入
368	65	関山	81区N-18	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口唇部はやや内削ぎ状に面取り。口縁部文様帯には梯子状の文様と瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
369	65	関山	表探	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口唇部は内削ぎ状に面取り。口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で渦巻きを描出し空間は梯子状の刻みを施す。また瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
370	65	関山	81区O-19	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁部文様帯と胴部を半載竹管による平行沈線により区画し瘤状貼付文を施す。口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で曲線文様を描出し沈線間には梯子状の刻みを施す。また瘤状貼付文を施す。胴部地文はループ文か。	胎土に繊維混入
371	65	関山	表探	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。褐色。	口縁部文様帯と胴部を半載竹管による平行沈線により区画し瘤状貼付文を施す。口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で渦巻きを描出し空間は梯子状の刻みを施す。また瘤状貼付文を施す。胴部地文はループ文か。	胎土に繊維混入
372	65	関山	81区N-19	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁部文様帯と胴部を半載竹管による平行沈線により区画し瘤状貼付文を施す。口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で曲線文様を描出し沈線間には梯子状の刻みを施す。また瘤状貼付文を施す。胴部地文はループ文か。	胎土に繊維混入
373	65	関山	81区N-19	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁部文様帯と胴部を半載竹管による平行沈線により区画し瘤状貼付文を施す。口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で曲線文様を描出し梯子状の刻みを施す。また瘤状貼付文を施す。胴部地文はループ文か。	胎土に繊維混入
374	65	関山	81区O-19	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で曲線文様を描出し空間は梯子状の刻みを施す。また瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
375	65	関山	81区O-19	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁部文様帯と胴部を半載竹管による平行沈線により区画し瘤状貼付文を施す。口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で曲線文様を描出し沈線間には梯子状の刻みを施す。また瘤状貼付文を施す。	胎土に繊維混入
376	65	関山	81区B-11	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口唇部外面には摺状工具によるコンパス文。胴部には正と反の合巻による横状羽状縄文。	胎土に繊維混入

Ⅳ 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
377	65	関山	81区C-13	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁は単頭の成状口縁。口唇部外面には髷状工具によるコンパス文。胴部は正と反の合摺により横位施文。	胎土に繊維混入
378	65	関山	81区G-14	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁は直立して立ち上がる。口唇部はやや内前ぎ状に面取り。口縁外面には髷状工具による縦長のコンパス文を施す。	胎土に繊維混入
379	65	関山	81区55土	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁は直立して立ち上がる。口唇部はやや内前ぎ状に面取り。口縁外面には髷状工具による縦長のコンパス文を施す。	胎土に繊維混入
380	65	関山	90区Y-12	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	1・r各2本による組紐縄文を横位施文後、髷状工具による縦長のコンパス文を施す。	胎土に繊維混入
381	65	関山	90区W-10	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	1・r各2本による組紐縄文を横位施文後、髷状工具による縦長のコンパス文を施す。	胎土に繊維混入
382	65	関山	81区E-13	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口唇部外面にはやや縦長の半載竹管によるコンパス文。胴部はRLを横位施文。	胎土に繊維混入
383	65	関山	81区C-11	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁は若干内前ぎ味に立ち上がる。口唇部はやや丸みを帯びる。1・r各2本による組紐縄文を横位施文後、髷状工具によりコンパス文を施す。	胎土に繊維混入
384	65	関山	90区V-11	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	1・r各2本による組紐縄文を横位施文後、髷状工具による縦長のコンパス文を施す。	胎土に繊維混入
385	65	関山	81区20土	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。褐色。	半載竹管によるコンパス文。地文はRLによるループ文、或いは結節文。	胎土に繊維混入
386	65	関山	81区B-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	半載竹管によるコンパス文。	胎土に繊維混入
387	65	関山	81区B-12	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	半載竹管によるコンパス文。	胎土に繊維混入
388	65	関山	90区W-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	正と反の合摺か。	胎土に繊維混入
389	65	関山	81区B-13	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	正と反の合摺による横位羽状縄文。	胎土に繊維混入
390	65	関山	81区55土	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	正と反の合摺。	胎土に繊維混入
391	65	関山	81区A-12 81区B-12	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	正と反の合摺による横位羽状縄文。	胎土に繊維混入
392	65	関山	81区55土	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	正と反の合摺。	胎土に繊維混入
393	66	関山	81区N-17	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	多段の短足ループ文。	胎土に繊維混入
394	66	関山	81区N-18	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	やや足長の多段ループ文。	胎土に繊維混入
395	66	関山	81区O-20	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	足長ループ文。	胎土に繊維混入
396	66	関山	81区O-20	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	多段の短足ループ文。	胎土に繊維混入
397	66	関山	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。明赤褐色。	多段の短足ループ文。	胎土に繊維混入
398	66	関山	81区55土	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	0段多条LRを横位施文後、足長ループ文施文か。	胎土に繊維混入
399	66	関山	81区C-12	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	やや足長の多段ループ文。	胎土に繊維混入

2 遺構外の出土遺物

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
400	66	関山	81区F-13	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	1・r 各2本による組紐縄文を横位施文。	胎土に繊維混入
401	66	関山	81区C-12	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	1・r 各2本による組紐縄文を横位施文。	胎土に繊維混入
402	66	関山	81区J-14	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	1・r 各2本による組紐縄文を横位施文。	胎土に繊維混入
403	66	関山	81区B-12	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	1・r 各2本による組紐縄文を横位施文。	胎土に繊維混入
404	66	関山	81区B-13	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	1・r 各2本による組紐縄文を横位施文。上位にはループ文施文か。	胎土に繊維混入
405	66	関山	81区I-15	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	1・r 各2本による組紐縄文を横位施文。	胎土に繊維混入
406	66	関山	81区D-13 81区D-14	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	やや太めの原形1・r 各2本による組紐縄文を横位施文。	胎土に繊維混入
407	66	関山	81区J-14	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	1・r 各2本による組紐縄文を横位施文。	胎土に繊維混入
408	66	関山併行	90区U-9	深鉢	口縁～胴部	粒の細かい石英を少量含む。良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は平坦に面取り。口縁部は半截竹管の外皮もしくは棒状工具を使用し押引文を5条廻らす。胴部はRLによるやや足長のループ文を施す。	胎土に繊維混入
409	66	関山併行	81区D-12	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部はやや内閉ぎ状に面取り。縄文施文後、半截竹管による平行沈線文を横位・斜位に施す。	胎土に繊維混入
410	66	関山併行	81区F-13	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁外面には平行沈線。	胎土に繊維混入
411	66	関山併行	81区B-12	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	襷状工具による直線文と波状文。	胎土に繊維混入
412	66	関山併行	81区N-20	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	やや足長の多段ループ文。	胎土に繊維混入
413	66	関山併行	81区M-17	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	やや足長の多段ループ文。	胎土に繊維混入
414	66	関山併行	81区N-20	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	やや足長の多段ループ文。	胎土に繊維混入
415	66	関山併行	81区N-20	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	多段のループ文か。	胎土に繊維混入
416	66	関山併行	81区M-18	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	やや足長の多段ループ文。	胎土に繊維混入
417	66	関山併行	81区N-20	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	やや足長の多段ループ文。	胎土に繊維混入
418	66	関山併行	81区O-20	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	多段のループ文か。	胎土に繊維混入
419	66	関山併行	81区N-17	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段多糸Lによる通し結びか。	胎土に繊維混入
420	66	関山併行	81区O-18	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段多糸Lによる通し結びか。	胎土に繊維混入
421	66	関山併行	81区O-17	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段多糸Lによる通し結びか。	胎土に繊維混入

IV 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
422	66	岡山伊行	81区N-18	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段多糸による通し図結びか。	胎土に繊維混入
423	66	岡山伊行	81区O-18	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段多糸による通し図結びか。	胎土に繊維混入
424	67	黒浜・有尾	90区X-10	深鉢	口縁～胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は内閉ぎ状に面取り。器内内面は丁寧に調整を施すが凹凸あり。器内外面は半軟竹管を使用して平行沈線文により横帯の口縁部文様帯を区画し、文様帯内は半軟竹管による2条の波状文を施す。また平行沈線文や波状文の文様内、及び文様間には部分的に半軟竹管による爪形文を施す。	胎土に繊維混入 遺構外425と同一体
425	67	黒浜・有尾	90区X-10	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は内閉ぎ状に面取り。器内内面は丁寧に調整を施すが凹凸あり。器内外面は半軟竹管を使用し平行沈線文や波状文を描出する。	胎土に繊維混入 遺構外424と同一体
426	67	黒浜・有尾	81区B-9	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	棒状工具による沈線を9条施す。	胎土に繊維混入
427	67	黒浜・有尾	90区X-10	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	半軟竹管による平行沈線文を施す。	胎土に繊維混入
428	67	黒浜・有尾	81区B-11	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	棒状工具による平行沈線文を2条施す。内面は擦痕・繊維脱皮あり。	胎土に繊維混入
429	67	黒浜・有尾	81区A-11	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	棒状工具による平行沈線文を7条施す。内面は擦痕・繊維脱皮あり。	胎土に繊維混入
430	67	黒浜・有尾	90区W-10	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	半軟竹管内皮使用による沈線文と爪形文。内面は擦痕・繊維脱皮あり。	胎土に繊維混入
431	67	黒浜・有尾	90区W-10	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	半軟竹管内皮使用による沈線文。内面は擦痕あり。	胎土に繊維混入
432	67	黒浜・有尾	90区V-10	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	器内外面は9本単位の棒状工具による波状文を施す。	胎土に繊維混入
433	67	黒浜・有尾	90区X-10	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は内閉ぎ状に面取り。器内内面は丁寧に調整を施す。外面は8本単位の棒状工具による波状文を施す。	胎土に繊維混入
434	67	黒浜・有尾	90区X-9	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は内閉ぎ状に面取り。器内内面は丁寧に調整を施し滑沢がある。外面は8本単位の棒状工具による波状文を施す。	胎土に繊維混入 90区50土-1と同一体
435	67	黒浜・有尾	90区W-10	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	器内外面は11本単位の棒状工具による波状文を施す。	胎土に繊維混入
436	67	黒浜・有尾	90区V-10	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はLRの縄文で、平行沈線を施す。	
437	67	岡山～黒浜	81区M-17	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。不負。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は腕指と人差指の2本指で挟んで面取り・成形したように、先端がやや突る。口縁部は爪を横位施す。	胎土に繊維混入
438	67	岡山～黒浜	90区W-9	深鉢	口縁	やや粒の粗い長石を少量含む。良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は外閉ぎ状に面取り。口縁部は0段多糸LRを横位施す。	胎土に繊維混入

2 遺構外の出土遺物

番号	PL	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
439	67	関山～黒 浜	81区P-19	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 不良。黒褐色。	口唇部は平坦に面取り。口縁には外面径10mm、 内面径8mmの補修孔を穿つ。	胎土に繊維混入
440	67	関山～黒 浜	81区A-9	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部はやや丸みを帯 びる。口縁部は0段多糸RLを横位施文。	胎土に繊維混入
441	67	関山～黒 浜	81区B-12	深鉢	口縁	白色砂粒及び礫やや多 く含む。良好。黒褐 色。	口縁は若干外反する。口唇部は平坦に面取り。 口縁部はLRを横位施文。	胎土に繊維混入
442	67	関山～黒 浜	81区A-10	深鉢	口縁	白色砂粒及び礫やや多 く含む。良好。褐色。	口縁はやや外反する。口唇部は丸みを帯びる。 口縁部は0段3糸LRを横位施文。	胎土に繊維混入
443	67	関山～黒 浜	81区55土	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立し、口唇部は丸みを帯びる。 口縁部は0段多糸LR・RLによる横位羽状織 文を構成。	胎土に繊維混入
444	67	関山～黒 浜	90区Y-11	深鉢	口縁	やや粒の粗い長石を少 量含む。良好。黒褐 色。	口縁はやや外反する。口縁部は太めの扉体 RLを横位施文。	胎土に繊維混入
445	67	関山～黒 浜	81区L-17	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は平坦に面取り。 口縁部はLRを横位施文。	胎土に繊維混入
446	67	関山～黒 浜	81区B-10	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部はやや丸みを帯 びる。口縁部はRLを横位施文。	胎土に繊維混入
447	67	関山～黒 浜	90区Y-11	深鉢	口縁	白色砂粒及び礫やや多 く含む。良好。黒褐 色。	口縁はやや外反する。口唇部は平坦に面取り を施すが、丁字部に欠けやや被打つ。口縁部 は無文で器面荒れる。一方内面は丁字に器面 調整を施す。	胎土に繊維混入
448	67	関山～黒 浜	81区1倒木	深鉢	口縁～ 胴部	細砂粒をやや多く含 む。良好。赤褐色。	無節のLRとRLの菱形羽状織文を施文する。	
449	67	関山～黒 浜	81区1倒木	深鉢	口縁～ 胴部	細砂粒をやや多く含 む。良好。赤褐色。	無節のLRとRLの菱形羽状織文を施文する。	
450	67	関山～黒 浜	81区O-18	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含 む。良好。赤褐色。	無節のLRとRLの菱形羽状織文を施文する。	
451	67	関山～黒 浜	81区O-17	深鉢	胴部	石英粒及び礫やや多く 含む。良好。黒褐色。	0段多糸LR・RLによる横位羽状織文を構 成。器壁やや薄い。	長野系? 胎土に繊維混入
452	67	関山～黒 浜	90区V-9	深鉢	口縁	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は丸みを帯びる。 口縁部は0段多糸LRを横位・縦位施文。器 壁やや薄い。	長野系? 胎土に繊維混入
453	67	関山～黒 浜	81区O-20	深鉢	口縁	白色砂粒及び礫やや多 く含む。不良。黒褐 色。	口縁は外反する。口唇部は先端がやや尖る。 器面外面はやや荒れる。RLを横位施文か。	長野系? 胎土に繊維混入
454	67	関山～黒 浜	81区O-19	深鉢	口縁	白色砂粒を多く含む。 良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は平坦に面取り。器 面外面はやや荒れる。	長野系? 胎土に繊維混入
455	67	関山～黒 浜	81区O-19	深鉢	口縁	白色砂粒を多く含む。 良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は平坦に面取り。器 面外面はやや荒れる。	長野系? 胎土に繊維混入
456	67	関山～黒 浜	81区O-19	深鉢	口縁	白色砂粒を多く含む。 良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は平坦に面取り。器 面外面はやや荒れる。RLを横位・斜位に施 文。	長野系? 胎土に繊維混入
457	68	関山～黒 浜	81区33土	深鉢	胴部	石英粒及び礫やや多く 含む。良好。黒褐色。	0段多糸LR・RLによる横位羽状織文を構 成。器壁やや薄い。	長野系? 胎土に繊維混入
458	68	関山～黒 浜	81区B-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良 好。赤褐色。	無節のLRとRLの菱形羽状織文を施文する。	
459	68	関山～黒 浜	81区O-19	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。 良好。褐色。	0段3糸LRを横位施文。	胎土に繊維混入

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
460	68	岡山～黒 浜	81区A-11	深鉢	胴部	粒の粗い長石をやや多く含む。良好。黒褐色。	やや太めの原体LR・RLによる横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
461	68	岡山～黒 浜	81区B-12	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	距の細かい0段多糸LR・RLによる横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
462	68	岡山～黒 浜	81区A-10	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	LR・RLによる横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
463	68	岡山～黒 浜	90区Y-11	深鉢	胴部	やや粒の粗い長石を少量含む。良好。黒褐色。	太めの原体0段多糸LR・RLによる横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
464	68	岡山～黒 浜	81区B-8	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	L・Rによる横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
465	68	岡山～黒 浜	81区B-11	深鉢	胴部	微細砂粒を少量含む。良好。褐色。	0段多糸LR・RLによる横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
466	68	岡山～黒 浜	90区W-10	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	太めの原体0段多糸LR・RLによる変形羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
467	68	岡山～黒 浜	90区U-10 90区W-9	深鉢	胴部	雲母や長石を含む細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	地文はRLを施文する。	
468	68	岡山～黒 浜	81区B-14	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。褐色。	地文はRLの結節縄文を施文する。	
469	68	岡山～黒 浜	81区C-13	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。褐色。	地文はRLの結節縄文を施文する。	
470	68	岡山～黒 浜	90区X-10	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段多糸RLを横位施文。	胎土に繊維混入
471	68	岡山～黒 浜	81区C-11	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	LR・RLによる横位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
472	68	岡山～黒 浜	81区A-13	深鉢	胴部	白色砂粒を多く含む。不良。黒褐色。	0段多糸RLを横位施文。内面は繊維長痕顕著。	胎土に繊維混入
473	68	岡山～黒 浜	81区43土	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	やや太めの原体RLを横位施文。	胎土に繊維混入
474	68	岡山～黒 浜	81区B-11	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	距の細かい0段多糸LRを横位施文。	胎土に繊維混入
475	68	岡山～黒 浜	81区C-9	深鉢	胴部	白色及び黒色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	中位で大きくくびれる。Rを横位施文。	胎土に繊維混入
476	68	岡山～黒 浜	90区Y-10	深鉢	胴部	黒色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	器面外面はやや荒れる。Rを横位施文。	胎土に繊維混入
477	68	岡山～黒 浜	81区B-11	深鉢	白部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	底部は脚台を有する。脚台外面はRLを横位施文。底表面は丁寧に調整し無文。	胎土に繊維混入
478	68	岡山～黒 浜	81区O-19	深鉢	底部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	脚部が確立しない上げ底。底表面はRLを施文。底部直上の胴部外面はRLを横位施文。	胎土に繊維混入
479	68	岡山～黒 浜	81区K-17	深鉢	底部	微細砂粒を少量含む。良好。黒色。	底部の形態は平底。底表面及び底部直上外面はRLを施文。	胎土に繊維混入
480	68	岡山～黒 浜	81区B-10	深鉢	底部	粒の細かい石英を少量含む。良好。黒褐色。	底部の形態は平底。底表面は縄文施文か。	胎土に繊維混入
481	68	岡山～黒 浜	81区54土	深鉢	底部	白色砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	底部の形態はやや上げ底。底表面は丁寧に調整し無文。底部直上外面は0段多糸RLを横位施文。	胎土に繊維混入

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
482	68	関山～黒 浜	90区Y-11	深鉢	底部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒色。	底部の形態は平底。底裏面は丁寧に調整し無文。	胎土に繊維混入
483	68	関山～黒 浜	表採	深鉢	底部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒色。	底部の形態はやや上げ底。底裏面は丁寧に調整し無文。底部直上外面はRLを横位施文。	胎土に繊維混入
484	68	関山～黒	81区O-19	深鉢	底部	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	底裏面は無文。やや上げ底。脚部を有するかは不明。	胎土に繊維混入
485	68	関山～黒 浜	90区W-13	深鉢	底部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒色。	底部の形態は平底。底裏面は無文。	胎土に繊維混入
486	68	関山～黒 浜	81区B-12	深鉢	底部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	底裏面は無文。形態は平底。底部直上の胴部外面はRLを横位施文。	胎土に繊維混入
487	68	関山～黒 浜	90区39土 浜 90区40土	深鉢	底部	白色砂粒を少量含む。 良好。黒褐色。	底部の形態はやや上げ底。底裏面は無文で、丁寧に調整は施さない。底部直上胴部外面は0段多糸LR・RLにより縦位羽状縦文を構成。	胎土に繊維混入
488	68	関山～黒 浜	81区B-10	深鉢	底部	微細砂粒を少量含む。 良好。黒色。	底部の形態は脚部を有する上げ底。底裏面は無文。底部直上外面はRLを横位施文。	胎土に繊維混入
489	69	講磯a	81区C-13 81区C-14	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。 にぶい赤褐色。	施文はRLの縄文で、平行沈線を施文する。円形押圧文を施文する。	
490	69	講磯a	81区O-19	深鉢	胴部	雲母を含む細砂粒をや や多く含む。良好。赤 褐色。	横位と斜位の平行沈線と円形刺突文で米字文を描く。	
491	69	講磯a	81区A-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良 好。橙色。	施文はRLの縄文で、横位と斜位の平行沈線で米字文を描く。	
492	69	講磯a	81区B-11	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含 む。良好。橙色。	横位と斜位の平行沈線で米字文を描く。	
493	69	講磯a	90区29土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良 好。灰褐色。	斜位の平行沈線で米字文を描く。	
494	69	講磯a	90区39土 90区X-9	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良 好。赤褐色。	口縁下部に連続爪形文を施し、胴部には斜位の平行沈線と縦位に円形刺突文で米字文を描く。	
495	69	講磯a	81区P-19	深鉢	口縁	砂粒を多く含む。普通。 明赤褐色。	口縁下部に連続爪形文を施し、胴部には斜位の平行沈線と円形刺突文で米字文を描く。	遺構外496・501 と同一個体
496	69	講磯a	81区O-19	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。普通。 明赤褐色。	斜位の平行沈線と円形刺突文で米字文を施文する。	遺構外495・501 と同一個体
497	69	講磯a	81区B-11	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒 をやや多く含む。良好。 にぶい褐色。	胴部は半軟竹管による横位の連続爪形文や斜位の条線を施文する。	
498	69	講磯a	90区V-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良 好。橙色。	胴部は半軟竹管による横位の連続爪形文や斜位の平行沈線を施文する。	
499	69	講磯a	90区40土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良 好。赤褐色。	口縁部は半軟竹管による横位の連続爪形文や斜位の平行沈線を施文する。	
500	69	講磯a	81区P-19	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含 む。良好。橙色。	口縁部は半軟竹管による横位の連続爪形文や斜位の平行沈線を施文する。	
501	69	講磯a	表採 81区表採	深鉢	口縁～ 胴部	砂粒を多く含む。普通。 明赤褐色。	口縁下部に連続爪形文を施し、胴部には斜位の平行沈線と円形刺突文で米字文を描く。	遺構外495・496 と同一個体
502	69	講磯a	90区X-11	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良 好。赤褐色。	横位の集合沈線を施文する。	
503	69	講磯a	90区40土	深鉢	口縁	細砂粒を多く含む。良 好。にぶい褐色。	集合沈線を施文する。	
504	69	講磯a	81区C-13 81区C-14	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良 好。にぶい褐色。	平行沈線と円形刺突文で動背文を描く。	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
505	69	踏碇a	90KE-T-10	深鉢	口縁	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	平行沈線や円形刺突文で筋骨文を描く。	
506	69	踏碇a	81KE-C-12	深鉢	口縁	砂粒を多く含む。良好。褐色。	波状文と横位の平行沈線を交互に施文する。	
507	69	踏碇a	81KEA-14	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	波状文と円形刺突文を施文する。	
508	69	踏碇a	81KEB-11	深鉢	口縁	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	波状文と横位の平行沈線を交互に施文する。	
509	69	踏碇a	90KE39土	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	口縁部は半截竹管による横位の連続爪形文、円形刺突文を施文する。	
510	69	踏碇a	81KEA-11 81KEA-2	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	波状文と横位の平行沈線を交互に施文する。	
511	69	踏碇a	81KEP-18	深鉢	口縁	細砂粒を含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は外側に肥厚し、横位の平行沈線と波状文を施文する。	
512	69	踏碇a	90KEV-9	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の平行沈線と波状文、円形刺突文を施文する。	
513	69	踏碇a	90KEV-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	地文はRLの縄文で、横位の集合沈線と円形刺突文を施文する。	
514	69	踏碇a	90KEV-9	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文で、横位の平行沈線と波状文、円形刺突文を施文する。	
515	69	踏碇a	90KE-T-10 90KEV-10	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	横位の平行沈線と波状文、円形刺突文を施文する。	
516	69	踏碇a	81KEP-10	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。普通。赤褐色。	地文はRLの縄文で、波状文を施文する。	
517	69	踏碇a	90EX-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	地文はRLの縄文で、波状文を施文する。	
518	69	踏碇a	90EW-9	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	半截竹管で木葉文+区画文を描く。	
519	69	踏碇a	81KEP-19	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁部は半截竹管で木葉文+区画文を描く。	
520	69	踏碇a	81KE-14	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。褐色。	地文はLRの縄文で、半截竹管で木葉文+区画文を描く。	胎土に繊維混入
521	69	踏碇a	90KEV-10	深鉢	胴部	小礫や細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	地文はRLの縄文で、半截竹管で木葉文+区画文を描く。	
522	69	踏碇a	90EX-13	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	胴部は半截竹管で木葉文+区画文を描く。	
523	69	踏碇a	81KEA-11	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	地文はLRの縄文で、横位と弧状の平行沈線で木葉文+区画文を描く。	
524	69	踏碇a	90EW-11	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	地文はLRの縄文で、横位と弧状の平行沈線で木葉文+区画文を描く。	
525	70	踏碇a	81KEO-19	深鉢	口縁	砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	連続爪形文と円形刺突文を施文する。	
526	70	踏碇a	81KEA-11	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。黒褐色。	地文はRLの縄文で、円形刺突文を施文する。	
527	70	踏碇a	81KEA-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、円形刺突文を施文する。	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
528	70	踏破a	90KW-9	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	胴部は半截竹管による横位の連続爪形文を施文する。	
529	70	踏破a	90KV-10	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	半截竹管による横位の連続爪形文を施文する。	
530	70	踏破a	90KW-10	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁下部に押印縄文を施す。	
531	70	踏破a	81KB-12 81KB-13	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	胴部は半截竹管による横位の連続爪形文を施文する。	
532	70	踏破a	81KB-14	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	横位の平行沈線を施文する。	
533	70	踏破a	90KW-11	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	横位の平行沈線を施文する。	胎土に繊維混入
534	70	踏破a	90EX-11	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は波状を呈し、口唇部に刺突文と沈線を施文する。	
535	70	踏破a	90EX-10	深鉢	口縁	細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	平行沈線を施文する。	
536	70	踏破a	81KA-11	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	横位の平行沈線を施文する。	
537	70	踏破a	90KV-9	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文で、横位の平行沈線を施す。	
538	70	踏破a	81KE-14	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部はやや外反し、地文はRLの縄文を施文する。	
539	70	踏破a	81BE-11	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は波状を呈し、地文はRLの縄文を施文する。口縁下部に、刺突文を施す。	
540	70	踏破a	81K57土	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。赤褐色。	口縁部は外反し、地文はRLの縄文である。	
541	70	踏破a	81KG-13	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文を施文する。	
542	70	踏破a	90KW-10	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部はやや外反し、地文はRLの縄文を施文する。	
543	70	踏破a	81KD-13	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。黒褐色。	地文はRLの縄文を施文する。	
544	70	踏破a	90CX-9	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は外反し、無文である。	
545	70	踏破a	81KC-14	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。にぶい橙色。	地文はRLの縄文を施文する。	
546	70	踏破a	81KB-10	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。黒褐色。	地文はRLの縄文である。	
547	70	踏破a	81KC-14	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	地文はLRの縄文を施文する。	
548	70	踏破a	81KBv11	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。明赤褐色。	地文はRLの縄文である。	
549	70	踏破a	81KE-13	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	地文はLRの縄文を施文する。	
550	70	踏破a	90KW-10	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	地文は無文で、肩曲部に横位の隆帯を貼付する。	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
551	70	踏碇a	81EKD-13	深鉢	底部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文である。	
552	70	踏碇a	90EW-10	深鉢	底部	細砂粒を含む。良好。赤褐色。	無文である。底径6.8cmを測る。	
553	70	踏碇a	81EA-11	深鉢	底部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	地文はLRの縄文を施文する。底径7.0cmを測る。	
554	70	踏碇a	90EW-13	深鉢	底部	砂粒を多く含む。良好。褐色。	底部が上げ底を呈する。底径6.4cmを測る。	
555	70	踏碇a	90EX-11	深鉢	底部	細砂粒と小礫を多量に含む。良好。明赤褐色。	地文はLRの縄文を施文する。	
556	70	踏碇a	90EV-10	深鉢	底部	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	地文はRLの縄文を施文する。	
557	70	踏碇a	81EC-12	深鉢	底部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はLRの縄文を施文する。底径5.4cmを測る。	
558	71	踏碇b	90EV-9	深鉢	口縁	小礫と細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	口縁部は波状を呈する。地文はRLの縄文で、半截竹管で直線や文様を描く。	
559	71	踏碇b	81EA-11 81ED-13	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、連続爪形文で文様を描く。	
560	71	踏碇b	90EY-19	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。褐色。	連続爪形文と浮線文で文様を描く。	
561	71	踏碇b	81ED-14	深鉢	口縁	細砂粒を含む。良好。にぶい黄褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
562	71	踏碇b	90E39土	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	連続爪形文と斜位刺突を持つ浮線文で文様を描く。	
563	71	踏碇b	90EX-12	深鉢	胴部	細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ横帯と横位の連続爪形文を施文する。	
564	71	踏碇b	81ED-14	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	連続爪形文と円形刺突文で文様を描く。	
565	71	踏碇b	81EC-13	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文と円形刺突文で文様を描く。	
566	71	踏碇b	81EC-14	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文と円形刺突文で文様を描く。	
567	71	踏碇b	81EC-13	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
568	71	踏碇b	表塚 90EY-11	深鉢	口縁	砂粒を含む。良好。黒褐色。	口縁部は波状を呈し、連続爪形文で文様を描く。	
569	71	踏碇b	81EA-13	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
570	71	踏碇b	81EC-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
571	71	踏碇b	81EE-14	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
572	71	踏碇b	81EB-13	深鉢	胴部	小礫を含む。砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
573	71	踏碇b	90EX-10	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文で文様を描く。穿孔有り。	
574	71	踏碇b	表塚 81EB-11	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
575	71	踏碇b	81EB-11	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文で文様を描く。	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
576	71	踏碇b	81区C-14	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	地文はR.Lの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
577	71	踏碇b	81区D-13	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。にぶい褐色。	地文はL.Rの縄文で、連続爪形文と刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
578	71	踏碇b	81区B-11	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
579	71	踏碇b	81区B-12 81区D-13	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	連続爪形文間に列点文を施す。	
580	71	踏碇b	81区B-12	深鉢	口縁	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
581	71	踏碇b	81区B-11	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	口縁部は液状を呈し、連続爪形文間に押圧文を施す。	
582	71	踏碇b	81区B-11	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部に押圧文を施し、連続爪形文と斜位の押圧文を持つ浮線文、平行沈線を施文する。	
583	71	踏碇b	81区C-12	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
584	71	踏碇b	81区O-19	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
585	71	踏碇b	81区A-12 81区B-12	深鉢	口縁	砂粒を含む。良好。黒褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
586	71	踏碇b	90区33土	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	連続爪形文と隆帯と沈線で文様を描く。	
587	71	踏碇b	90区U-10	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	連続爪形文間に刻みを持つ浮線文を施す。	
588	71	踏碇b	81区C-14 81区D-13	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	連続爪形文間に刻みを持つ浮線文と斜位刺突を施す。	
589	71	踏碇b	81区D-14	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	連続爪形文と斜位刺突で文様を描く。	
590	71	踏碇b	81区B-14	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	連続爪形文と円形刺突文、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
591	72	踏碇b	81区A-11	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。にぶい黄褐色。	連続爪形文と円形刺突文で文様を描く。	
592	72	踏碇b	81区C-13	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
593	72	踏碇b	81区A-12	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。暗灰黄色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
594	72	踏碇b	81区A-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	連続爪形文と斜位刺突で文様を描く。	
595	72	踏碇b	90区CX-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
596	72	踏碇b	90区V-10	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
597	72	踏碇b	表探	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
598	72	踏碇b	90区Y-11	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文で文様を描く。	
599	72	踏碇b	90区40土	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
600	72	踏碁b	90区Y-13	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	連続爪形文と斜位刺突で文様を描く。	
601	72	踏碁b	81区C-13	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文と斜位刺突で文様を描く。	
602	72	踏碁b	81区B-13	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	連続爪形文と斜位刺突で文様を描く。	
603	72	踏碁b	81区C-13	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文と斜位刺突で文様を描く。	
604	72	踏碁b	81区B-12	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
605	72	踏碁b	81区A-14	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。暗灰黄色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
606	72	踏碁b	81区B-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
607	72	踏碁b	81区C-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
608	72	踏碁b	81区E-14	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
609	72	踏碁b	90区Y-11	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。褐色。	連続爪形文と刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
610	72	踏碁b	81区B-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄色。	連続爪形文と刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
611	72	踏碁b	90区Y-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	地文はLRの縄文で、連続爪形文と斜位刺突文を施文する。	
612	72	踏碁b	81区E-14	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	連続爪形文間に斜位刺突を施す。	
613	72	踏碁b	81区B-11	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	横位の平行沈線文と刻みを持つ隆帯を貼付する。	
614	72	踏碁b	90区表探	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	平行沈線文を施文する。	
615	72	踏碁b	81区A-11	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	斜位や横位の平行沈線文を施文する。	
616	72	踏碁b	81区K-16	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	斜位や横位の平行沈線文で文様を描く。	
617	72	踏碁b	81区C-13 81区P-14	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	平行沈線文で文様を描く。	
618	72	踏碁b	90区X-6	深鉢	口縁	砂粒を含む。良好。赤褐色。	平行沈線文を施文する。	
619	72	踏碁b	81区A-11	深鉢	胴部	細砂粒を含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、横位の沈線文を施文する。	
620	72	踏碁b	81区O-19 81区P-19	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	横位や弧状の平行沈線文で文様を描く。	
621	72	踏碁b	81区O-19	浅鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	屈曲部に横位の沈線文を施文する。	
622	72	踏碁b	表探	浅鉢	胴部	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	横位の沈線文を施文する。	

2 遺構外の出土遺物

番号	PL	時期	出土位置	器種	部位	粘土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
623	72	縄文b	81EKO-19	浅鉢	胴部	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	横位の沈線を施文する。	
624	72	縄文b	81EKN-18	深鉢	胴部	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	列点文と爪形文で木葉文を描く。	
625	72	縄文b	90EV-10	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	変形連続爪形文と平行沈線を施文する。	
626	73	縄文b	81EC-12	深鉢	口縁	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
627	73	縄文b	90EY-12 90EY-13	深鉢	口縁	砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、イノシシ形小突起がつく。刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
628	73	縄文b	81E1 集石 81EC-12	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。黄褐色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
629	73	縄文b	90EX-10	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文と沈線で文様を描く。	
630	73	縄文b	81EC-11	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
631	73	縄文b	90EW-10	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
632	73	縄文b	81EB-12	深鉢	口縁	砂粒を若干含む。良好。明黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
633	73	縄文b	81EB-11	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
634	73	縄文b	90EW-13	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
635	73	縄文b	81EC-12	深鉢	口縁	砂粒を含む。良好。明褐色。	口唇部に押圧文を施し、小波状口縁を呈する。口縁下部に刻みを施し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
636	73	縄文b	81EA-11 90EY-11	深鉢	口縁	小礫をやや多く含む。良好。明黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
637	73	縄文b	81ED-12	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
638	73	縄文b	81EB-12	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。暗灰色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
639	73	縄文b	81EA-11	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
640	73	縄文b	90EX-11	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はLRの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
641	73	縄文b	81ED-13	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。明褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
642	73	縄文b	90EY-11	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
643	73	縄文b	表深	深鉢	胴部	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
644	73	縄文b	81EA-11	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	粘土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
645	73	諸磯b	71区A-25	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
646	73	諸磯b	81区C-11	深鉢	胴部	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
647	73	諸磯b	90区34土	深鉢	胴部	雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
648	73	諸磯b	81区A-12 90区Y-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
649	73	諸磯b	81区A-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
650	73	諸磯b	81区A-11	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
651	73	諸磯b	81区A-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
652	73	諸磯b	81区57土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。普通。黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
653	74	諸磯b	81区D-13	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	地文はLRの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。内面に炭化物が付着。	
654	74	諸磯b	81区D-13	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
655	74	諸磯b	81区A-11	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。内面に炭化物が付着。	
656	74	諸磯b	81区C-14	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
657	74	諸磯b	90区Y-11	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
658	74	諸磯b	90区W-12	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
659	74	諸磯b	81区D-13	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
660	74	諸磯b	81区A-11	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。浅黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
661	74	諸磯b	81区A-11 90区Y-9	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
662	74	諸磯b	90区W-9	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
663	74	諸磯b	90区Y-11	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
664	74	諸磯b	81区C-14	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
665	74	諸磯b	81区C-14	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
666	74	諸磯b	71区B-25	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
667	74	踏碁b	81EKD-14	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
668	74	踏碁b	90EY-10	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
669	74	踏碁b	81EB-11	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。内面に炭化物が付着。	
670	74	踏碁b	90EY-11	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
671	74	踏碁b	81EA-11	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
672	74	踏碁b	90EW-10	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
673	74	踏碁b	81EC-13	深鉢	胴部	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
674	74	踏碁b	81EA-11 90EY-11	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
675	74	踏碁b	90EY-11	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
676	74	踏碁b	81EA-1	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。灰黒褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
677	74	踏碁b	81EA-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
678	74	踏碁b	81EC-13	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
679	74	踏碁b	81EB-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
680	74	踏碁b	90EY-11	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。橙褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
681	74	踏碁b	81EA-12	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
682	74	踏碁b	表探	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文と円形刺突文で文様を描く。	
683	74	踏碁b	90EY-11	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
684	74	踏碁b	90EX-11	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
685	74	踏碁b	81EB-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
686	74	踏碁b	81EA-11	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。浅黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。円形浮文を貼付する。	
687	74	踏碁b	81E35土	深鉢	胴部	雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
688	74	踏碁b	81EA-12	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	

IV 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	粘土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
689	74	諸磯b	81区A-13	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
690	75	諸磯b	81区C-11	深鉢	底部	砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
691	75	諸磯b	81区C-11	深鉢	底部	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
692	75	諸磯b	81区A-11	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
693	75	諸磯b	81区A-13	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	刻みを持つ浮線文と列点文で文様を描く。	
694	75	諸磯b	81区A-13	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	刻みを持つ浮線文と列点文で文様を描く。	
695	75	諸磯b	81区B-10	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。明黄褐色。	地文はRLの縄文で、平行沈線を施文する。	
696	75	諸磯b	81区B-9	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
697	75	諸磯b	90区Y-10	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	浮線文で文様を描く。	
698	75	諸磯b	81区E-13	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	口唇部に斜位列突を施文する。地文はLRの縄文で、斜位列突を施文する。	
699	75	諸磯b	90区16土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文を施文する。	
700	75	諸磯b	81区B-1	深鉢	口縁	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁は波状を呈し、地文はRLを施文する。	
701	75	諸磯b	90区Y-3	深鉢	口縁	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明黄褐色。	地文はLRの縄文を施文する。	
702	75	諸磯b	81区C-11	深鉢	口縁	雲母を含む細砂粒を若干含む。普通。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文を施文する。	
703	75	諸磯b	81区A-11	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの結節縄文で、横位の平行沈線を施す。	
704	75	諸磯b	81区A-12	深鉢	胴部	砂粒を多量に含む。良好。暗褐色。	地文はLRの縄文を施文する。	
705	75	諸磯b	81区15土	深鉢	胴部	白色粒子と小礫をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文で、横位の平行沈線を施す。	
706	75	諸磯b	90区CX-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	地文はRLの縄文で、横位の平行沈線を施す。	
707	75	諸磯b	90区CX-9	深鉢	底部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	条線を施文する。	
708	75	諸磯c	81区O-19	深鉢	胴部	礫と細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部の地文には横位の平行沈線を施した後に、棒状の縦長となる貼付文を施す。	
709	75	諸磯c	81区P-19	深鉢	胴部	小礫と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は外反する。口縁部の地文には、横位の平行沈線を施した後に、棒状の縦長となる貼付文を施す。	
710	75	諸磯c	81区54土	深鉢	胴部	小礫を多く含む。良好。黒褐色。	口縁部の地文には横位の平行沈線を施した後に、棒状の縦長となる貼付文を施す。	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	粘土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
711	75	縄文c	81区O-19 81区P-18	深鉢	口縁	小礫をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁の内側は肥厚し、斜位の沈線を描いた後で、耳たぶ状・ボタン状貼付文を施す。口縁部の地文には、横位の平行沈線を描いた後で、棒状の縦長となる貼付文を施す。	
712	76	縄文c	81区O-19	深鉢	口縁	礫と細砂粒を多く含む。良好。褐色。	口縁部の地文には、斜位の平行沈線を描いた後、耳たぶ状・ボタン状貼付文を規則的に配する。	
713	76	縄文c	81区O-19	深鉢	口縁	礫と細砂粒を多く含む。良好。褐色。	口縁部の地文には、斜位の平行沈線を描いた後、耳たぶ状・ボタン状貼付文を施す。	
714	76	縄文c	81区48土	深鉢	口縁	礫と細砂粒を多く含む。良好。褐色。	口縁部の地文には、斜位の平行沈線を描いた後、耳たぶ状・ボタン状貼付文を施す。	
715	76	縄文c	81区O-18	深鉢	口縁	礫と細砂粒を多く含む。良好。褐色。	口縁部の地文には、斜位の平行沈線を描いた後、耳たぶ状・ボタン状貼付文を施す。	
716	75	縄文c	81区O-19	深鉢	口縁	礫と細砂粒を多く含む。良好。褐色。	口縁部に耳たぶ状貼付文を施す。	
717	76	縄文c	81区O-19	深鉢	口縁	礫と細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁部に耳たぶ状・ボタン状貼付文を規則的に施す。	
718	76	縄文c	81区O-19	深鉢	口縁	礫と細砂粒を多く含む。良好。褐色。	口縁部の地文には、斜位の平行沈線を描いた後、耳たぶ状・ボタン状貼付文を施す。	
719	76	縄文c	81区O-19	深鉢	口縁	礫と細砂粒を多く含む。良好。褐色。	口縁部の地文には、斜位の平行沈線を描いた後、耳たぶ状・ボタン状貼付文を施す。	
720	75	縄文c	81区O-19	深鉢	口縁	礫と細砂粒を多く含む。良好。褐色。	口縁部の地文には、斜位の平行沈線を描いた後、ボタン状貼付文を施す。	
721	76	縄文c	81区O-18	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁部は波状を呈し、口縁下部には沈線、口唇部には白字状の粘土を貼付する。	
722	76	縄文c	81区A-14	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文は平行沈線で、連続爪形文で文様を描く。	
723	76	縄文c	90区CX-10	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文は平行沈線で、連続爪形文で文様を描く。	
724	76	縄文c	81区O-19	深鉢	口縁～ 胴部	小礫や細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁は外反し、大きな4単位の波状を呈する。地文には横位の平行沈線が施される。波節部を中心に2個を1単位とした渦巻文が結節浮線文によって描出される。波節部や渦巻文にはボタン状貼付文が施される。胴部上半と口縁端部に沿って2本1単位の結節浮線文が施されて文様帯を区画する。胴部下半には斜位の平行沈線とボタン状貼付文によって施される。	
725	76	縄文c	81区O-18	深鉢	胴部	小礫を少量含む。良好。褐色。	胴部に斜位の平行沈線を描いた後、ボタン状貼付文を施す。	
726	76	縄文c	81区45土	深鉢	胴部	小礫を少量含む。良好。褐色。	胴部に斜位の平行沈線を描いた後、ボタン状貼付文を施す。	
727	76	縄文c	81区A-11	深鉢	口縁	小礫を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は肥厚し、口縁下部に平行沈線を描く。胴部に弧状の平行沈線による文様を施す。	
728	76	縄文c	81区O-19	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。褐色。	胴部に斜位の平行沈線を描く。	
729	76	縄文c	90区W-11	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。黄褐色。	地文に斜位の沈線を描いた後、ボタン状貼付文を施す。下部には横位の沈線を描く。	
730	76	十三書提	81区O-18	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部の内外面を肥厚する。胴部は斜位の集合沈線を描いた後、口縁下部に平行沈線を描く。	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
731	76	十三善提	81区55土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	胴部には横位の平行沈線を描いた後、格子目状沈線を描く。	
732	76	十三善提	81区56土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	地文にはLR縄文を施文した後、横位と弧状の平行沈線と斜位の集合沈線を描く。	
733	76	十三善提	81区56土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒を含む。良好。にぶい褐色。	胴部には横位の平行沈線を描いた後、格子目状沈線を描く。	
734	76	十三善提	81区54土	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	地文にはLR縄文を施文した後、三角状の平行沈線と格子目状沈線を描く。	
735	76	十三善提	81区54土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	胴部には横位の平行沈線間に、格子目状沈線を描く。	
736	76	十三善提	81区P-18 81区P-19	深鉢	胴部	小礫と砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	地文にはLR縄文を施文した後、横位の平行沈線間に矢羽根沈線を描いた文様帯とハート形に区画された平行沈線間に斜位の集合沈線を描く文様帯を描く。	
737	76	十三善提	81区55土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	胴部には横位の平行沈線を描いた後、格子目状沈線を描く。	
738	76	十三善提	81区54土	深鉢	胴部	金雲母と細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	胴部には格子目状の集合沈線を描く。	
739	76	十三善提	81区54土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	地文にはLR縄文を施文した後、横位と弧状の平行沈線と格子目状沈線を描く。	
740	76	十三善提	81区35土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	胴部には斜位の集合沈線を描いた後、弧状の沈線で区画する。	
741	76	十三善提	81区55土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	地文にはLR縄文を施文した後、斜位と横位の平行沈線を描く。	
742	76	十三善提	81区54土	深鉢	胴部	長石と細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文にはLR縄文を施文した後、横位と弧状の平行沈線と格子目状沈線を描く。	
743	76	十三善提	81区55土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	地文にはLR縄文を施文した後、斜位と横位の平行沈線と格子目状沈線を描く。	
744	76	十三善提	81区55土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	胴部には横位の平行沈線を描いた後、格子目状沈線を描く。	
745	76	十三善提	81区55土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	胴部には弧状の平行沈線と格子目状沈線を描く。	
746	76	十三善提	81区55土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	胴部には横位の平行沈線と弧状の平行沈線で区画された中に格子目状沈線を描く。	
747	77	十三善提	81区56土	深鉢	胴部	雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	胴部には格子目状の集合沈線を描く。	
748	77	十三善提	81区48土	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文にはLR縄文を施文した後、横位と扇歯状の平行沈線を描く。	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
749	77	十三善撰	90KW-10 90Y-11	深鉢	胴部	小礫・細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は外反し、胴部に横位の平行沈線と列点文、V字状の隆帯を貼付する。	
750	77	十三善撰	81区A-12	深鉢	胴部	小礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	胴部に横位の集合沈線と列点文を施す。	
751	77	十三善撰	81区55土	深鉢	胴部	細砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	胴部には横位と弧状の平行沈線と三角印刷を施す。	
752	77	十三善撰	81区O-19	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	胴部に斜位の集合沈線を施した後、三角印刷を施す。	
753	77	十三善撰	81区48土	深鉢	胴部	雲母・細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	胴部には斜位と横位の集合沈線を施す。	
754	77	十三善撰	81区O-19	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	胴部に斜位と横位の平行沈線を施した後、三角印刷を施す。	
755	77	十三善撰	81区N-17	深鉢	胴部	雲母・細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	胴部に斜位と横位の集合沈線を施す。	
756	77	十三善撰	81区O-19	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は外側に肥厚し、口唇下部に三角印刷を施す。胴部は横位の平行沈線を施す。	
757	77	十三善撰	81区B-11	深鉢	口縁	砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部に押圧文を施し、胴部に横位の集合沈線を施す。	
758	77	十三善撰	90EX-11	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口唇部に平軌竹管による爪形文を施す。胴部には平行沈線を施す。	
759	77	十三善撰	90EX-12	深鉢	口縁	砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部内面に肥厚する。胴部には斜位の隆帯を貼付した後、横位と斜位の沈線を施す。	
760	77	十三善撰	81区40土	深鉢	口縁	砂粒を含む。良好。明赤色。	口縁部外面に肥厚する。胴部には格子目状沈線を施す。	
761	77	十三善撰	90CY-11	深鉢	底部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	横位と斜位の平行沈線と押圧文を施す。	
762	77	五領ヶ台	81区B-14	深鉢	口縁	小礫と砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	波頂部で、口唇部に棒状工具による押圧文が施される。地文はS字状結節を持つR.Lの縄文を施す。	
763	77	五領ヶ台	81区B-14	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。淡黄色。	口唇部には押圧文、口縁部には横位の平行沈線と隆帯を貼付する。隆帯上に押圧文を施す。	
764	77	五領ヶ台	90区31土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁部は内外面に肥厚し、外面にLRの縄文を施し、胴部に斜位の条線を施す。	
765	77	五領ヶ台	81区14土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は内面に肥厚し、口唇部に長方形の粘土帯を貼付する。胴部には横位の沈線を施す。	
766	77	五領ヶ台	81区D-14	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。灰黄色。	口唇部には押圧文を施し、外面には横位の角押文と沈線を施す。	
767	77	五領ヶ台	90区30土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	弧状の隆帯を貼付する。	
768	77	五領ヶ台	81区A-14	深鉢	口縁	砂粒を含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、斜位の条線を施す。	
769	77	五領ヶ台	90区30土	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。赤褐色。	格子目状沈線、隆帯、条線で文様を描出する。	
770	77	五領ヶ台	90CY-12	深鉢	口縁	金雲母と細砂粒を多量に含む。良好。明赤褐色。	地文は縄文で、横位の沈線を施す。	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
771	77	五領ヶ台	81区B-12	深鉢	口縁	細砂粒を含む。良好。赤褐色。	平行沈線と刺突文を施す。	
772	77	五領ヶ台	81区C-12	深鉢	口縁	砂粒を含む。良好。褐色。	横位の沈線と棒状工具による押圧文を施す。	
773	77	五領ヶ台	81区D-14	深鉢	口縁	砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	横位の沈線と刺突文を施す。	
774	77	五領ヶ台	81区A-12	深鉢	口縁	細砂粒を含む。良好。褐色。	口縁部は外面に肥厚し、縦位の集合沈線を施す。	
775	77	五領ヶ台	81区A-12	深鉢	口縁	細砂粒を含む。良好。赤褐色。	口唇部は棒状工具で斜位に押し、外面は横位の沈線に刺突文を施す。	
776	77	五領ヶ台	81区A-11	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は波状で、内外面に棒状浮文を貼付する。外面には平行沈線を施す。	
777	77	五領ヶ台	81区B-14	深鉢	口縁	砂粒を含む。良好。にぶい褐色。	縦位の条線を施文した後、交差する隆帯を貼付し、刺突文を施す。	
778	77	五領ヶ台	81区表採	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	平行沈線や弧状の隆帯、格子目状沈線、レンズ状沈線で文様を構成する。	
779	77	五領ヶ台	81区E-9	深鉢	胴部	雲母と細砂粒を含む。良好。暗褐色。	地文はLRの縄文で、横位の平行沈線と縦位の沈線を施す。	
780	78	五領ヶ台	81区P-19	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	沈線と隆帯で文様帯を構成する。	
781	78	五領ヶ台	90区Y-11	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	平行沈線と刺突文を施す。	
782	78	五領ヶ台	81区C-12	深鉢	胴部	小礫と細砂粒を含む。良好。にぶい褐色。	渦巻き状の隆帯とそれを囲う円形の沈線。平行沈線を施す。	
783	78	五領ヶ台	90区Y-11	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯で文様帯を区画し、横位や矢羽根状沈線、刺突文で文様帯を構成する。	
784	78	五領ヶ台	表採	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。にぶい褐色。	横位の条線を施文した後、交差する隆帯を貼付し、刺突文を施す。	
785	78	五領ヶ台	90区Y-11	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。黄褐色。	三角形の隆帯を貼付した後、平行沈線とRLの縄文を施文する。	
786	78	五領ヶ台	90区Y-11	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。明赤褐色。	横位の隆帯、波状文、平行沈線の間に押圧文を施す。	
787	78	五領ヶ台	表採	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	平行沈線と刺突文、波状文を施す。	
788	78	五領ヶ台	81区A-12 90区Y-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	横位の条線と刺突文を施す。	赤色塗彩
789	78	五領ヶ台	81区A-11	深鉢	胴部	白色粒子和細砂粒を多く含む。良好。褐色。	地文はRの熱赤を施文し、弧状の沈線を施す。	
790	78	五領ヶ台	表採	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	沈線と隆帯と刺突文で文様帯を構成する。	
791	78	五領ヶ台	81区C-12	深鉢	胴部	小礫と細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	角押文を施す。	
792	78	五領ヶ台	90区Y-11	深鉢	胴部	細砂粒を含む。良好。赤褐色。	斜位の隆帯を貼付する。	
793	78	五領ヶ台	81区B-12	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。にぶい赤褐色。	地文はLRの縄文を施文した後、縦位の平行沈線を施す。	
794	78	五領ヶ台	90区W-13	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	ブリッジ状の隆帯と鈍行する隆帯を貼付した後、集合沈線や刺突文を施文する。	

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
795	78	五領ヶ台	81区A-10	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	縦位の沈線と刺突文を施す。	
796	78	五領ヶ台	81区A-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	縦位の集合沈線と刺突文を施す。	
797	78	阿玉台	81区C-13	深鉢	口縁	金雲母と細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口唇部と口縁下部に角押文を施す。	
798	78	阿玉台	90区Y-11	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	円形の角押文を施す。	
799	78	阿玉台	81区I1土	深鉢	口縁	小礫と砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	横位の隆帯を貼付し、複列の角押文を施す。	
800	78	阿玉台	81区P-20	深鉢	口縁	砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	波頂部で、縦長の隆帯を貼付する。	
801	78	阿玉台	81区B-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	レンズ状に列点文を施す。	
802	78	阿玉台	81区C-12	深鉢	胴部	小礫や砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	爪形状に粘土を貼付して押圧文を施す。	
803	78	阿玉台	81区C-13	深鉢	胴部	小礫や砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	爪形状に粘土を貼付して押圧文を施す。	
804	78	阿玉台	81区1側木	深鉢	胴部	小礫と砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の押圧文を施す。	
805	78	阿玉台	81区C-11	深鉢	胴部	小礫や砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の隆帯を貼付して文様帯を区画し、上部には半蝕竹管よる爪形文や刺突文、下部には斜位や波状の沈線で文様を施す。	
806	78	勝坂	90区W-10	深鉢	口縁	小礫や細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁下部に横位の隆帯を貼付し、胴部には複列の角押文を施す。	
807	78	勝坂	81区O-19	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は液状を星し、列点文を施す。	
808	78	勝坂	81区A-11	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁下部に横位の隆帯を貼付し、上部は斜位の集合沈線で、下部は波状の沈線を施す。	
809	78	勝坂	81区A-12	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	隆帯と沈線で文様帯を構成する。	

平安時代遺構外出土土器観察表 (第126図)

番号	P.L.	器種	出土位置	計測値(cm)	復元状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	器形・製作技法の特徴
1	79	須恵器 羽釜	81区B-14	高[4.3]	図示部小片	①素地普通。細礫混じりの粗砂の混入多い。②還元焼。羽釜としては硬調。③灰黄2.5Y6/2。外面淡い黒炭広い。	内外面ともロクロ痕らしい横位擦痕で外面で明瞭。露の取り付も丁寧でしっかりしている。
2	79	須恵器 羽釜	81区E-14	高[4.7]	図示部小片	①素地普通。1に類似する。②酸化塩気味だが、比較的硬調。③浅黄2.5Y7/3で断面まではほぼ一様。④内面の磨滅すむ。	露は小さい。外面ロクロ痕らしい横位比較の明瞭。
3	79	須恵器 杯	81区C-14 81KD-14	底(8.0) 高[2.8]	図示部の1/4	①軽量の素地で混入物少ない。②還元焼やや軟調だが、薄手のため焼き締まる。③灰黄2.5Y7/2で外面一部灰色味が強い。④内底の磨滅すむ。	薄手で軽量。右回転ロクロ→回転赤切り無調整。ロクロ痕強い。

Ⅳ 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

中世遺構外出土土器観察表 (第127・128図)

番号	P L	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調・特徴	備考
1	79	81区D-14・81区F-14	土鍋	口縁	灰石・細砂粒を含む。良好。暗褐色。	
2	79	90区Y-12	土鍋	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	
3	79	81区B-13	土鍋	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	
4	79	81区A-12・90区Y-12	土鍋	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	
5	79	81区K-19	土鍋	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	
6	79	90区V-11	土鍋	口縁	細砂粒と小礫を含む。良好。にぶい黄褐色。	
7	79	81区B-12	土鍋	口縁	細砂粒を僅かに含む。良好。黒褐色。	
8	79	90区W-11	土鍋	口縁	細砂粒を多く含む。良好。黄褐色。	
9	79	81区B-14	土鍋	口縁	白色粒子を少量含む。良好。にぶい褐色。	
10	79	81区A-13	土鍋	口縁	細砂粒を僅かに含む。良好。褐色。	
11	79	81区M-20	土鍋	口縁	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	
12	79	90区X-13	土鍋	口縁	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	
13	79	81区B-14	土鍋	口縁	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	
14	79	90区W-11	土鍋	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	
15	79	81区B-12	土鍋	口縁	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	
16	79	90区W-10	土鍋	胴部	細砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	
17	79	81区C-14	土鍋	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	
18	79	90区W-11	土鍋	胴部	細砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	
19	79	90区V-11・90区W-11	土鍋	胴部～底部	細砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	
20	79	90区T-9	土鍋	胴部～底部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	
21	79	90区V-11	土鍋	内耳	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	
22	79	90区S-8	土鍋	内耳	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	
23	79	90区Y-12	土鍋	胴部～底部	細砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	

近世・近現代遺構外出土土器観察表 (第129図)

番号	P L	出土位置	種類	器種	部位	計測値	輪の特徴	その他	生産地	時期・備考
1	79	81区M-19	陶器	碗	口縁		外面高台部のみなし。	灰オリーブ色。		明治
2	79	81区M-17	陶器	碗	口縁		青磁	オリーブ灰色。		13C
3	79	81区K-18	陶器	碗	胴部			オリーブ灰色。蓮弁B2類。		14C後半
4	79	81区A-3	陶器	碗	胴部		青磁	オリーブ灰色。		
5	79	81区A-12	陶器	碗	胴部～底部	底径4.8cm	外面明下半部のみなし。	灰白色。模成堅平。高台貼付。	尾呂	
6	79	81区表探	陶器	碗	胴部～底部	底径4.8cm	外面高台部のみなし。	灰オリーブ色。焼成堅平。高台貼付。	古	18C
7	79	表探	陶器	皿	胴部～底部	底径5.6cm		灰白色。染付。模成堅平。高台貼付。		明治
8	79	90区V-5	陶器	灯明皿	口縁～底部	底径4.6cm	内外面に輪付着。外面の輪は部分的。	褐色。焼成堅平。外面はケズリ痕。	瀬戸	18C後半～19C前半
9	79	表探	陶器	灯明皿	胴部～底部	底径4.8cm	内面のみ。	灰オリーブ色。焼成堅平。外面にケズリ痕。		16C末

近世・近現代遺構外出土土器観察表 (第129図)

番号	P L	出土位置	種類	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③火皿径(mm)④重量(g)	備考
10	80	表探	キセル	43 12	5.1
11	80	90区Y-12	キセル	56 15 16	4.0
12	80	90区V-12	キセル	53 15 15	7.6

近世・近現代遺構外出土土器観察表 (第129図)

番号	P L	出土位置	種類	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	備考
13	80	90区X-11	かんざし	72 2~7 2	2.3

2 遺構外の出土遺物

近世・近現代遺構外出土遺物観察表 (第129図)

番号	P.L.	時代	出土位置	銭名	初鑄年	①直径(mm)②厚さ(mm)③穿径(mm)④重量(g)				備考
14	80	北宋	81区B-14	元豊通宝	1078	23	1	7	1.5	
15	80	宋	81区G-13	永樂通宝		23	1	6	1.6	
16	80		81区表採	寛永通宝		23	1	7	2.4	新寛永
17	80		81区W-4	寛永通宝		23	1	7	2.2	新寛永

近世・近現代遺構外出土遺物観察表

番号	P.L.	出土位置	種類	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				備考
18	80	90区U-8	釘	73	9	9	32.8	
19	80	90区X-10	釘	52	8	4	5.6	
20	80	81区C-13	釘	106	4	4	8.3	
21	80	81区表採	釘	42	10	9	11.9	
22	80	81区C-13	鉄製品	73	10	5	12.3	
23	80	81区F-14	鉄砲玉	12	12		6.5	
24	80	81区D-14	鉄砲玉	14	11		10.7	
25	80		鉄砲玉	12	12		8.6	
26	80	81区C-12	骨角器	36	6		2.4	
27	80	81区J-17	桃の種	23	18		0.6	
28	80	81区N-14	桃の種	28	22	19	1.5	2片

遺構外出土石器計測表 (第130～147図)

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重さ(g)				石材	備考
1	81	81区B-12	石鏃	A	24	16	4	1.4	珪質頁岩	
2	81	90区Y-10	石鏃	A	21	11	6	1.3	黒曜石	
3	81	81区N-19	石鏃	A	16	15	4	0.7	チャート	
4	81	90区W-11	石鏃	A	24	18	8	2.5	黒色安山岩	
5	81	81区56土	石鏃	A	22	15	6	1.6	珪質頁岩	
6	81	90区Y-12	石鏃	A	18	16	6	1.3	黒曜石	
7	81	90区W-10	石鏃	A	24	15	7	1.5	碧玉	
8	81	90区V-10	石鏃	A	18	14	4	0.9	碧玉	
9	81	81区D-14	石鏃	A	(15)	15	4	0.7	珪質安山岩	
10	81	81区D-14	石鏃	A	17	(12)	3	0.5	黒曜石	
11	81	81区D-14	石鏃	A	16	18	4	0.8	黒曜石	
12	81	81区B-11	石鏃	B	39	26	6	5.9	珪質頁岩	
13	81	81区B-12	石鏃	B	34	23	4	2.1	チャート	
14	81	90区X-11	石鏃	B	30	15	4	1.2	チャート	
15	81	90区Y-12	石鏃	B	28	16	5	1.4	凝灰質頁岩	
16	81	81区C-14	石鏃	B	24	22	5	1.5	赤チャート	
17	81	81区1 鋼木	石鏃	B	24	17	3	1.0	黒曜石	
18	81	81区A-12	石鏃	B	23	19	3	0.7	黒曜石	
19	81	90区V-8	石鏃	B	23	14	4	0.9	珪質安山岩(凝灰岩)	
20	81	81区A-13	石鏃	B	21	17	4	0.9	黒曜石	
21	81	90区V-9	石鏃	B	22	15	5	1.3	玉髓	
22	81	90区Y-10	石鏃	B	24	13	4	0.9	黒曜石	
23	81	81区J-16	石鏃	B	21	17	3	0.6	黒曜石	
24	81	90区Y-11	石鏃	B	21	13	3	0.6	黒曜石	
25	81	81区A-12	石鏃	B	21	15	4	0.7	赤チャート	
26	81	81区A-12	石鏃	B	21	13	5	1.1	赤チャート	
27	82	90区V-9	石鏃	B	21	19	3	0.8	黒曜石	
28	82	81区表採	石鏃	B	19	18	4	1.1	黒曜石	
29	82	81区D-14	石鏃	B	21	15	4	0.8	黒曜石	
30	82	表採	石鏃	B	19	14	4	0.7	黒曜石	
31	82	90区U-10	石鏃	B	19	16	4	1.1	黒曜石	
32	82	90区W-10	石鏃	B	16	15	4	0.6	細粒安山岩	
33	82	81区N-18	石鏃	B	17	15	4	0.8	黒曜石	
34	82	81区C-12	石鏃	B	18	15	4	0.7	黒曜石	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
35	82	90区Y-12	石蔵	B	16	16	4	0.5	チャート	
36	82	81区B-13	石蔵	B	16	17	3	0.7	黒色安山岩	
37	82	81区C-1	石蔵	B	20	13	3	0.7	珧質安岩	
38	82	90区X-13	石蔵	B	19	15	3	0.5	黒曜石	
39	82	90区Y-12	石蔵	B	17	13	5	0.6	碧玉	
40	82	81区A-13	石蔵	B	17	14	4	0.4	チャート	
41	82	81区B-9	石蔵	B	21	11	4	0.6	安山岩	
42	82	81区9土	石蔵	B	19	12	4	0.6	黒曜石	
43	82	81区B-8	石蔵	B	17	13	3	0.5	チャート	
44	82	90区Y-7	石蔵	B	10	11	4	0.6	チャート	
45	82	81区P-19	石蔵	B	16	13	4	0.6	珧質安岩	
46	82	90区V-10	石蔵	B	23	12	3	0.5	黒曜石	
47	82	81区表様	石蔵	B	16	13	3	0.5	黒曜石	
48	82	81区B-13	石蔵	B	16	12	5	0.5	黒曜石	
49	82	81区C-8	石蔵	B	15	12	3	0.2	黒曜石	
50	82	81区A-12	石蔵	B	14	11	4	0.4	黒曜石	
51	82	81区B-9	石蔵	B	14	10	2	0.3	黒曜石	
52	82	81区N-18	石蔵	B	13	14	3	0.4	黒曜石	
53	82	90区V-7	石蔵	B	12	15	4	0.4	黒曜石	
54	82	81区1銅木	石蔵	B	12	15	3	0.3	黒曜石	
55	82	81区C-8	石蔵	B	12	11	3	0.1	黒曜石	
56	82	81区C-13	石蔵	B	14	11	3	0.3	黒曜石	
57	82	90区W-10	石蔵	B	13	13	2	0.2	黒曜石	
58	82	81区D-9	石蔵	B	13	11	3	0.4	珧質安岩	
59	82	81区B-9	石蔵	B	11	10	3	0.1	黒曜石	
60	82	81区A-9	石蔵	B	12	9	3	0.1	黒曜石	
61	82	81区E-10	石蔵	B	13	10	2	0.3	珧質安岩	
62	82	81区B-8	石蔵	B	12	12	2	0.2	黒曜石	
63	82	90区Y-12	石蔵	B	17	9	3	0.2	黒曜石	
64	82	表様	石蔵	B	12	10	4	0.2	黒曜石	
65	83	90区W-10	石蔵	B	(25)	17	4	1.1	珧質安岩	
66	83	90区W-13	石蔵	B	27	17	4	1.2	珧質安岩	
67	83	90区W-12	石蔵	B	28	14	6	1.5	チャート	
68	83	81区B-14	石蔵	B	26	15	4	1.1	黒曜石	
69	83	81区N-19	石蔵	B	28	27	4	1.3	安山岩	
70	83	81区D-13	石蔵	B	24	(13)	3	1.2	安山岩	
71	83	81区P-14	石蔵	B	25	18	5	1.0	珧質安岩(元凝灰岩)	
72	83	81区O-18	石蔵	B	(26)	17	5	1.7	珧質安岩	
73	83	81区A-9	石蔵	B	(27)	(12)	(4)	1.3	珧質安岩	
74	83	81区55土	石蔵	B	(21)	(18)	4	1.0	珧質安岩	
75	83	90区3土	石蔵	B	25	14	5	1.5	チャート	
76	83	81区B-13	石蔵	B	(24)	14	4	0.8	黒曜石	
77	83	81区B-13	石蔵	B	21	22	5	2.0	珧質安岩	
78	83	81区B-12	石蔵	B	22	23	4	1.9	黒曜石	
79	83	90区Y-11	石蔵	B	18	19	5	1.4	珧質安岩(元凝灰岩)	
80	83	90区X-12	石蔵	B	19	18	4	1.2	チャート	
81	83	81区E-13	石蔵	B	18	19	5	1.5	黒曜石	
82	83	81区M-18	石蔵	B	21	18	4	1.3	チャート	
83	83	81区64土	石蔵	B	(17)	17	4	1.0	碧玉	
84	83	81区B-11	石蔵	B	18	18	5	1.0	黒曜石	
85	83	81区N-17	石蔵	B	17	14	4	0.8	チャート	
86	83	90区X-11	石蔵	B	23	(15)	4	0.7	凝灰質安岩	
87	83	81区A-12	石蔵	B	21	15	4	0.9	黒曜石	
88	83	81区O-20	石蔵	B	22	(14)	4	0.9	黒曜石	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
89	83	81区P-19	石鏝	B	23	12	3	0.6	黒曜石	
90	83	81区C-13	石鏝	B	(20)	15	4	0.7	チャート	
91	83	90区W-11	石鏝	B	23	15	5	0.8	珪質頁岩(元凝灰岩)	
92	83	90区Y-11	石鏝	B	23	15	4	1.0	珪質安質岩(元凝灰岩)	
93	83	90区Y-11	石鏝	B	19	16	3	0.6	珪質頁岩	
94	83	90区Y-12	石鏝	B	22	15	4	0.8	頁岩	
95	84	81区O-19	石鏝	B	20	17	4	1.0	黒曜石	
96	84	81区表採	石鏝	B	22	(14)	3	1.1	赤チャート	
97	84	81区B-13	石鏝	B	17	15	3	0.7	黒曜石	
98	84	90区V-10	石鏝	B	20	14	5	0.7	黒曜石	
99	84	81区B-11	石鏝	B	21	12	4	0.7	黒曜石	
100	84	表採	石鏝	B	20	(14)	4	0.7	黒曜石	
101	84	90区X-8	石鏝	B	18	13	4	0.7	黒曜石	
102	84	90区W-9	石鏝	B	17	19	3	0.6	黒曜石	
103	84	81区A-11	石鏝	B	21	14	4	0.6	黒曜石	
104	84	90区Y-9	石鏝	B	(14)	18	5	1.0	碧玉	
105	84	表採	石鏝	B	14	16	4	0.9	黒曜石	
106	84	81区B-12	石鏝	B	15	13	4	0.6	黒曜石	
107	84	90区X-8	石鏝	B	16	16	4	0.6	珪質安質岩(元凝灰岩)	
108	84	90区U-9	石鏝	B	(12)	14	4	0.7	黒曜石	
109	84	90区X-10	石鏝	B	9	17	4	0.4	チャート	
110	84	90区Y-11	石鏝	B	8	17	4	0.4	黒曜石	
111	84	81区B-13	石鏝	B	16	14	5	0.8	珪質頁岩	
112	84	81区D-14	石鏝	B	15	14	3	0.4	黒曜石	
113	84	90区Y-10	石鏝	B	17	13	3	0.4	黒曜石	
114	84	81区41土	石鏝	B	16	10	4	0.5	黒曜石	
115	84	81区E-14	石鏝	B	(11)	13	4	0.5	黒曜石	
116	84	81区J-15	石鏝	B	19	12	4	0.5	安山岩	
117	84	81区A-11	石鏝	B	19	10	3	0.3	珪質安質岩	
118	84	90区X-10	石鏝	B	20	9	3	0.4	黒曜石	
119	84	81区A-8	石鏝	B	15	12	3	0.4	黒曜石	
120	84	表採	石鏝	B	19	12	2	0.4	黒曜石	
121	84	81区A-10	石鏝	B	17	15	5	0.8	黒曜石	
122	84	81区E-14	石鏝	B	(14)	11	3	0.5	珪質安質岩	
123	84	81区A-12	石鏝	B	(13)	12	3	0.3	黒曜石	
124	84	90区Y-12	石鏝	B	18	11	4	0.4	黒曜石	
125	84	81区C-11	石鏝	B	16	(10)	2	0.3	珪質安質岩(元凝灰岩)	
126	84	81区B-10	石鏝	B	15	9	3	0.3	黒曜石	
127	84	表採	石鏝	B	13	14	3	0.3	黒曜石	
128	84	表採	石鏝	B	14	14	4	0.5	黒曜石	
129	84	81区A-12	石鏝	B	(14)	10	3	0.3	黒曜石	
130	84	90区Y-10	石鏝	B	(14)	11	3	0.4	黒曜石	
131	84	81区B-12	石鏝	B	(15)	13	2	0.3	黒曜石	
132	84	81区A-9	石鏝	B	13	8	2	0.1	チャート	
133	84	81区A-9	石鏝	B	7	9	2	0.2	黒曜石	
134	85	81区D-14	石鏝	C	30	21	8	3.6	珪質安質岩	
135	85	81区B-11	石鏝	C	(24)	13	4	0.8	チャート	
136	85	81区B-12	石鏝	C	29	11	5	1.7	安山岩	
137	85	81区E-14	石鏝	D	23	18	4	1.0	珪質安質岩	
138	85	90区W-10	石鏝	D	(24)	(20)	2	0.8	黒曜石	局部磨製石鏝
139	85	90区Y-9	石鏝	D	(19)	22	4	1.3	珪質安質岩(元凝灰岩)	
140	85	81区A-12	石鏝	D	16	12	2	0.2	黒曜石	局部磨製石鏝

IV 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

番号	P.L	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
141	85	90区Y-11	石皿	E	22	22	4	1.0	黒色安山岩	
142	85	81区B-13	石皿	E	18	18	4	0.9	チャート	
143	85	90区V-10	石皿	E	25	(19)	4	1.2	チャート	
144	85	81区E-14	石皿	E	20	18	3	0.5	チャート	
145	85	表探	石皿	E	17	17	3	0.6	黒曜石	
146	85	81区B-12	石皿	E	13	12	3	0.5	黒曜石	
147	85	90区X-13	石皿	E	(12)	15	4	0.4	黒曜石	
148	85	81区A-12	石皿	E	17	12	3	0.5	黒曜石	
149	85	81区F-14	石皿	E	14	9	2	0.2	黒曜石	
150	85	81区表探	石皿	F	25	19	6	2.8	水晶	未製品
151	85	90区W-7	石皿	F	24	18	7	2.0	チャート	
152	85	表探	石皿	F	21	15	3	0.8	頁岩	
153	85	81区C-12	石皿	F	15	14	4	0.7	黒曜石	
154	85	90区X-8	石皿	F	17	11	3	0.5	珪質変質岩(元凝灰岩)	
155	85	90区V-6	石皿	F	16	13	3	0.5	細粒安山岩	
156	85	81区B-13	石皿	F	16	12	4	0.6	黒曜石	
157	85	81区B-12	石皿	F	(8)	14	4	0.4	黒曜石	
158	86	81区C-14	石匙	瓶型	76	35	6	14.0	黒色頁岩	
159	86	81区A-12	石匙	瓶型	71	29	12	17.0	黒色頁岩	
160	86	81区M-17	石匙	瓶型	52	29	4	6.0	細粒安山岩	
161	86	81区N-17	石匙	瓶型	37	29	11	12.0	黒色頁岩	
162	86	81区B-12	石匙	瓶型	56	(69)	15	34.0	黒色頁岩	
163	86	81区O-19	石匙	瓶型	40	60	11	21.0	黒色頁岩	
164	86	81区A-11	石匙	瓶型	39	48	10	12.1	珪質変質岩	
165	86	81区33土	石匙	瓶型	37	49	11	9.1	珪質変質岩	
166	86	81区P-19	石匙	瓶型	28	53	5	7.0	珪質変質岩	
167	86	81区E-13	石匙	瓶型	35	60	10	19.9	珪質変質岩	
168	86	81区O-19	石匙	瓶型	44	45	6	12.0	黒色頁岩	
169	86	81区D-13	石匙	瓶型	38	42	10	16.8	安山岩	
170	86	81区B-11	石匙	瓶型	32	46	5	7.0	安山岩	
171	86	81区O-20	石匙	瓶型	27	38	7	6.0	黒曜石	
172	86	81区E-14	石匙	瓶型	34	29	4	3.6	珪質頁岩	
173	87	90区Y-3	ドリル		56	28	7	13.1	黒色頁岩	
174	87	81区A-9	ドリル		39	29	5	5.5	黒色安山岩	
175	87	81区C-14	ドリル		27	14	7	2.1	珪質変質岩	
176	87	81区B-13	ドリル		25	18	5	2.2	黒色頁岩	
177	87	90区X-9	ドリル		41	9	6	2.2	珪質頁岩	
178	87	81区A-10	ドリル		29	8	7	1.5	碧玉	
179	87	90区Y-11	ドリル		30	9	6	0.9	チャート	
180	87	81区C-12	ドリル		21	8	3	0.5	黒曜石	
181	87	90区32土	ドリル		22	7	3	0.5	黒曜石	
182	87	90区Y-9	ドリル		21	30	5	2.7	チャート	未製品
183	87	81区N-18	ドリル		26	12	6	2.0	チャート	未製品
184	87	81区M-15	石槍		82	29	9	22.8	頁岩	
185	87	表探	スタレイバー		65	62	13	46.5	黒色頁岩	
186	87	90区X-11	スタレイバー		55	87	17	58.5	黒色安山岩	
187	87	81区J-15	スタレイバー		46	81	18	60.0	珪質変質岩(元凝灰岩)	
188	87	81区A-12	スタレイバー		42	80	10	32.5	黒色安山岩	
189	87	90区X-12	スタレイバー		46	64	12	36.5	黒色頁岩	
190	87	81区A-8	スタレイバー		42	62	12	43.5	安山岩	
191	87	90区X-10	スタレイバー		41	62	12	30.0	凝灰岩	
192	87	90区Y-9	スタレイバー		43	15	12	26.0	黒色頁岩	
193	87	81区A-11	スタレイバー		53	50	9	21.0	黒色頁岩	
194	87	81区E-14	スタレイバー		28	45	13	14.3	チャート	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
195	87	81区A-10	スタレイバー		25	41	7	5.6	黒曜石	
196	87	81区B-11	スタレイバー		38	27	10	10.1	黒曜石	
197	87	90区Y-11	スタレイバー		49	30	18	21.6	珧質安山岩	新潟か東北の石材
198	87	81区N-18	スタレイバー		78	22	7	15.2	珧質頁岩	新潟か東北の石材
199	88	81区表採	スタレイバー		58	32	7	19.5	黒色頁岩	
200	88	81区I-17	スタレイバー		60	29	7	14.0	黒色頁岩	
201	88	81区M-15	スタレイバー		44	29	11	13.4	黒色頁岩	草創期?
202	88	81区A-10	スタレイバー		60	21	7	12.5	珧質安山岩(元凝灰岩)	
203	88	81区A-13	スタレイバー		47	24	4	3.5	黒色頁岩	

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①直径(mm)	②孔径(mm)	③高さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
204	88	90区W-9 90区W-11	石鈿		30	9	5	6.2	滑石	耳飾り・前期
205	88	81区M-19	石鈿		38	5	6	5.1	滑石	耳飾り
206	88	90区V-6	石鈿		19	60	15	5.7	滑石	耳飾り
207	88	81区C-14	石鈿				14	0.8	滑石	

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
208	88	90区U-6	異形石器		31	22	8	5.2	頁岩	
209	88	90区Y-12	打製石斧		126	55	18	158.8	細粒安山岩	
210	88	81区48土	打製石斧		106	48	16	93.5	黒色頁岩	早期
211	88	81区2土	打製石斧	バチ	68	50	11	30.0	黒色頁岩	
212	88	90区U-10	打製石斧		75	30	12	43.7	黒色頁岩	
213	88	90区X-12	打製石斧		(74)	66	11	62.0	黒色安山岩	
214	88	81区D-12	打製石斧		82	45	19	77.2	黒色頁岩	
215	88	90区U-10	鹿伏石器		98	45	14	60.7	黒色頁岩	
216	88	81区E-13	鹿伏石器		82	46	15	64.4	黒色頁岩	前期
217	88	81区F-13	鹿伏石器		72	45	18	62.5	黒色頁岩	前期
218	88	90区33土	鹿伏石器		76	47	16	39.5	黒色頁岩	
219	88	81区1側木	鹿伏石器		67	41	14	42.5	頁岩	
220	88	90区15土	鹿伏石器		59	32	12	26.5	頁岩	
221	88	90区X-10	鹿伏石器		43	28	9	10.0	珧質安山岩(元凝灰岩)	
222	88	81区A-12	鹿伏石器		82	39	14	42.5	黒色頁岩	
223	88	81区B-9	鹿伏石器		60	47	13	44.3	黒色頁岩	
224	88	90区V-12	鹿伏石器		52	34	12	22.0	黒色頁岩	
225	88	90区W-10	鹿伏石器		41	24	11	8.0	珧質安山岩(元凝灰岩)	
226	89	90区X-10	磨製石斧		166	48	32	406.1	蛇紋岩	
227	89	90区40土	磨製石斧		111	65	34	494.8	蛇紋岩	
228	89	81区A-12	磨製石斧		113	58	34	430.9	輝緑岩	
229	89	81区A-12	磨製石斧		(120)	(43)	36	311.9	輝緑岩	
230	89	90区X-13	磨製石斧		(92)	41	31	93.4	輝緑岩	
231	89	90区V-10	磨製石斧		(73)	38	31	129.8	輝緑岩	
232	89	90区V-10	磨製石斧		(90)	(50)	31	175.3	輝緑岩	
233	89	81区E-14	磨製石斧		(53)	34	26	34.9	輝緑岩	
234	89	表採	磨製石斧		(47)	(31)	(7)	11.4	輝緑岩	
235	89	81区C-12	磨製石斧		(42)	(27)	(11)	15.4	輝緑岩	
236	89	81区C-13	磨製石斧		(30)	(17)	(8)	41.0	蛇紋岩	
237	89	81区D-14	磨製石斧		(21)	(24)	(4)	219.0	輝緑岩	
238	89	81区A-12	凹み石		121	83	43	674.6	粗粒輝石安山岩	
239	89	81区B-13	凹み石		103	79	45	493.0	輝石安山岩	
240	89	81区A-12	凹み石		112	80	35	519.0	粗粒輝石安山岩	
241	90	81区A-12	凹み石		125	60	38	448.7	安山岩	
242	90	90区Y-11	凹み石		139	83	47	708.0	粗粒輝石安山岩	

IV 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
243	90	81区C-13	凹み石		106	76	41	442.9	ゲイサイト	
244	90	81区B-12	凹み石		106	52	50	503.7	安山岩	
245	90	81区C-14	凹み石		(69)	59	31	164.5	安山岩	
246	90	81区1割水	凹み石		102	60	23	162.5	安山岩	
247	90	90区Y-12	凹み石		105	98	30	429.3	粗粒輝石安山岩	
248	90	81区A-10	凹み石		115	82	35	538.3	粗粒輝石安山岩	
249	90	81区B-12	凹み石		105	76	43	442.3	粗粒輝石安山岩	
250	90	81区B-14	凹み石		103	63	35	361.5	粗粒輝石安山岩	
251	91	表採	凹み石		109	64	34	319.2	安山岩	
252	91	81区B-11	凹み石		78	62	49	304.0	粗粒輝石安山岩	
253	91	81区B-12	凹み石		107	78	48	570.9	粗粒輝石安山岩	
254	91	90区Y-11	凹み石		90	73	37	321.8	安山岩	
255	91	81区C-13	凹み石	(74)	95	47	47	361.1	粗粒輝石安山岩	
256	91	81区C-13	凹み石		114	66	32	376.1	安山岩	
257	91	90区39土	凹み石		91	67	41	364.6	安山岩	
258	91	81区B-12	凹み石		63	59	27	203.0	粗粒輝石安山岩	
259	91	90区Y-11	凹み石		84	38	74	313.4	粗粒輝石安山岩	
260	91	90区S-8	凹み石	(81)	(79)	38	432.2	粗粒輝石安山岩		
261	92	表採	凹み石		85	71	(49)	276.5	安山岩	
262	92	81区L-15	凹み石		83	53	37	164.0	粗粒輝石安山岩	
263	92	81区C-12	磨石		98	88	63	598.6	安山岩	
264	92	81区M-15	磨石		97	72	39	398.9	安山岩	
265	92	81区55土	磨石		83	77	31	278.0	ゲイサイト	
266	92	表採	叩き石		121	57	41	360.3	安山岩	
267	92	81区B-10	叩き石	(100)	45	23	159.8	粗粒輝石安山岩	叩き石か	
268	92	表採	叩き石	(47)	31	25	53.0	ヒン岩		
269	92	90区Y-12	石皿	(118)	(90)	31	670.5	緑色片岩		
270	92	81区F-13	石皿	(125)	(127)	54	700.0	安山岩		
271	92	90区15土	石皿	(262)	(236)	109	9,600.0	安山岩	礎石に転用	
272	92	90区15土	石皿	(311)	(223)	83	6,700.0	安山岩		
273	92	90区W-11	石皿	(155)	(165)	75	2,500.0	安山岩		
274	92	90区W-12	砥石	66	20	18	43.0	流紋岩(砥沢石)		
275	92	90区Y-13	砥石			8	8.5	流紋岩		
276	92	81区C-11	砥石		31	16	5	3.3	流紋岩	

番号	P.L.	出土位置	器種	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	特徴
277	93	81区B-12	石臼	258	(269)	90	5,800.0	安山岩	上臼、3/4破片、挽目左回りで6分割、供給口は方形、挽手穴形状は方形か、芯穴は下方部からの円形穿孔で深さ2.3cm、直径2.5cm。
278	93	81区B-12	石臼	(172)		70	4,700.0	粗粒輝石安山岩	上臼2/5破片、使用による摩耗が認められる。挽目左回りで6分割か、挽手穴形状は方形か、ふむみが浅い。
279	93	90区Y-11	石臼	(245)	(184)	142	5,200.0	安山岩	上臼1/4破片、6分割か、供給口は方形、挽手穴形状は方形、芯穴は下方部からの円形穿孔、深さ4cm、直径3cm。
280	93	90区X-11	石臼	(80)	(256)	(82)	1,500.0	安山岩	上臼1/6、欠損部が多いため分割不明。
281	93	90区X-11	石臼	284	286	130	15,000.0	安山岩	下臼、ほぼ完形、挽目左回り、6分割。

V まとめと課題

1 縄文時代の三平Ⅰ・Ⅱ遺跡

藤巻 幸男

(1) はじめに

本遺跡では、縄文時代草創期後半から中期勝飯1式にわたる遺物と、前期後半磯式期の住居2軒および土坑49基と多数の陥穴が発見された。このうち土坑は前期後半の土器が出土しているものも多く、当該期に所属するようである。また、各時期の出土遺物量は、居住地を伴うほどの出土量は認められない(表8)。つまり、居住地としての利用度は僅かであるにもかかわらず、縄文時代の前半期といふかなり長い期間にわたって利用されたことが、本遺跡の特徴である。そこには、どのような理由があるのだろうか。

ここでは、周辺の遺跡動向を交えながら、本遺跡がこの地域の中でどのような役割を担ったのかを考えてみたい。なお、ここでは三平Ⅰ・Ⅱ遺跡を1地点として扱う。

(2) 遺跡周辺の地形と特性

本遺跡がある長野原町東部は、吾妻川沿いに小さな平坦地が点在する山地である。遺跡のほとんどはこの平坦地に分布しており、その点では居住適地が地形的に限定された地域とも言えよう。

平坦地は吾妻川とその両岸から流れ込む小河川によって形成された段丘・扇状地で、最上位段丘面を除いてその大半は、約2万年前の応桑泥流発生以後に形成されたとされている。このうち、中位・下位段丘面にはローム層の堆積が認められない。つまり、吾妻川沿いの平坦地の多くは、地形的には新しく形成された部分で、その後も山側からの崩落が幾重にも重なって、川側に向く傾斜地になっている。

また、この平坦地には湧水点を伴う小谷川が流下するケースも多く、このことが遺跡立地の条件となっている場合も多い。

もう一つの要件として、洞窟・岩陰遺跡の存在がある。その所在はまだ十分に把握されていないが、当地域は洞窟・岩陰遺跡のメッカでもあり、念頭に置いておく必要がある。

(3) 三平遺跡の立地と周辺の遺跡

三平遺跡は、吾妻川左岸最上段の小さな平坦面に立地している。遺跡は「イドクボ」と呼ばれる小支谷の両側にあり、西側を「松葉沢」、東側を「穴山沢」北側を急峻な丘陵に面される。遺跡地は南向きの緩斜面で、中位段丘面との比高は70mほどもある。「イドクボ」は現在は枯れているが、それでも雨天の翌日には湧水が認められると言う。日常的な水は西側の「松葉沢」でも得られるし、さらに比高差は大きい東側の「穴山沢」もある。

周辺の遺跡としては、松葉沢を挟んだすぐ西側に上ノ平Ⅰ遺跡が隣接し、穴山沢を越えた東側には石畑Ⅰ岩陰遺跡がある。石畑Ⅰ岩陰遺跡は草創期終末の表裏縄文を主体とする遺跡で、上ノ平Ⅰ遺跡は中期中葉から後期前半期にかけての集落遺跡である。前者は三平遺跡の前半期と時期が重なっており、後者は三平遺跡の終末を引き継ぐ時期にあたることから、両遺跡とも三平遺跡と連動する関係があったと考えてよいだろう。

表7に吾妻川沿いの主な遺跡の内容を一覧してみた。整理途上あるいは発掘途上の遺跡もあるため、概要と見て頂きたい。ちなみに、三平・上ノ平Ⅰ・石畑Ⅰ岩陰は吾妻川左岸の川原畑地区、立馬・林中原・榎木Ⅱは同左岸の林地区、川原湯勝沼・横壁中村は同右岸地区、長野原一本松・坪井は同左岸の長野原地区に、それぞれ所在する。なお、これに代表的な洞窟遺跡の参考事例として、長野県側の湯倉洞窟(永峯他2001)のデータを加えた。

この表からは、各遺跡が相互補完的に間をつないで継続している様子が、まず読み取れる。全遺跡を網羅していない点と、整理・調査途上の遺跡も多いことを考慮する必要はあるが、この地域内での場の使われ方がよくわかる。このことは、居住適地が限定的な本地域の特色を示しているとも言えよう。

表7 周辺の主要遺跡一覧 (第3回参照)

時代・時期	三平・Ⅰ	上ノ平	石岡上岩盤	立基Ⅰ・Ⅱ	林中原Ⅰ	堀木Ⅱ	川原遺跡	堀原中村	高野第一本式	坪井	藤原	遺跡
縄文	▲	▲	○	●1		▲33						
早期	▲	▲	▲	▲								
中期	▲	▲	▲	▲								
後期	▲	▲	▲	▲								
晩期	▲	▲	▲	▲								
弥生												
古墳												
中世												
近世												
近代												

●土居あり、●数字は軒数 ○遺構あり、遺物多 △遺構あり、遺物少
 ◎遺構あり、数字は軒数 ●土居あり、●数字は軒数 ○遺構あり、遺物多 △遺構あり、遺物少
 ※本表は仮説遺跡上、高野第一本式、高野第一本式あり、遺中程度である。

縄文時代の前半期を担う三平・立馬・楡木Ⅱの各遺跡は、いずれも吾妻川左岸の最上位～上位段丘面の比較的狭い平坦面に立地する。立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡は最上位段丘面の上位に比肩する丘陵上にある。狭小で傾斜がきつい地形だが、現在も懇々と水が湧く湧水点があり、また狩猟場としても知られた地点である。この遺跡の特徴は、居住と多少の断絶を挟みながらも、縄文時代のほぼ全時期にわたって継続が認められることにあり、その点では湯倉洞窟遺跡とよく似ている。また、縄文時代前半期が遺物量の少ない状況で継続している点では、三平遺跡と最も共通点の多い遺跡でもある。楡木Ⅱ遺跡は上位段丘面にあり、やはり湧水点を伴っている。早期熱糸文期の住居33軒が発見されたことで注目された遺跡で、まだ整理未着手であるため詳細は後日になるが、前期中葉から中期前半にかけての住居も確認されている。

縄文時代の後半期を担う横壁中村・長野原一本松・坪井の各遺跡は、上位～中段丘面の比較的広い平坦面に立地している。いずれも中期後半から後期前半期の大規模集落が営まれた遺跡で、高床建物や配石遺構・配石墓群を伴う点でも共通している。坪井遺跡は調査面積が狭いため詳細は不明だが、横壁中村・長野原一本松両遺跡ではこれまでに250軒ほどの住居が確認され、後期中葉期の配石墓群や、晩期終末から弥生時代中期の遺物も検出されている。

なお、後期後葉から晩期の遺跡の所在がまだ把握できないが、上位段丘面にある林地や、中段丘面にある川原湯地区が有力視されており、今後に期待したい。

(4) 本地域遺跡群の動向と三平遺跡

ところで、本地域では旧石器時代の遺跡は未だ発見されていない。その理由のひとつは、本地域の平坦面が地質的に新しい年代に形成されていること、そしてその後も崩落等の現象が頻発する不安定な要素があったことに起因しているのかもしれない。ただし、上位以上の段丘面にはローム層の堆積が認められており、近い将来に必ず旧石器時代の遺跡が発見されるであろう。

現在までのところ、本地域の発掘調査で発見された最も古い土器は草創期末の表裏縄文土器であるが、横壁中村遺跡の東に隣接する遺跡地と立馬Ⅰ遺跡で有舌尖頭器が出土しており、隆起線文土器期の遺跡が存在することは間違いないだろう。表裏縄文土器は石畑Ⅰ岩陰遺跡ほか3遺跡で確認されており、いずれも高位置にある日当たりの良い小さな平坦面を選択している。また、これらの遺跡は水の便が良い点でも共通している。

この共通性は、三平遺跡をはじめとする縄文時代前半期の遺跡地にも引き継がれており、地質的に不安定な地域での安全策でもあったことが想定される。遺跡数は前期も増加傾向にあるが、充実するのはやはり中期後半からで、横壁中村遺跡をはじめとする数遺跡で大規模集落が展開する。この時期には遺跡の立地も、大規模集落が営める広い高位～中段丘面を選定するようになる。大規模集落は後期前半期まで継続し、その地に配石墓群がつけられるが、その後の消息はまだはっきりしない。

以上が本地域でこれまでに実施した発掘調査から読み取れる、現段階での縄文時代の大きな動向である。三平遺跡は、本地域で人の活動がはじまった当初から数千年間にわたって利用され続けた、主要遺跡の一つであった。確認された住居は縄文時代後期後半期の2軒のみだが、残された土器量から推定すると、早期熱糸文(押型文)期、前期花積下層式期、岡山・黒浜式期にも居住地として利用されていた可能性は高いと言える。また、石器では打製石斧と磨石類に比べて狩猟具である石鏃(未製品も含めて)の出土量が圧倒しており、狩猟を中心とする活動拠点の一つだったとも考えられる。ちなみに、本遺跡と一体の関係にあったと推定される石畑Ⅰ岩陰遺跡では、多量の獣骨が出土している。ほぼ同時期の遺跡である立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡は、石鏃の出土量が少なく、磨石類の数量が多いことから、居住地的な石器組成となっている。両遺跡とも継続期間が長く、石器の時期を特定はできないが、大きな傾向は示していると考えてよいだろう。

2 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土土器の総量と組成について

三平Ⅰ遺跡2,196m²、三平Ⅱ遺跡3,754m²、計5,950m²の発掘調査により出土した土器について(陶磁器を除く)、遺構内・遺構外を問わずに総量を集計し、その時期や構成等の特徴を簡単にまとめてみたい。

土器は、三平Ⅰ遺跡2,407点、三平Ⅱ遺跡12,932点、計15,339点が出土しており、うち、型式が判別できる土器は、三平Ⅰ遺跡2,061点、三平Ⅱ遺跡4,419点、計6,480点である。三平Ⅱ遺跡において、型式不明土器の数が多い理由は、三平Ⅰ遺跡に比較し、縄文土器の数量が圧倒的に多く、その大半が小破片で文様等の判別が不可能であったことが考えられる。

型式の判別可能な破片数を分母とすると、三平Ⅰ遺跡では55.3%を縄文前期土器が占め、その内訳は諸磯a式54.3%、諸磯b式24.9%、黒浜式8.0%、岡山式7.3%、花積下層式2.3%と続いている。三平Ⅰ遺跡では、検出された2軒の住居のうち、1号住居が諸磯b式期、3号住居が諸磯a式期に比定されるから、当時、集落が営まれた様相を示す数値といっ

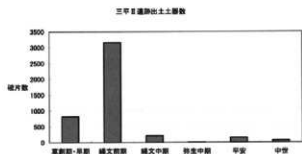
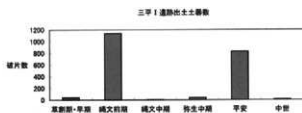
良いだろう。

三平Ⅰ遺跡では、縄文前期土器に次いで、平安時代の土師器・須恵器片が40.3%の割合を占める。土師器・須恵器の時期はほとんどが9世紀後半である。三平Ⅰ遺跡では、該期の住居は1軒も検出されていないが、検出された遺構のうち、1～10号焼土並びに1・2号掘立柱建物が、生活を営む上で何らかの機能をもった施設であった可能性が考えられる。このことは、出土土器片の数量からも推察されるのではないだろうか。

三平Ⅰ遺跡では、縄文草創期・早期、縄文中期、弥生中期、中世の土器片も少量ながら出土している。しかしながら遺構には全く伴っていない。縄文草創期・早期、縄文中期、中世については、三平Ⅱ遺跡である程度の数量が出土しているので、関連性も想像できるが、特筆すべきは、弥生中期の土器片が38点出土していることである。全て土器片ではあるが、水Ⅰ式或いは千網式に見られる浮線文の文様構成や手法を古相として残すものや、岩櫃山式に見る三角連繁文及び櫛櫛文、そして条痕文などが施されるものである。また、南東北地方、南御山Ⅰ式或いは野沢Ⅰ式の承譜を引くとも考えられる磨消縄文による

表8 出土土器の総量と組成表

時代・時期	型式等	三平Ⅰ遺跡	三平Ⅱ遺跡	計
縄文草創期	表裏縄文	1	13	14
	磨糸文	2	148	150
	本線文	3	163	166
	押型文	6	58	64
縄文前期	条痕文	29	435	464
	花積下層式	26	595	621
	二ツ木式	6	63	69
	岡山式	84	331	415
	黒浜式	90	381	471
	有層式	11	24	35
	諸磯a式	619	604	1223
	諸磯b式	284	862	1146
	諸磯c式	1	138	139
	十三重線式	18	160	178
縄文中期	五重ヶ台式	5	176	181
	阿玉台式	0	22	22
	磨板式	0	14	14
	加曽利式	0	5	5
弥生中期		38	2	40
	平安	830	154	984
	中世	8	71	79
その他(型式不明)	346	8513	8859	
計	2407	12932	15339	



王字文が施された土器片も出土しており、地域間交流を示す一資料ともなろう。近年、長野原町においても、川原湯勝沼遺跡、下原遺跡、立馬Ⅰ遺跡、横壁中村遺跡等の発掘調査により、縄文晩期終末から弥生中期前半にかけての資料も増加しつつある。また、川原畑地区では、石畑Ⅰ岩陰で水Ⅰ式が出土しており、三平Ⅰ遺跡との関連も窺われる。今後の発掘調査により、住居等の生活跡が発見されることも期待できよう。

次に、三平Ⅱ遺跡の出土土器について見ていこう。三平Ⅱ遺跡では、三平Ⅰ遺跡の約6倍にも及ぶ12,932点の土器片が出土している。型式の判別可能な破片数を分母とすると、71.5%を縄文前期土器が占め、その内訳は諸磯b式27.3%、諸磯a式19.1%、花積下層式18.8%、黒浜式12.1%、関山式10.5%と続いている。三平Ⅰ遺跡と比較して特徴的なことは、縄文前期土器が全体の7割以上を占めること、諸磯a式・同b式土器の数量が卓越せずに、花積下層式、黒浜式、関山式などが均衡すること、そして割合はさほど高くないが諸磯c式・十三菩提式が相当数出土していることなどである。

花積下層式は全て遺構外出土ではあるが、その数595点は特筆すべきであろう。土器片は口縁部文様帯に熱系側面圧痕を施すものや尖底の胴部破片などが多いようである。縄文前期初頭の発掘調査例は少ない。長野原町においても、坪井遺跡で住居1軒、土坑6基が検出されたのみであるから、三平Ⅱ遺跡出土土器は、該期の西吾妻地方における土器編年上の良好な資料となろう。

資料数が希少であるという点では、諸磯c式138点、十三菩提式土器160点も重要である。特に81区60号土坑では2個体の土器が共伴しており、これらも該期の西吾妻地方における土器編年上の良好な資料となる。

三平Ⅱ遺跡では、縄文前期に次いで、縄文草創期・早期の土器片が18.5%の割合を占めている。内訳は表裏縄文13点、熱系文148点、沈線文163点、押型文58点、条痕文435点である。周辺の遺跡では、

平成12・13年発掘調査の楡木Ⅱ遺跡で熱系文期の竪穴住居31軒、平成14年調査の立馬Ⅰ遺跡で早期住居2軒が確認されている。三平Ⅱ遺跡では、遺構は沈線文期の土坑1基、条痕文期の土坑2基にとどまるが、資料としては草創期後半から早期を通して時期・型式が途切れずにまとまっており、今後の活用が期待できる。特に中部高地系の沈線文土器や押型文土器も散見でき、関東地方と中部高地の土器編年を繋ぐ資料となる可能性も高いだろう。

三平Ⅱ遺跡では、縄文草創期・早期～前期の土器片数のトータルは3,975点で89.9%を占めている。ところが、住居は1軒も確認することができなかった。これはどのように解釈すれば良いのであろうか。三平Ⅱ遺跡はその西側の「松葉沢」と呼ばれる小河川と東側の「イドクボ」の伝承地名を有する谷地形に挟まれた馬背状台地に位置する。台地上は、黒色土の堆積が希薄で、現表土から厚さ15～25cm程度で地山のローム層面やYPK純堆積層面が露出する。一方、三平Ⅰ遺跡と三平Ⅱ遺跡を区分するイドクボと呼ばれる谷地部には、黒色土やローム質土等の厚い2次堆積層が確認でき、遺物の大半は、台地からイドクボへ向かって次第に厚く堆積するこの層に包含されているのである。ここで、台地上に黒色土層が堆積していた当時に、その層を掘り込んで住居等が形成され、その後、地滑り等によって黒色土を主体とする文化層が松葉沢やイドクボへ崩落したと仮定しよう。そうすれば、三平Ⅱ遺跡の今回の発掘調査では住居等の生活跡は確認されないものの、その出土遺物量から、縄文草創期から縄文前期末にかけて集落が営まれた可能性が高いといえるのではないだろうか。

(篠原正洋)

参考文献

- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993『五日牛清水田遺跡』第144集
長野原町教育委員会 2002『町内遺跡Ⅰ』
長野原町教育委員会 2004『林宮原遺跡Ⅱ』

3 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土石器の総量と組成について

三平Ⅰ遺跡2,196m²、三平Ⅱ遺跡3,754m²、計5,950m²の発掘調査により出土した石器について(中・近世の砥石及び石臼を除く)、遺構内・遺構外を問わずに総量を集計し、その時期や構成等の特徴を簡単にまとめてみた。

三平Ⅰ遺跡・三平Ⅱ遺跡では、打製系石器427点、打製系以外石器73点、計500点の石器が出土し、その他に、剥片6,124点、石核6点が出土する。

石鏃は186点が出土するが、すべてが無茎鏃で、A類：平基鏃(基部が直線的なもの)16点、B類：凹基鏃(基部に抉入のあるもの)141点、C類：円基鏃(基部が丸みを帯びるもの)3点、D類：鏃形鏃(凹基鏃の中でも抉りの形態が独特なもの)4点、E類：長脚鏃・円脚鏃(凹基鏃の中でも基部の抉り込みが極度に深いもの)12点、F類：形状不明10点である。

石鏃未製品は99点が出土し、A類17点、B類33点、C類0点、D類2点、E類1点、F類46点である。

石鏃と石鏃未製品を合計すると、285点のうち、61.1%に相当する174点がB類の凹基鏃となり、次いで11.6%に相当する33点がA類の平基鏃となる。D類・E類の鏃形・長脚・円脚鏃も数量は決して多くはないが、縄文早期～前期にかけて特徴的に現れる石鏃として本遺跡では意味をもって来るであろう。また、局部磨製の鏃形鏃も2点出土しており、注目される。

次に、石鏃と石鏃未製品における石材について注目してみよう。石材は黒曜石が61%と圧倒的に多い。本遺跡では、黒曜石の産地同定を実施していないが、同町内の長野原一本松遺跡では分析総数144個中137個(94%)が、坪井遺跡では10個中すべてが、石畑遺跡では3個中すべてが、横壁中村遺跡では119個中107個(90%)が和田峠系(和田峠系-1:東餅屋・西餅屋・小深沢、和田峠系-2:星ヶ塔・男女倉5の両者を指す)であることが分かっている(群

埋文287集)。おそらく、本遺跡出土の黒曜石も和田峠系が高い割合を占めるのであろう。しかしながら、本遺跡の主体をなす時期は縄文早期から前期であり、産地同定が行われた同町内遺跡と若干時期を異にすることにも留意しなければならないであろう。石鏃と石鏃未製品の石材として珪質変質岩の割合が10%程度と高いことも特徴的である。長野原一本松遺跡(群埋文287集)では、掲載された石鏃110点中22点(20.0%)が珪質凝灰岩製で、この珪質凝灰岩とは本遺跡の珪質変質岩に相当すると考えられる。この石材は、非常に軟質で、石器製作を目的としては適さないとも考えられるが、吾妻川流域の長野原町周辺の遺跡では上記のように、石材として高い割合で用いられている。縄文早期から前期を主体とする本遺跡と縄文中期から後期を主体とする長野原一本松遺跡において、時期を異にしても共通して用いられるこの石材はいかなる利点があったのだろうか。産地の問題も含めて、今後も調査を継続していきたい。

最後に、石鏃製作跡との関連について触れよう。本遺跡では、石鏃未製品や剥片類が豊富に出土しており、石鏃製作跡との関連も窺われる。しかしながら、製作跡遺構そのものが検出されたわけではなく、直接的に結びつける根拠はない。また「製作跡」や「製作工房」などの名称を用いると、それは專業集団による大量生産をも想起させる。本遺跡においては、未製品や剥片類の出土量から、石鏃が遺跡内で製作されていたことはおそらく間違いないが、石鏃の製作活動は、集落においてある程度日常的、一般的に行われていたとの説もあり、結論に導くのは困難である。

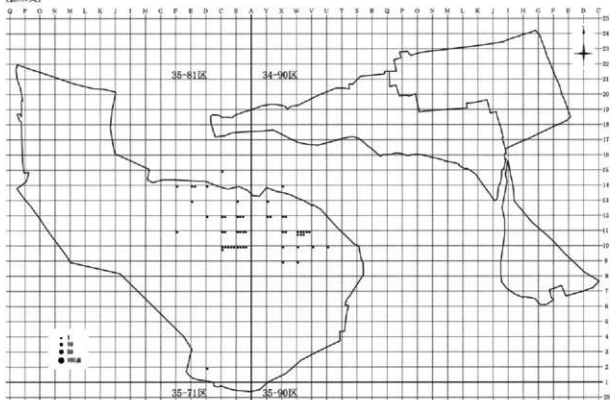
(篠原正洋)

参考文献

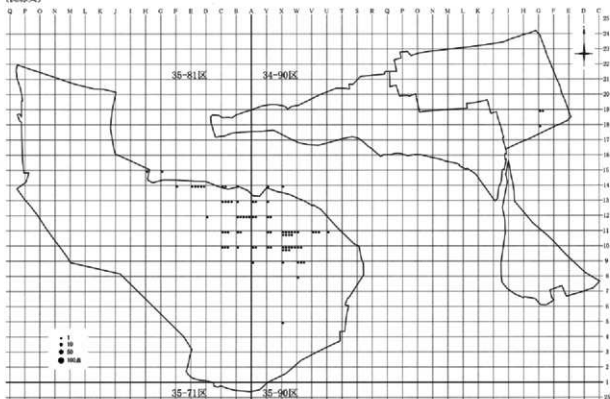
- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『長野原一本松遺跡(1)』第287集
四柳 隆 1997『千葉県における石鏃の製作—縄文時代中期の石鏃製作跡から—』『人間・遺跡・遺物3』

V まとめと課題

[断面文]



[沈積文]

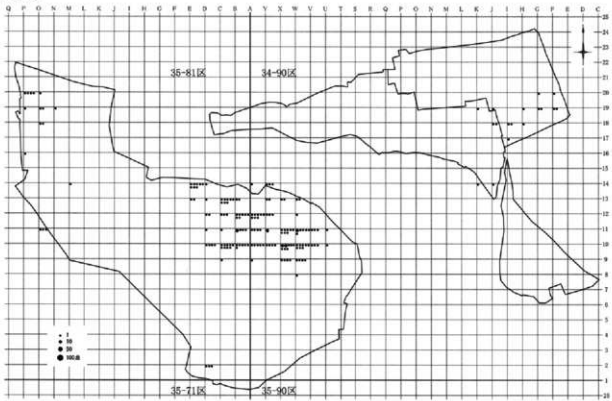


第149図 出土土器のグリッド別分布図(1)

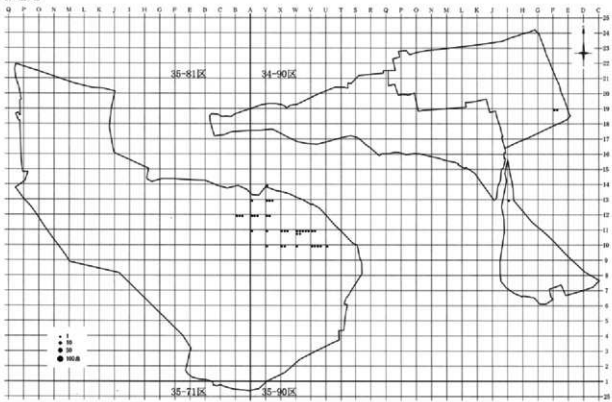
0 1:1000 25m

3 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土石器の総量と組成について

【柔板文】



【押型文】

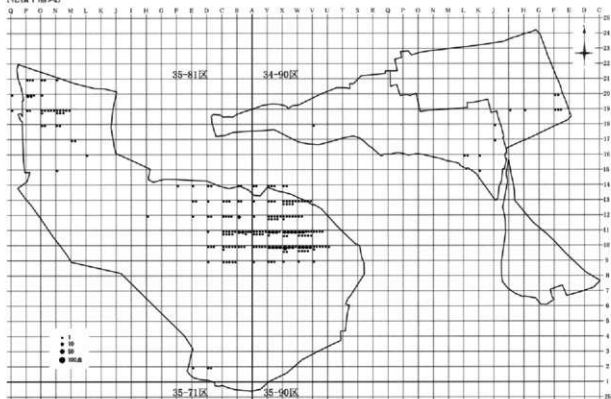


第150図 出土石器のグリッド別分布図(2)

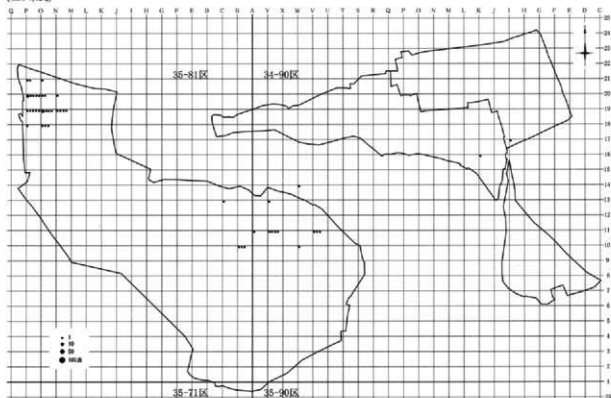
0 1:1000 25m

V まとめと課題

〔花積下層式〕



〔二ツ木式〕

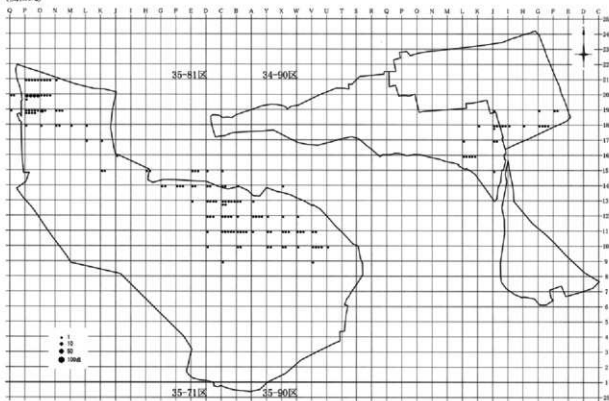


第151図 出土土器のグリッド別分布図(3)

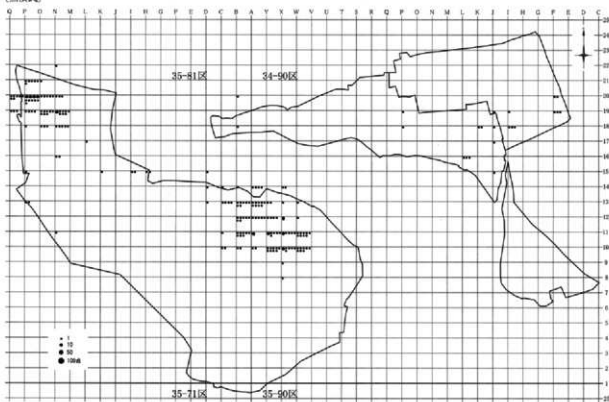
0 1:1000 25m

3 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土石器の総量と組成について

〔開山式〕



〔黒浜式〕

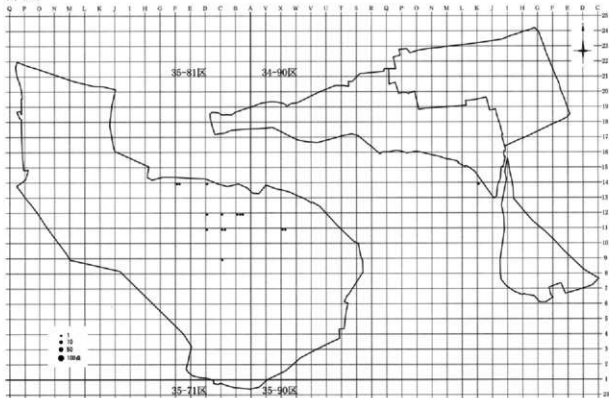


第152図 出土石器のグリッド別分布図(4)

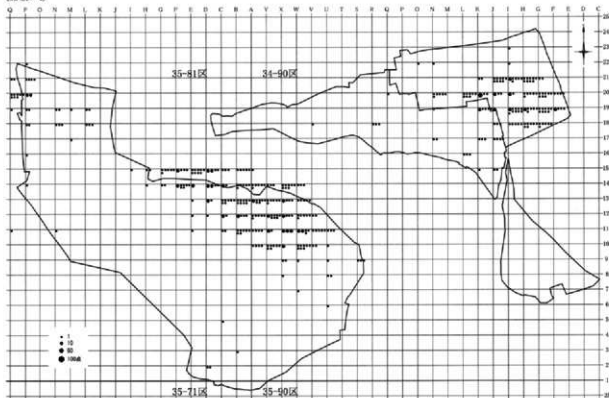
0 1:1000 25m

V まとめと課題

(有尾式)



(詳細式)

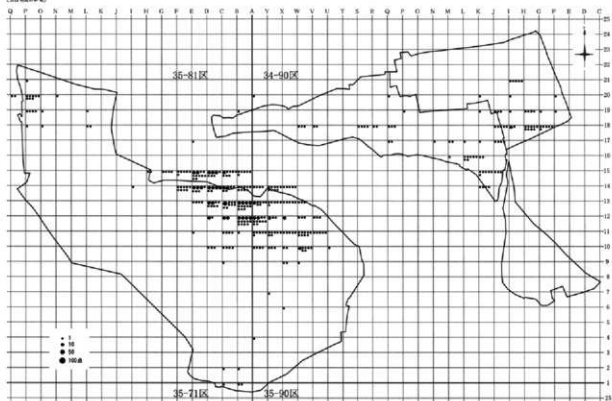


第153図 出土土器のグリッド別分布図(5)

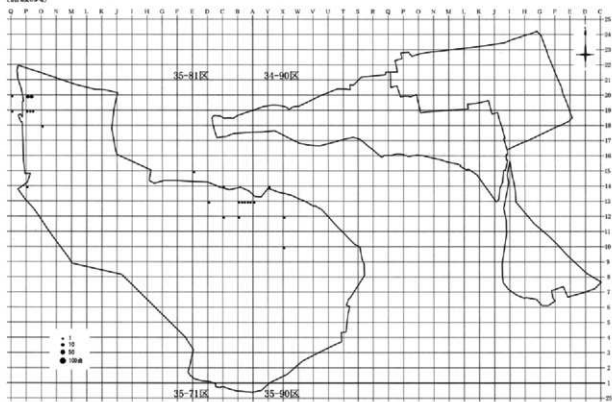
0 1:1000 25m

3 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土石器の総量と組成について

(踏碇b式)



(踏碇c式)

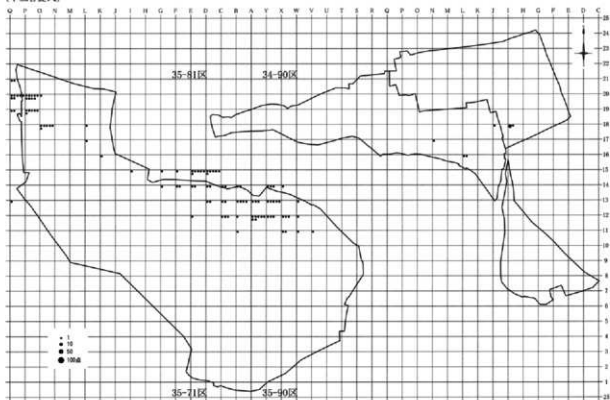


第154図 出土石器のグリッド別分布図(6)

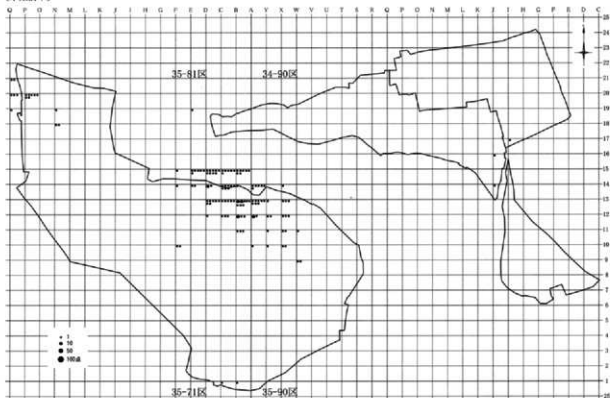
0 1:1000 25m

V まとめと課題

[十三番様式]



[中期前半]

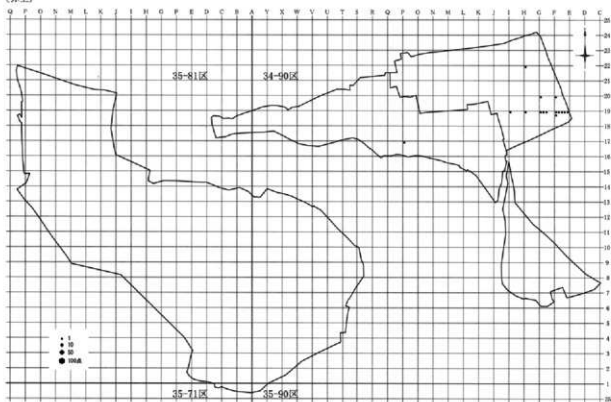


第155図 出土土器のグリッド別分布図(7)

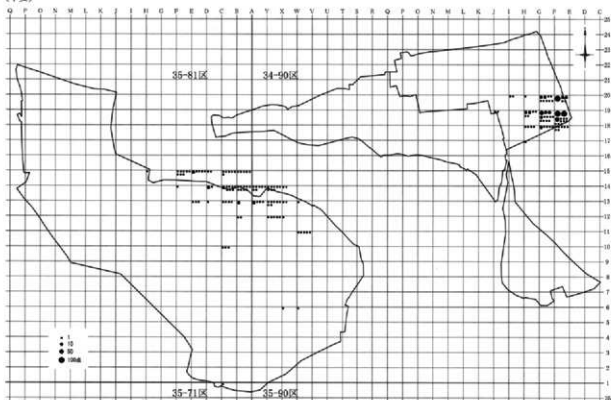
0 1:1000 25m

3 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土石器の総量と組成について

〔弥生〕



〔平安〕

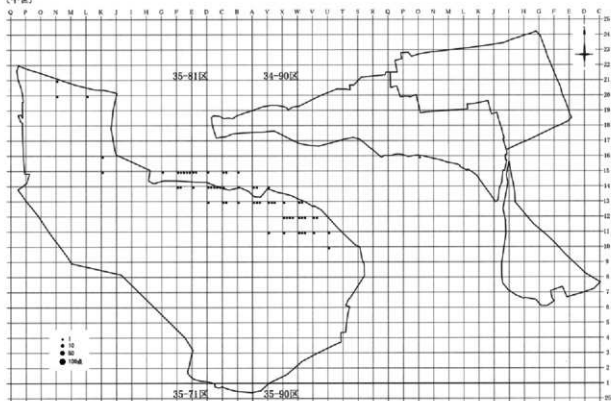


第156図 出土石器のグリッド別分布図(8)

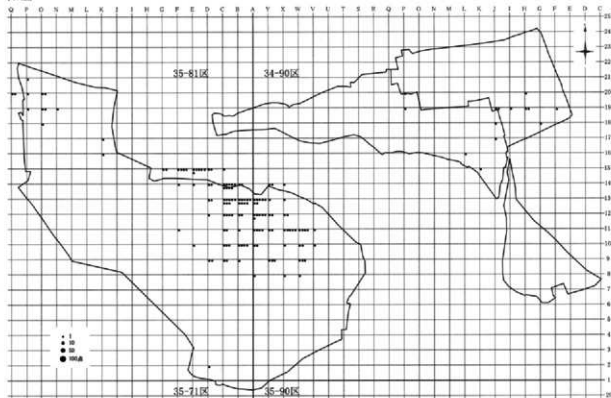
0 1:1000 25m

V まとめと課題

【中世】



【石鏡】

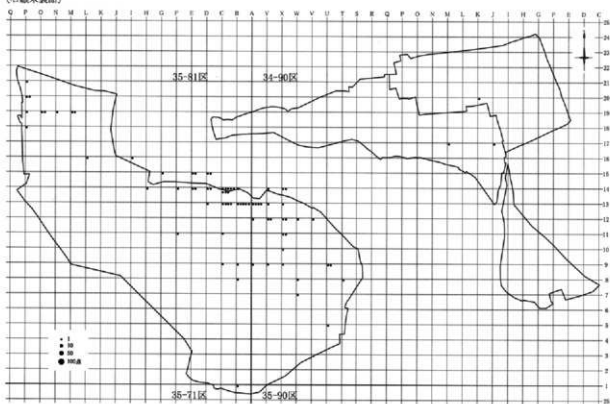


第157図 出土土器、石器のグリッド別分布図(9)

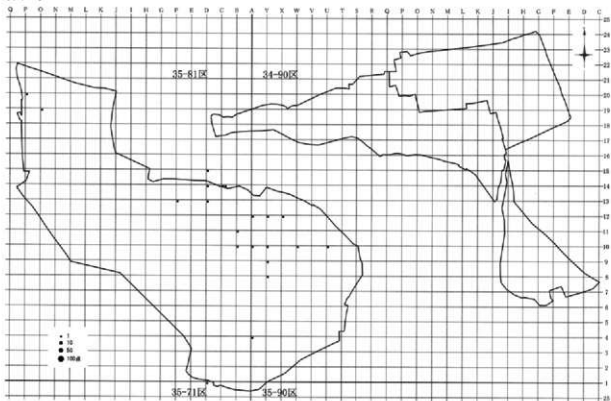
0 1:1000 25m

3 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土石器の総量と組成について

〔石器未製品〕



〔ドリル〕

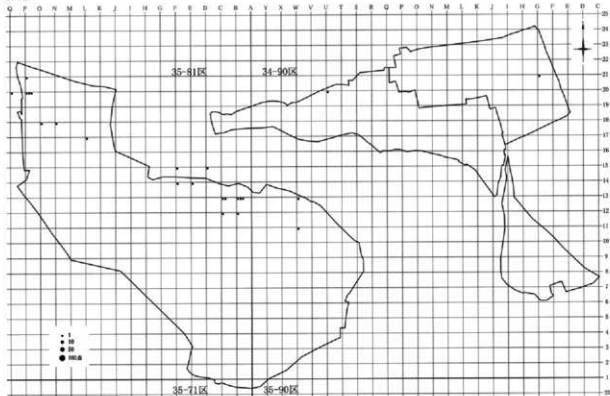


第158図 出土石器のグリッド別分布図 (10)

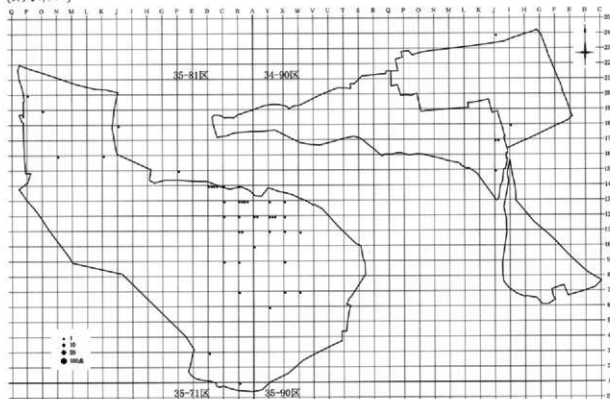
0 1:1000 25m

V まとめと課題

〔石器〕



〔スクレイパー〕

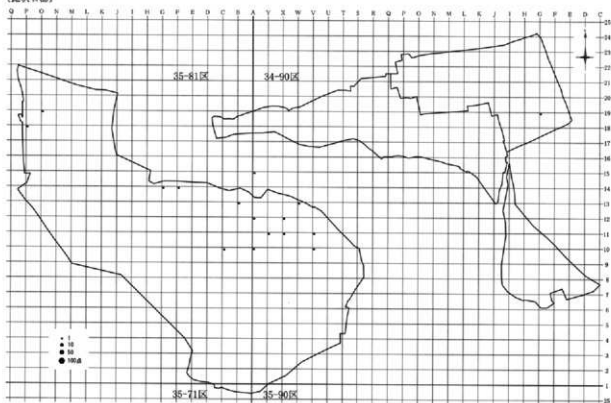


第159図 出土石器のグリッド別分布図 (11)

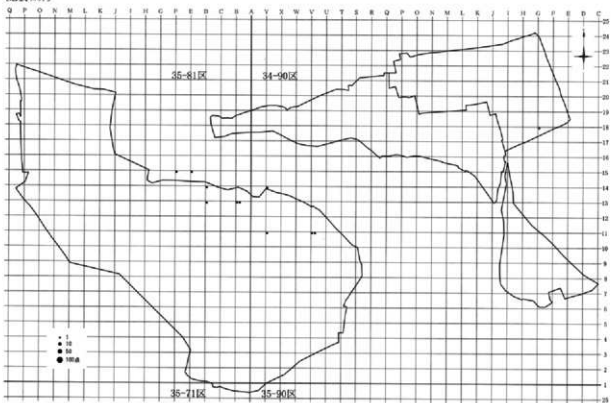
0 1:1000 25m

3 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土石器の総量と組成について

【蹄状石斧】



【磨製石斧】

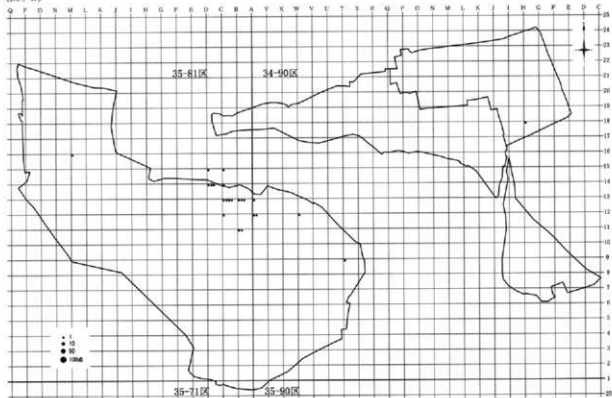


第160図 出土石器のグリッド別分布図 (12)

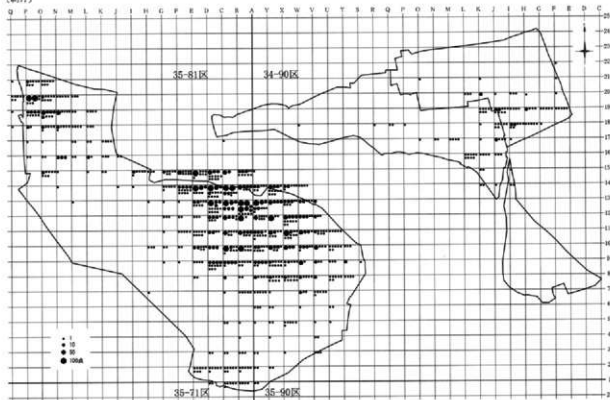
0 1:1000 25m

V まとめと課題

【照み石】



【割片】



第161図 出土石器のグリッド別分布図 (13)

0 1:1000 25m

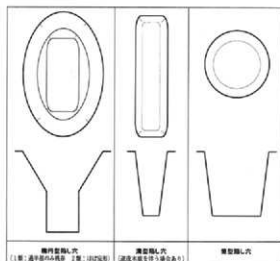
4 陥し穴についての一考察

三平Ⅰ遺跡では69基、三平Ⅱ遺跡では43基、計112基の陥し穴を確認するに至った。ここでは発掘調査及び整理の過程で明らかになった以下4つの観点について考察を行いたい。

(1) 形状

本報告では、長野原町の関連遺跡の報告等を踏まえて3タイプ4類に分類した(Ⅲ・1・(4)・①陥し穴の項参照)。

- ①楕円型1類—上面・下面形状とも長方形が基準で、壁が垂直に立ち上がるタイプ。楕円型2類の上半部が欠損したものの可能性が高い。
- ②楕円型2類—上面形状は楕円形、下面形状は長方形を基準とし、壁は下半部が垂直で、上半部が緩やかに外反して立ち上がるタイプ。
- ③溝型—上面形状は細長い楕円か長方形、下面形状は細長い長方形か溝状のタイプ。底部施設(逆茂木痕)を伴うものがある。
- ④筒型—上面・下面ともほぼ円形で、壁が垂直に立ち上がるタイプ。



第162図 陥し穴模式図

三平Ⅰ遺跡・三平Ⅱ遺跡をトータルした分類の結果は、楕円型1類35基(Ⅰ:19基、Ⅱ:16基)、楕円型2類58基(Ⅰ:43基、Ⅱ:15基)、溝型16基(Ⅰ:6基、Ⅱ:10基)、筒型3基(Ⅰ:1基、Ⅱ:2基)となる。残存状況から2分類した①楕円型1類と②楕円型2類は基本的には「楕円型」と同一タイプに括り、タイプ別に割合で表すと、112基中93基(83.0%)が楕円型となり、全体の数量の8割を超える。一方、溝型は112基中16基で14.3%、筒型は112基中3基で2.7%と少ない。陥し穴の形状や規模は、イノシシ或いはシカなどの大型動物を捕獲するための罠としての機能と直接結びついているはずであり、試行錯誤の中で少しずつ改良され定形化されていったはずである。従って単純に考えれば、全体の数量の8割を超す楕円型陥し穴が、動物の体格や体型、運動性や行動性、或いは習性等を考慮した上で、最も合理的で効果的な罠だったという可能性も考えられるが、形状の差異の原因には、当然、時期差や獲物の種類の違いによる機能差なども想定でき、今後の調査の成果を待ちたい。

なお、三平Ⅱ遺跡81区31・40・41・47・56号土坑(溝型)では、陥し穴底部で逆茂木痕と考えられるピットを2~11基の範囲で確認している。溝型陥し穴には、楕円型陥し穴よりも高い頻度で、逆茂木痕が伴う事例は立馬Ⅰ遺跡(群埋文388集)・立馬Ⅱ遺跡(群埋文375集)でも報告されており、溝型に底部施設(逆茂木痕)が伴う背景には、罠としての機能的な関連も考えられるため、追記しておく。

(2) 重複関係

三平Ⅰ遺跡では、陥し穴相互で、それぞれ19号土坑(楕円型)と20号土坑(溝型)、21号土坑(楕円型)と22号土坑(溝型)、43号土坑(楕円型)と42号土坑(溝型)の3事例、三平Ⅱ遺跡では81区35号土坑(楕円型)と81区34号土坑(溝型)の1例で重複関係が確認できる。そして、いずれの場合も楕円型陥し穴が溝型陥し穴に切られており、古いことが分かっている。

また、他種の遺構との重複では、三平Ⅰ遺跡の1

V まとめと課題

号焼土と79号土坑（楕円型）、4号焼土と81号土坑（楕円型）、5号焼土と84号土坑（楕円型）、6号焼土と60号土坑（楕円型）の4事例で重複関係が確認できる。焼土は全て陥し穴が自然埋没後の埋没土直上に形成されている。1・4・5号焼土には9世紀第3四半期の土師器が、4・5号焼土には、同時期の須恵器が伴っている。

また、三平Ⅰ遺跡の73号土坑と84号土坑（楕円型）の重複関係では、73号土坑が84号土坑を切っており新しいことが分かっている。73号土坑には、9世紀半ばの土師器が伴っている。

本遺跡の調査では、異タイプの陥し穴（楕円型と溝型）相互の新旧関係、平安時代の焼土と楕円型陥し穴との新旧関係、また平安時代の土坑と楕円型陥し穴との新旧関係が明らかになる事例を得た。陥し穴の出土遺物については、埋没時の流れ込みの可能性が高く、出土遺物によって陥し穴の帰属時期を認定できない場合が多いため、このような遺構相互の重複関係は重要であり、そのデータの蓄積も含めて今後の課題となろう。

（3）構築時期

既にⅢ・1・（4）・①陥し穴の項で触れたように、本遺跡の陥し穴の構築時期については、平安時代焼土との新旧関係、出土遺物の流れ込みの可能性、花畑遺跡（群埋文303集）における金属製鋸先痕の検出や炭化物の放射性炭素年代測定の結果等を総合し、「古代」と一括りにして扱った。

特筆すべきは、三平Ⅰ遺跡の1号焼土と79号土坑（楕円型）、4号焼土と81号土坑（楕円型）、5号焼土と84号土坑（楕円型）、6号焼土と60号土坑（楕円型）の4事例で重複関係が確認でき、焼土は全て陥し穴が自然埋没後の埋没土直上に形成されていることである。1・4・5号焼土には9世紀第3四半期の土師器が、4・5号焼土には同時期の須恵器が伴っていることから、4基の楕円型陥し穴の構築時期はそれ以前と限定される。しかも79・84号土坑からは、自然埋没過程のどの段階かは不明だが、流れ込みと考えられる9世紀半ばの土師器片が出土して

おり、この2基の楕円型陥し穴の構築時期は9世紀第3四半期以前の時間差の少ない一時期に限定される可能性が高いといえよう。

なお、本遺跡の調査では中世以降の陥し穴の存在を明らかにする事例は得られなかった。

（4）ローム質土レンズ状堆積層

本遺跡の陥し穴の埋没状況においては、Ⅲ層を基準とする黒色土あるいは黒褐色土がレンズ状に堆積し自然埋没したことを示す事例が多いが、既にⅢ・1・（4）・①陥し穴の項で触れたように、その中には、「ローム質土レンズ状堆積層」と呼称する土層（埋没土層に見られ、ロームブロックやローム粒、スコリアや小礫、場合によっては焼土や炭化物を混入し、下層の黒色土系の埋没土と比較すると相対的に黄色味を帯びたように見える埋没土層）が確認できる場合がある（第163図）。

この埋没土層は、三平Ⅰ遺跡では陥し穴69基中31基（楕円型62基中29基、溝型6基中2基、筒型1基中0基）、三平Ⅱ遺跡では43基中17基（楕円型31基中14基、溝型10基中2基、筒型2基中1基）で確認でき、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡トータルでは112基中、4割を超える48基で確認できることになる。



第163図 陥し穴埋没状況図

このローム質土レンズ状堆積層が、4割を超える陥し穴の埋没土層に、どのような要因で堆積したかは不明である。現時点において明らかなことは、この層が陥し穴の埋没土層上に堆積し、下層にはしまりの弱い黒色土が堆積していること、陥し穴は自

然埋没状況を示しており、人為的に埋め戻された形跡がないことである。

ところで、このローム質土レンズ状堆積層に相当する陥し穴の埋没土層は、本遺跡のみに認められるものではないことが分かってきた。

例えば、花畑遺跡（群理文303集）では、土層注記及び断面写真から判断する範囲で、陥し穴53基中、6割を超える32基がこの土層の存在を確認できた。花畑遺跡の場合、陥し穴53基中45基が、本報告で分類するタイプでは楕円型である。そして、同埋没土層は、長野原一本松遺跡（群理文287集）、立馬Ⅰ遺跡（群理文388集）、立馬Ⅱ遺跡（群理文375集）でも確認できる。

ここで取り上げた、ローム質土レンズ状堆積層の確認できる6遺跡（三平Ⅰ・三平Ⅱ・花畑・長野原一本松・立馬Ⅰ・立馬Ⅱ）は全て吾妻川左岸に位置している。また、本遺跡から最も離れた長野原一本松遺跡は直線距離で約5km西に位置する。吾妻川左岸東西5kmにも及ぶこの範囲に共通して存在するこの埋没土層はいつ、いかなる理由で堆積したのだろうか。本遺跡の事例で明らかなのは、構築時期を「古代」と一括りにした陥し穴の自然埋没土層に確認できること、さらに詳細に見れば、79・84号土坑のように9世紀第3四半期以前の時間差の少ない一時期に構築されたと考えられる楕円型陥し穴埋没土層に確認できることである。仮に、このローム質土レンズ状堆積層が、古代の特定時期に、吾妻川流域に発生した火災・地震・地滑り等の自然災害に起因するものであって、その時期や年代が確定できるとすれば、この地域においては、考古学的に重要な鍵層となるとともに、該期の地域史、災害史を物語る上でも重要となろう。

（篠原正洋）

参考文献

- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『長野原一本松遺跡（1）』第287集
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『ハッポウダム発掘調査集（1）』第303集
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『川原湯跡遺跡

（2）』第356集

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『立馬Ⅱ遺跡』第375集

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『立馬Ⅰ遺跡』第388集

5 三平Ⅱ遺跡の建物群について

飯森 康広

（1）はじめに

建物群を検討する前提として、掘立柱建物跡の認定の問題がある。本遺跡で筆者は幸い調査段階から検討に加わる機会を与えられ、図上復元を並行作業として行いながら、最終的な建物認定をすることができた。この結果、柱穴有無の確認が想定される柱筋の延長線上は、例外なく確認精査を行い、無いという結論を得ている。したがって、次項でみるとおり、一方の壁面が伸びる建物があることについても、少なくとも見落としてはいいことを付け加えておきたい。

（2）建物群の概要

三平Ⅱ遺跡は、西側小河川と東側の谷状地形に挟まれた馬背状の台地であり、建物群はその南端に位置する南向きの緩斜面に集中している。建物は全て掘立柱建物で、7棟が認定された。柱穴と思われるピットの遺跡全体数は61基であり、建物として集約されなかったピット数は概して少ない。したがって、遺構として認定できた掘立柱建物跡7棟を検討することで、遺構群のおよその検討は可能と考える。

90区1号掘立柱建物（以下90-1建と略す）は最大で、南東部に位置して重複がない。同規模のものがほかに建物群内でみられないことから、中心的な建物として比較的長く使用されたものと想像される。残る6棟の建物跡では90-2建・90-3建が重複、また81-1建、90-4建、90-5建の3棟も重複しており、最低でも3つの時期にわたる遺構群と考えられる。したがって、90-1建を含めて一時期に3棟程度で構成される建物群であった可能性が高い。

本遺構群の年代を直接示す遺物の出土はないが、北側の谷地や周辺で中世の在土器が比較的多く出



第164図 三平Ⅱ遺跡地形図

土するとともに、建物が独立柱構造であることを加味して、中世に比定される遺構群として論を進めることとする。

(3) 形態的な特徴

90-1建は1×3間の東西棟で、南北両面に庇、東面に張り出しを設けている。面積は51.84㎡であり、県内の中世屋敷における内部建物の傾向からみても最も一般的である。筆者は屋敷規模と中心建物との相関関係をみた際、40~60㎡の中心建物を持つ屋敷遺構は1/3~2/5町四方規模という関係があり、最も数量が多く中層的な階層に属する屋敷規模と考えた(飯森1999)。本事例も概ね同列では扱えないが、建物規模を比較する事例としては問題ないであろう。この建物は柱筋も通りが良く規格性が高く、他の建物と違う。

建物構造で注目されるのが、北庇の柱穴配置である。通例庇であっても柱数は変えず、身屋と同様な柱間に配置するのだが、本建物は半間ごとに浅い柱穴を加えている。これは掘立柱であった場合、他との比較から自立できる深さとは考えにくいため、掘

立柱ではなかったものと考えられる。つまり、床を支える床束柱と同じく、床よりも上面に出ない、つまり屋根を支えないものではないだろうか。こうした柱が一つの庇だけにみられる場合、他とは違う機能・構造を有することとなり、縁である可能性が高いと判断される。しかし、一方で一間ごとには掘立柱が配されて屋根を支えていることから、濡れ縁ではなく、建物内部に取り込まれている縁と考えて良いだろう。

他の6棟は軽微なものが多く、柱数や柱配置に乱れが生じている。90-4建は規格性が高く、南壁は1間分西へ伸びて塀となっていたと考える。これと同様に、81-1建も南北の壁両方を伸ばしていると考えることが可能である。しかし、81-2建の南西隅柱は半間分柱間が短く、梁は斜めに掛けなければならない。切妻屋根ではやや不都合なので、片流れの屋根であれば問題がないであろう。あるいは、南北棟とすれば、平面形は歪んでいても、屋根は問題なく掛けることができよう。90-5建は最も不可解な構造である。北東隅柱は81-2建と同様に半間分柱間が短い。ただし、梁間が直角で4.92mもあるため、斜めに梁を渡すのは合理的でない。想像となるが、北東隅柱は元来存在していて、6号土坑によって消滅したと考える。一方、南西隅柱も存在しない。これは調査段階で執軸に搜索したが、見つかることができなかった経緯がある。この柱についても存在しないと、不都合が多く、省略したとは考えにくい。これも想像に過ぎないが、礎石あるいは地表面に支えるように建てて、掘り込まない柱を有していたものと考えておく。

(4) 桁行平均柱間

規模からも規格性からも傑出する90-1建は、桁行

表10 掘立柱建物跡分類表

番号	主軸方位	規格	庇	築出	面積	桁行1	桁行2	桁行平均(桁行2/間)	梁間1	梁間2	梁間平均(梁間2/間)	重複関係	
81-1	N-71° E	2×2間・東西棟	北・南壁	22.59	4.65	4.8	4.74	2.37	4.8	4.9	4.85	2.425	90-4号、90-5号
81-2	N-86.5° E	1×1間・東西棟	北壁	8.01	1.94	1.9	1.92		3.04	3.22	3.13		
90-1	N-75° E	1×3間・東西棟	南北	51.84	7.5	7.55	7.53	2.51	4.58	4.6	4.59		
90-2	N-24° W	1×1間・東西棟		10.39	2.62	2.68	2.65		3.84	4	3.92	90-3号	
90-3	N-61° E	1×1間・東西棟		12.72	3.24	3.56	3.4		3.6	3.88	3.74	90-2号	
90-4	N-67.5° E	1×2間・東西棟	南壁	11.8	4.68	4.64	4.61	2.305	2.6	2.52	2.56	81-1号、90-5号	
90-5	N-72.5° E	2×3間・東西棟	北・南壁	34.93	7.1			2.3666	4.92			2.46	90-4号、81-1号

平均柱間2.51m約8.3尺と長い。また、規格性は低いが、81-1建で桁行平均柱間2.37m約7.8尺、90-4建で桁行平均柱間2.305m約7.6尺、90-5建で桁行平均柱間2.367m約7.8尺と、3棟とも近似する数値を示している。しかも、この3棟は相互に重複関係にある。特に81-1建と90-5建は形態的にも近似していて、桁行平均柱間がほぼ等しいことも考えれば、建て替えしかも梁桁材などの古材を再利用した建て替えも想定できよう。ただし新旧関係は不明である。

以上、4棟の桁行平均柱間は何れも広い。これは遺跡の性格として注目しておく必要があろう。筆者は以前、県内の中世屋敷内部建物の桁行平均柱間を検討した際、約6.3尺と約7.4尺の2つのピークを見いだしたことがある(飯森2005)。この具体的な数字については、遺跡数も多くな、まだ不安定な要素が多いが、6尺台と7尺台の二通りの建築基準尺度があるという見通しを得たと考えている。しかし同時に、屋敷外部建物の桁行平均柱間について、構築当初から8尺を超える桁行平均柱間を持つ建物が存在していた。このため、筆者は長い基準尺度が存在する可能性と共に、屋敷内部からの建築材再利用によって、見かけ上の桁行平均柱間の増加もあつたと考えておいた。

本遺跡の場合、台地全体をほぼ発掘調査しているが、本建物群の前身建物は見つからない。また東側隣接地の調査でも同様である。したがって、本建物群が構築当初から再利用材であった可能性は低く、以上みてきた桁行平均柱間が建築基準尺度であった可能性が高い。つまり、90-1建の桁行平均柱間約8.3尺は建築基準尺度であったと思われる。これは筆者が検討した主に県央部の発掘調査事例では見いだせなかった結論であり、地域色も考えておくべきであろう。なお、筆者が屋敷外部建物の事例として扱った奥田道下遺跡(飯森2004)でも、桁行平均柱間約8.2尺の建物が確認されている。奥田道下遺跡も吾妻郡であることから、こうした数値を積極的に評価し、8尺台の桁行平均柱間の存在を認め、とりあえず吾妻地域での存在を意識してゆくこととし

たい。

(5) 建物配置などの検討

本建物群の特徴は、中心的な建物である90-1建を含む5棟が、ほとんど同じ標高を選んで、東西に横並びしていることである。しかも地形は南に傾斜していて、当時の生活面がもう少し高かったとしても、南側に十分な庭空間を持つことが難しい。つまり、空間的な広がりには北側の尾根頂部にあり、正面という用語が適切でないかもしれないが、北側が正面とも思える。そうすれば、90-1建が北側に縁を持つこともうなずけることとなるが、可能性の一つである。

X=61822ラインには、東西方向に延びる掘り込み面があり、南側に緩い傾斜地が造成されている。この造成面には90-2建、90-3建が建つが、建物の軸方位も合っておらず、関連性を見いだすことができない。この造成面と建物群は、安易に一連の遺構とすることはできないだろう。建物をほぼ同じ標高に並べて建て、しかも尾根頂部よりも1m近くも下げる効果を考えれば、まずは風除けではないだろうか。もし眺望を優先するなら、頂部を避はずである。北風を避けて南向きに建物を建てることは、生活感覚では至極当たり前のことである。庭についても、特段水平にこだわる必要はなく、緩い尾根部を有効に使うことは可能であろう。しかし、これによって北側を正面と決めることは難しい。

本遺構については、領域を圍繞するような明確な区画施設は伴っていないが、屋敷遺構である可能性が高いと考えている。北限については、おそらく軽微ではあるが、90区1号溝が境界を形成し、以北の谷地形を意識していたのだろう。この谷地形は調査区の東を巻き込んで南に抜けている。90区1号溝は、Y=100998ラインで途切れて、その北側は斜面が緩やかに張り出す形で、平坦部を形成している。この部分を通路と考えることも可能だろう。そうすると、建物が南に偏在することにはなるが、北側に広い空き空間を持つことは無駄なわけではなく、多目的な使用が可能であるという見方でもできる。

V まとめと課題

調査区の南側には集落の主要道が走るが、そこから谷地形へ入る農道があり、斜面を上って調査区の東に出るようになっていた。これが本建物群への入り口の一つに相当するものと考えられる。この場合は、90-1建が最も出入りに近い可能性が出てくるが、出入り口は一つとは限らない。やはり、正面入り口を北側として、建物群が最も奥まった南端と考えるのが、自然のように思える。

(6) 本遺構が持つ可能性

本遺構の立地をみると、城郭的な観点から、いわゆる要害の地ということが出来る。西側をやや深い小河川が流れ、南面は急峻な崖地となる崖端であるとともに、東面から北面に谷地形がL字形に回り込んで、独立した高台を形成しているからである。筆者は発掘調査以前に、この谷地形の斜面裾部に堀割を予測していたほどであったが、軽微な90区1号溝しか発見できなかった。しかし、掘がないとしても、谷地形との間に十分な比高差を持つことは変わらない。さらに、今回は発掘調査範囲ではなかったが、南面約2m程下がったところに、幅5m内外の細長い畑地が広がっていて、西側河川際まで続いている。こうした雑壇上の畑は、山麓部では珍しくはないが、本遺構の全体型と合わせて考えると、城郭でいうところの腰郭を思わせる配置となっている。中世に比定し得る建物群を伴っていることを考慮すれば、西側の山麓に広がる川原畑集落を背景とする暫的な小城郭も可能性を持つものと考えたい。

(7) まとめと課題

前項でやや踏み込んだ可能性を述べたが、こうした機能も踏まえた上で、本遺構を総括する。90区1号溝以南を圍繞された屋敷空間と考えると、一辺約40~50m規模の屋敷ととらえることが可能である。中心的な建物は90-1建であり、面積51.84m²を基準にすると、筆者が以前屋敷規模と中心建物との相関関係をみた結果である1/3~2/5町四方規模の屋敷と一致することとなる(飯森1999)。ただし、立地形態からみれば、城郭的な要素が強いものとする。

建物配置では、横並びに建物を配置することが注

目される。この場合、中心的な建物は90-1建であっても、その前庭部を介してコの字形やL字形に建物を配置する類型とは異なる。より簡便な屋敷形態と考えると、一文字形と仮称しておく。

90-1建は北面に縁を設けると考えたが、珍しい例ではあるものの、ハッ場地区では榎木Ⅱ遺跡(2004)でも検出されており、今後類例が増えるものと推測する。桁行平均柱間は8尺台であることが判明した。これもあまり出土例を認識していないが、奥田道下遺跡の事例なども考慮して、吾妻地域の地城色も視野に入れて検討していければと思う。

末筆ながら、発掘調査段階から便宜を図って頂いた調査担当 飯田陽一氏ならびに、検討の機会を与えてくださった整理担当 篠原正洋氏に感謝する次第である。

参考文献

- 藤生敏隆 2004 「榎木Ⅱ遺跡」『年報24』(財)群馬県歴史文化財調査事業団
- 飯森康広 1999 「中世後期館跡とその周辺構造—群馬県下榎木町田遺跡を中心として—」『信濃』第51巻第10号通巻第597号
- 同 2004 「奥田道下遺跡(榎城)調査の建物を中心として」『奥田道下遺跡(榎城)』(財)群馬県歴史文化財調査事業団
- 同 2005 「小規模な中世屋敷内部の建物史蹟と傾向—独立柱建物の桁行平均柱間を視点に—」『研究紀要23』(財)群馬県歴史文化財調査事業団

VI 自然科学分析

1 分析地点と試料について

三平Ⅰ遺跡・三平Ⅱ遺跡では旧石器試掘調査を実施した。三平Ⅰ遺跡ではローム面がやや尾根状に高い部分の14グリッド(90区G-17、H-17・18、I-16~21、J-17~21グリッド)において、南北3.5m×東西3.5mの正方形のトレンチを設定し、三平Ⅱ遺跡でも同地形の部分の54グリッド(81区A-9、B-7~9、C-8~10、D-7~10、E-10・11、F-9~11、G-9~12、H-9~11、I-10~12、J-10~13、K-10~13、L-11~15、M-11~17、N-13~17、O-15~17)において、南北2m×東西1.5mの長方形を基準に、場合に応じて3.5m×3.5mまで拡張した正方形のトレンチを設定し、発掘調査を実施した。

その際、三平Ⅱ遺跡における旧石器試掘調査の過程において、浅間草津黄色軽石(As-YPk)純堆積層の上に、層位や年代が不明な褐色土の2次堆積ローム質土層が確認された。そこで、該期の吾妻川流域における火山災害或いは自然災害の存在が解明できる可能性が高いと判断され、本分析に至った。

なお、試料採取地点A地点は81区M-13グリッドの試掘トレンチ北壁、B地点は81区O-17グリッドの試掘トレンチ東壁である。

2 群馬県三平遺跡の火山灰分析

株式会社古環境研究所

1. はじめに

関東地方北西部に位置する吾妻川流域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、浅間や榛名など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆

1 分析地点と試料について

積年代を知ることができるようになっていく。

そこで、層位や年代が不明な土層が検出された三平遺跡第1地点においても、地質調査を行い土層士の層序を記載するとともに、火山ガラス比分析と屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土構の層位や年代に関する資料を収集することになった。

調査分析の対象となった地点は、第1地点のA地点とB地点の2地点である。

2. 土層の層序

(1) A地点

A地点では、成層した黄灰色砂質細粒火山灰層(層厚5cm以上)の上位に、下位より白色軽石混じり褐色土(層厚21cm、軽石の最大径19mm)、白色軽石を多く含む砂混じり褐色土(層厚59cm、軽石の最大径13mm)、黄色土(試料1)や黄色軽石層(試料2')のブロックを含む黄灰色泥流堆積物(層厚24cm、マトリクス:試料2)が認められる(図1)。これらのうち、最下位の成層した黄灰色砂質細粒火山灰層は、層相から約1.3~1.4万年前^{*)}に浅間火山から噴出した浅間草津黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)の上部の浅間草津軽石(As-K, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)最上部と考えられる。

(2) B地点

B地点では、下位より白色軽石混じり褐色土(層厚46cm以上、軽石の最大径28mm)、下部が灰色がかかった黄灰色泥流堆積物(層厚36cm)、褐色土(層厚11cm)、円磨された黄色軽石を含む灰褐色土(層厚31cm、軽石の最大径6mm)が認められる(図2)。

3. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

A地点およびB地点において採取された分析試料のうち、15点について火山ガラス比分析を行い、火山ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準を求め

VI 自然科学分析

ることとした。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料12gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 分析篩により1/4-1/8mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を求める。

(2) 分析結果

A地点およびB地点における火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして図3および図4に、その内訳を表1に示す。A地点では、いずれの試料からも火山ガラスを検出することができた。分析対象試料の中では、泥流堆積物中の軽石層から採取された試料2'にもっとも多く火山ガラスが含まれており(18.4%)、逆に黄色土から採取された試料1にもっとも少ない(1.2%)。試料2'に含まれる火山ガラスは量が多い順に、中間型ガラス(10%)、繊維束状に発泡した軽石型ガラス(6.8%)、スポンジ状に発泡した軽石型ガラス(1.2%)、透明のバブル型ガラス(0.4%)が含まれている。泥流堆積物の下位の土層には、10%前後の火山ガラスが含まれている。そのほとんどで、中間型ガラス、繊維束状に発泡した軽石型ガラス、スポンジ状に発泡した軽石型ガラス、透明のバブル型ガラスが認められる。それらの中では、試料13にもっとも多く火山ガラスが含まれている(16.0%)。

B地点でも、いずれの試料からも10%前後の火山ガラスが検出され、A地点の泥流堆積物の下位の土層に含まれる火山ガラスと同じような特徴をもつ火山ガラスが検出された。試料4に含まれる火山ガラスは、量が多い順に中間型(11.2%)、繊維束状に発泡した軽石型(4.8%)、スポンジ状に発泡した軽石型(2.0%)、透明のバブル型(0.4%)である。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

泥流堆積物の下位の土層中でもっとも多く火山

ガラスが認められた試料(A地点・試料13)、泥流堆積物中の軽石層(試料2')、泥流堆積物の上位の土層中でもっとも多く火山ガラスが認められた試料(B地点・試料4)の3点を対象として、含まれる火山ガラスの屈折率(n)の測定を行った。測定には、温度変化型屈折率測定装置(MAIOT)を利用した。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。A地点の試料13に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.501-1.506(mode:1.503)である。また泥流堆積物中の軽石層(試料2')に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.501-1.504(mode:1.503)である。さらに、B地点の試料4に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.501-1.503(mode:1.502)である。

5. 考察

泥流堆積物の下位の土層中でもっとも多く火山ガラスが認められたA地点の試料13に含まれる火山ガラスの多くについては、その形態や屈折率などからAs-YPあるいはAs-K、さらに約1.6-1.7万年前¹⁾に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1, 中沢ほか, 1985, 町田・新井, 1992, 早田, 1996)および浅間大窪沢第2軽石(As-Ok2, 中沢ほか, 1985, 町田・新井, 1992, 早田, 1996:合わせて浅間大窪沢軽石群、As-Ok Groupと呼ぶ)に由来する可能性が高い。ただし、この試料にはごくわずかながら若干屈折率の高いもの含まれており、それについては約1.5-2.0万年前に浅間火山から噴出した浅間白糸軽石(As-Sr, 町田ほか, 1984)や、約1.1万年前²⁾に浅間火山から噴出した浅間総社軽石(As-Sj, 早田, 1990, 1991, 1996)に由来する可能性が考えられる。

また、泥流堆積物の上位の土層中でもっとも多く火山ガラスが認められたB地点の試料4に含まれる火山ガラスについては、その形態や屈折率などからAs-Kのほか、As-Ok Groupに由来する可能性が考

えられる。なお、火山ガラス比分析で検出された、透明のバブル型ガラスのうち薄手のものについては、その特徴から約2.4~2.5万年前*1に南九州地方の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995)に由来する可能性が考えられる。

以上のことから、三平遺跡において検出された泥流堆積物の層位については少なくともAs-Kより上位にあるといえる。また、泥流堆積物の下位に黒ボク土と呼ばれる腐植質土壌が認められないことから泥流堆積物の年代は更新世末期の可能性もある。また屈折率測定の結果を考慮すると、As-Sjより上位にあるのかも知れない。関東地方北西部では、最近発生原因が不明な泥流堆積物が多く検出されており、このような泥流堆積物の層位や年代を明らかにすることは考古学のみならず、地域災害史の研究の上でも重要なことから、今後遺跡周辺において地質調査やテフラ分析を行ってその層位や年代を求めることが期待されよう。

6. まとめ

三平遺跡において、地質調査、火山ガラス比分析、屈折率測定を行った。その結果、浅間草津軽石(As-K, 約1.3~1.4万年前*1)の上位に褐色土を挟んで更新世末期に堆積した可能性がある泥流堆積物を認めることができた。

*1 放射性炭素(¹⁴C)年代。ATとAs-Kの暦年は、各々約2.6~2.9万年前と約1.5万年前と考えられている(町田・新井, 2003)。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部の第四紀層年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地質研専報, no.45, 65p.
- 池田晃子・奥野 光・中村俊夫・菊井正明・小林哲夫(1995)南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による¹⁴C年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義-。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学-考古学研究と関係するテフラのカatalog-。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)始良Tn火山灰(AT)の¹⁴C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993)四国沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討-タンデムアロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の¹⁴C年代。地質録, 99, p.787-798.
- 中沢東俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山, 黒塚-前層期のテフラ順序。第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 早田 勉(1990)群馬県自然と風土。群馬県史編さん委員会編「群馬県史通史編」, 1, p.37-129.
- 早田 勉(1991)浅間火山の生い立ち。佐久考古通信, no.53, p.2-7.
- 早田 勉(1996)関東地方-東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

表1 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	その他	合計
A地点	1	0	0	0	2	0	1	247	250
	2'	1	0	0	25	3	17	204	250
	3	1	0	0	13	3	10	223	250
	5	1	0	0	16	2	8	223	250
	7	2	0	0	17	4	11	216	250
	9	1	0	0	21	1	8	219	250
	11	2	0	0	18	0	5	225	250
	13	0	0	0	23	3	14	210	250
	15	0	0	0	10	2	7	231	250
	17	2	0	0	16	4	10	218	250
B地点	19	0	0	0	19	6	8	217	250
	2	1	0	0	17	3	11	218	250
	4	1	0	0	28	5	12	204	250
	6	3	0	0	10	4	5	228	250
	8	4	0	0	0	1	0	245	250

数字は粒子数。bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，cl：透明，pb：淡褐色，br：褐色，sp：スポンジ状，fb：繊維束状。

表2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラスの屈折率 (n)
A地点	2'	1.501-1.504 (1.503)
	13	1.501-1.506 (1.503)
B地点	4	1.501-1.503 (1.502)

屈折率測定は、MAIOTによる。()はmodeを示す。

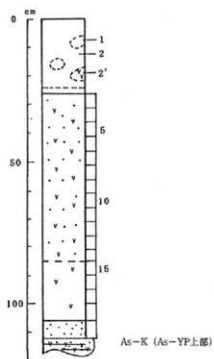


図1 A地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

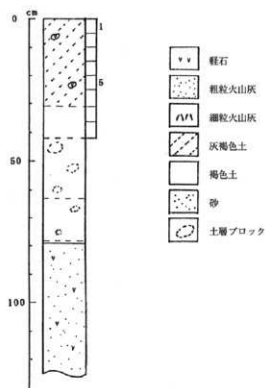


図2 B地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

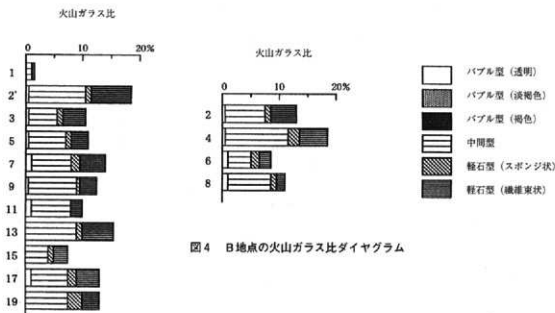


図3 A地点の火山ガラス比ダイヤグラム

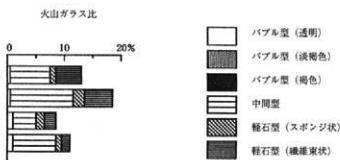


図4 B地点の火山ガラス比ダイヤグラム

報告書抄録

書名ふりがな	さんだいらいちいせき
書名	三平Ⅰ・Ⅱ遺跡
副書名	ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	13
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	401
編著者名	藤原正洋
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20070228
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北楯町下箱田784-2

遺跡名ふりがな	さんだいらいちいせき
遺跡名	三平Ⅰ遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらはた
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑
市町村コード	10424
遺跡番号	0003
北緯(日本測地系)	363308
東経(日本測地系)	1384220
北緯(世界測地系)	363319
東経(世界測地系)	1384209
調査期間	20040510-20041228/20050701-20050831
調査面積	1382/814
調査原因	ハツ場ダム建設工事に伴う川原畑地区代替地造成工
種別	集落/その他
主な時代	縄文/平安
遺跡概要	集落-縄文-竪穴住居2・土器+石器/平安-掘立柱建物3+焼土10・土師器+須恵器/その他-縄文-土坑10・土器+石器/平安-土坑100・土師器+須恵器+羽口
特記事項	縄文前期諸磯式期の住居・古代の土坑(陥し穴)群

遺跡名ふりがな	さんだいらにいせき
遺跡名	三平Ⅱ遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらはた
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑
市町村コード	10424
遺跡番号	0004
北緯(日本測地系)	363307
東経(日本測地系)	1384217
北緯(世界測地系)	363319
東経(世界測地系)	1384206
調査期間	20040510-20041228
調査面積	3754
調査原因	ハツ場ダム建設工事に伴う川原畑地区代替地造成工
種別	集落/散布地/その他
主な時代	縄文/平安/中世
遺跡概要	集落-平安-焼土2/中世-掘立柱建物7+柱穴列1+礎石2+溝1/散布地-縄文-土器+石器/その他-縄文-土坑39+樹木痕1・土器+石器/平安-土坑83+焼土2/中世-集石3+土坑2
特記事項	縄文草創期から前期末までの土器と石器(石礫)・古代の土坑(陥し穴)群・中世掘立柱建物群

写 真 图 版



三平Ⅰ遺跡平安面陥し穴群全景 北西→



三平Ⅰ遺跡土坑群全景 北西→



1号住居全景 南→



1号住居炉全景 南→



1号住居遺物出土状況 西→



1号住居東側遺物出土状況 南→



3号住居全景 南→



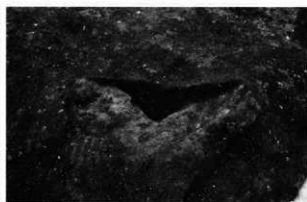
3号住居遺物出土状況 西→



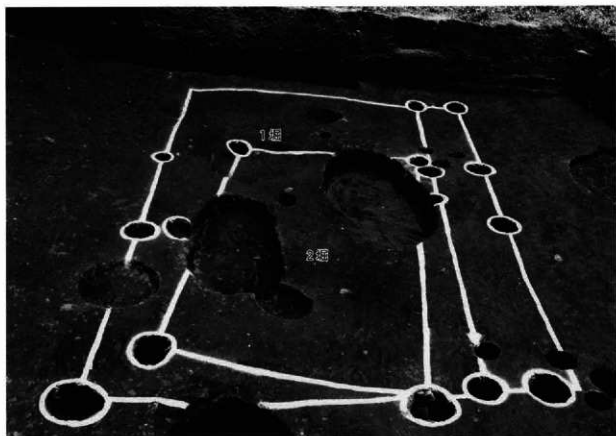
3号住居全景 西→



3号住居1号炉セクション 南→



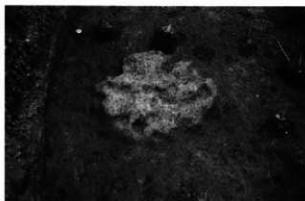
3号住居2号炉セクション 南東→



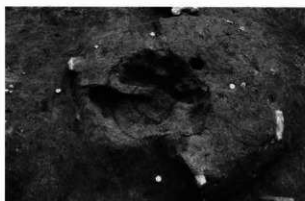
1・2号獨立柱建物全景 西→



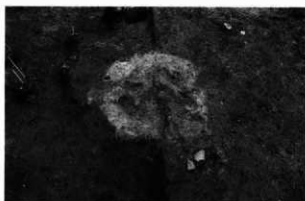
3号獨立柱建物全景 西→



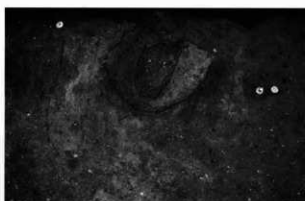
1号焼土全景 東→



1号焼土掘り方 東→



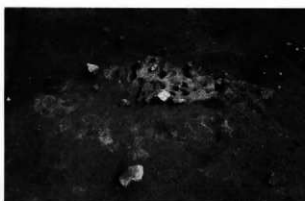
2号焼土全景 東→



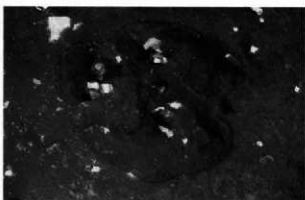
2号焼土掘り方 東→



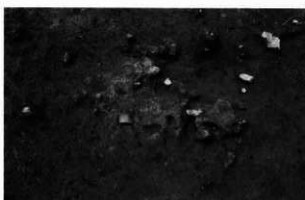
3号焼土全景 東→



4号焼土全景 南→



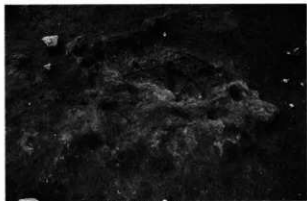
4号焼土掘り方 南→



5号焼土全景 南→



6号焼土全景 南→



6号焼土掘り方 南→



7号焼土全景 東→



8号焼土全景 南→



9号焼土全景 南→



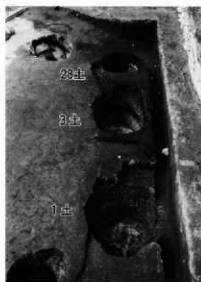
9号焼土セクション 南→



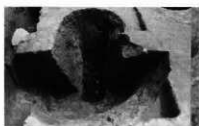
10号焼土全景 東→



10号焼土セクション 東→



1・3・28号土坑全景 東→



1号A土坑全景 北→



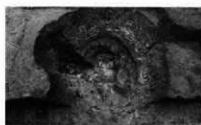
2号土坑全景 東→



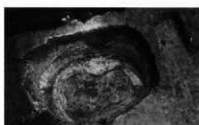
1号A土坑セクション 南→



2号土坑セクション 南→



1号B土坑全景 北東→



3号土坑全景 西→



3号土坑セクション 南→



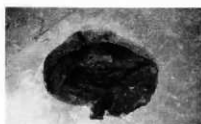
4号土坑全景 西→



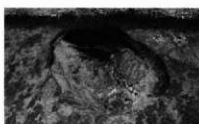
4号土坑セクション 西→



7号土坑全景 南西→



5号土坑全景 西→



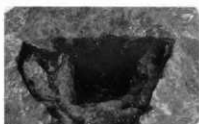
6号土坑全景 南→



7号土坑セクション 南西→



5号土坑セクション 南東→

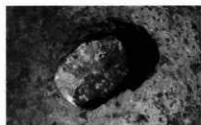


6号土坑セクション 南東→



7号土坑セクション 北東→

PL 8



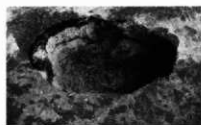
8号土坑全景 北西→



8号土坑セクション 南東→



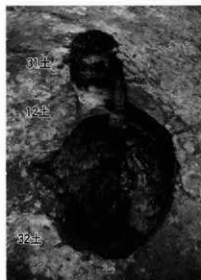
9号土坑全景 西→



10号土坑全景 西→



10号土坑セクション 南→



12・31・32号土坑全景 西→



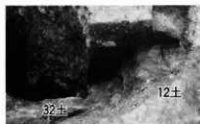
11号土坑全景 北→



11号土坑セクション 東→



12号土坑セクション 南→



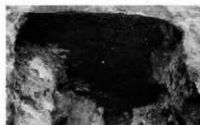
12・32号土坑切合セクション 東→



13号土坑セクション 西→



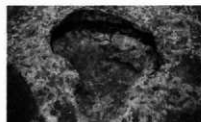
14号土坑全景 南→



14号土坑セクション 南→



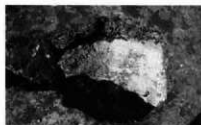
13号土坑全景 西→



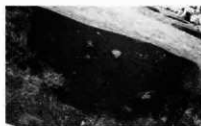
15号土坑全景 南→



15号土坑セクション 東→



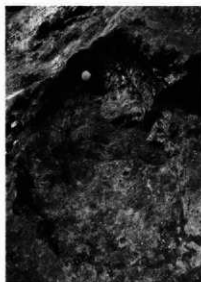
16号土坑全景 南→



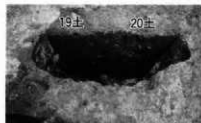
16号土坑セクション 南西→



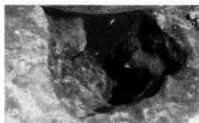
17号土坑全景 北→



18号土坑全景 東→



19・20号土坑切合せクション 東→



17号土坑セクション 西→



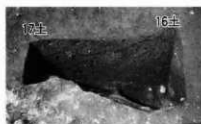
18号土坑セクション 西→



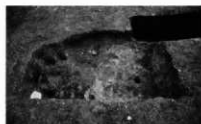
19号土坑全景 東→



20号土坑全景 東→



16・17号土坑切合せクション 南→



21号土坑全景 北→



19号土坑セクション 東→



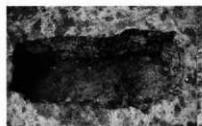
20号土坑セクション 東→



21号土坑セクション 東→



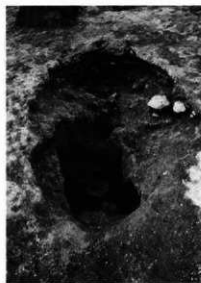
22号土坑全景 東→



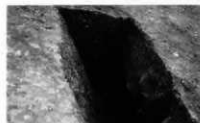
25号土坑全景 南→



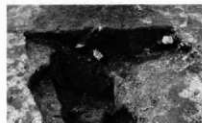
25号土坑セクション 南→



26号土坑全景 南→



22号土坑セクション 西→



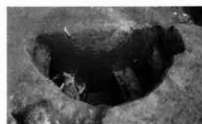
26号土坑セクション 南→



27号土坑全景 南→



28号土坑全景 北東→



28号土坑セクション 南→



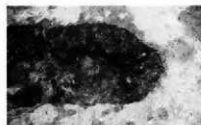
27号土坑セクション 南→



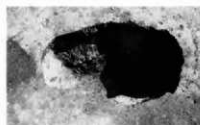
29号土坑全景 南東→



29号土坑セクション 東→



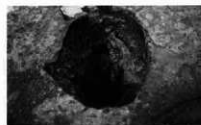
31号土坑全景 東→



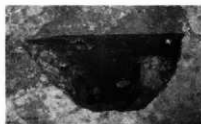
30号土坑全景 南→



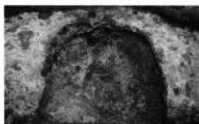
30号土坑セクション 東→



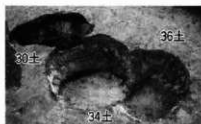
32号土坑全景 南→



32号土坑セクション 南→



33号土坑全景 東→



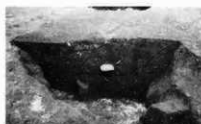
30・34・36号土坑全景 南→



35号土坑全景 北東→



33号土坑セクション 東→



34号土坑セクション 南→



37号土坑全景 南→



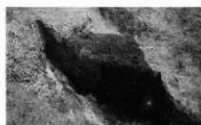
37号土坑セクション 西→



35号土坑セクション 北東→



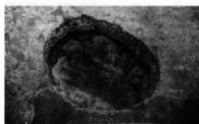
39号土坑全景 西→



39号土坑セクション 西→



40号土坑全景 西→



41号土坑全景 南→



40号土坑セクション 東→



41号土坑セクション 西→



42号土坑全景 東→



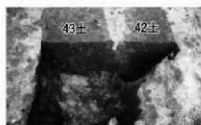
42号土坑全景 東→



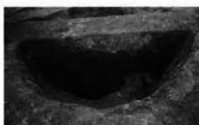
46号土坑全景 南→



47号土坑全景 北→



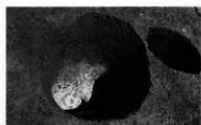
42・43号土坑セクション 東→



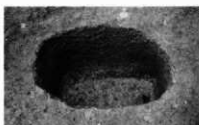
46号土坑セクション 東→



47号土坑セクション 東→



48号土坑全景 南西→



49号土坑全景 南→



50号土坑全景 南→



48号土坑セクション 南→



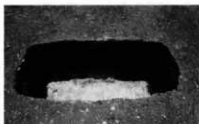
49号土坑セクション 東→



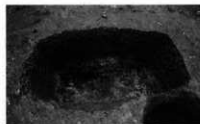
50号土坑セクション 東→



52号土坑全景 南→



53号土坑全景 北→



54号土坑全景 北→



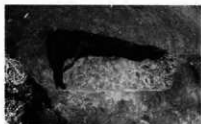
52号土坑セクション 東→



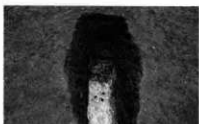
53号土坑セクション 東→



54号土坑セクション 東→



55号土坑全景 東→



56号土坑全景 南→



57号土坑全景 南→



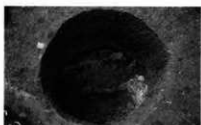
55号土坑セクション 東→



56号土坑セクション 南→



57号土坑セクション 南→



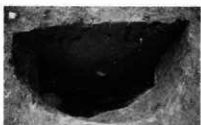
58号土坑全景 南→



59号土坑全景 北→



60号土坑全景 南→



58号土坑セクション 南→



59号土坑セクション 南→



60号土坑セクション 北→



62号土坑全景 西→



63号土坑全景 西→



63号土坑セクション 南→



62号土坑セクション 南→



64号土坑全景 南→



63号土坑セクション 南→



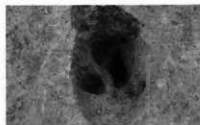
65号土坑セクション 東→



66号土坑全景 東→



67号土坑全景 南→



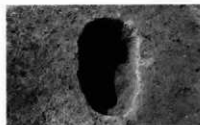
65号土坑全景 南→



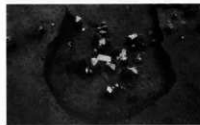
66号土坑セクション 東→



67号土坑セクション 東→



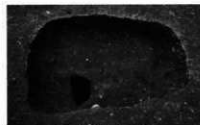
68号土坑全景 南→



73号土坑遺物出土状況 南→



74号土坑全景 南→



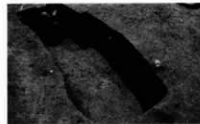
69号土坑全景 南→



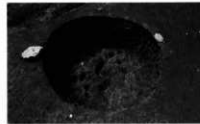
73号土坑セクション 北→



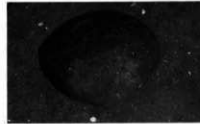
74号土坑セクション 東→



75号土坑全景 東→



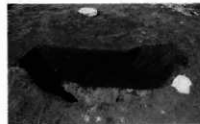
82号土坑全景 南→



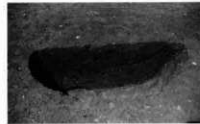
83号土坑全景 南→



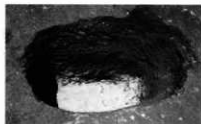
75号土坑セクション 東→



82号土坑セクション 東→



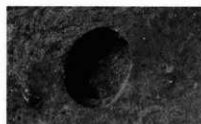
83号土坑セクション 東→



84号土坑全景 南→



87号土坑全景 南→



88号土坑全景 南→



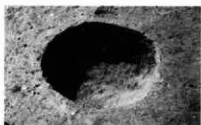
84号土坑セクション 東→



87号土坑セクション 東→



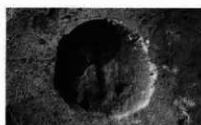
88号土坑セクション 東→



89号土坑全景 南→



90号土坑全景 南→



91号土坑全景 南→



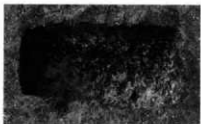
89号土坑セクション 東→



90号土坑セクション 西→



91号土坑セクション 東→



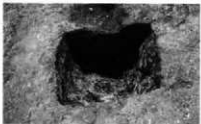
92号土坑全景 南→



93号土坑全景 南→



94号土坑全景 東→



92号土坑セクション 東→



93号土坑セクション 東→



94号土坑セクション 南→



95号土坑全景 南→



96号土坑全景 南→



97号土坑セクション 東→



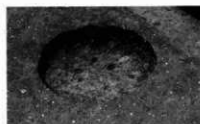
95号土坑セクション 南→



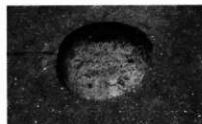
96号土坑セクション 南→



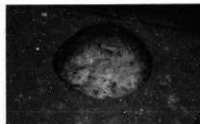
97号土坑遺物出土状況 西→



98号土坑全景 東→



99号土坑全景 東→



100号土坑全景 西→



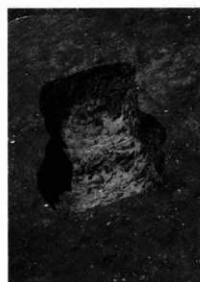
98号土坑セクション 東→



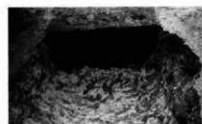
99号土坑セクション 東→



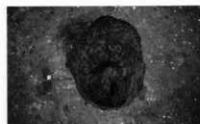
100号土坑セクション 西→



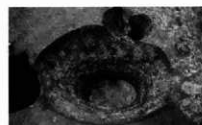
101号土坑全景 東→



101号土坑セクション 東→



102号土坑全景 南→



103号土坑全景 北→



102号土坑セクション 東→



1住-1



1住-2



1住-3



1住-4



1住-5



1住-6



1住-7



1住-8



1住-9



1住-10



1住-11



1住-12



1住-13



1住-14



1住-20



1住-15



1住-16



1住-21



1住-17

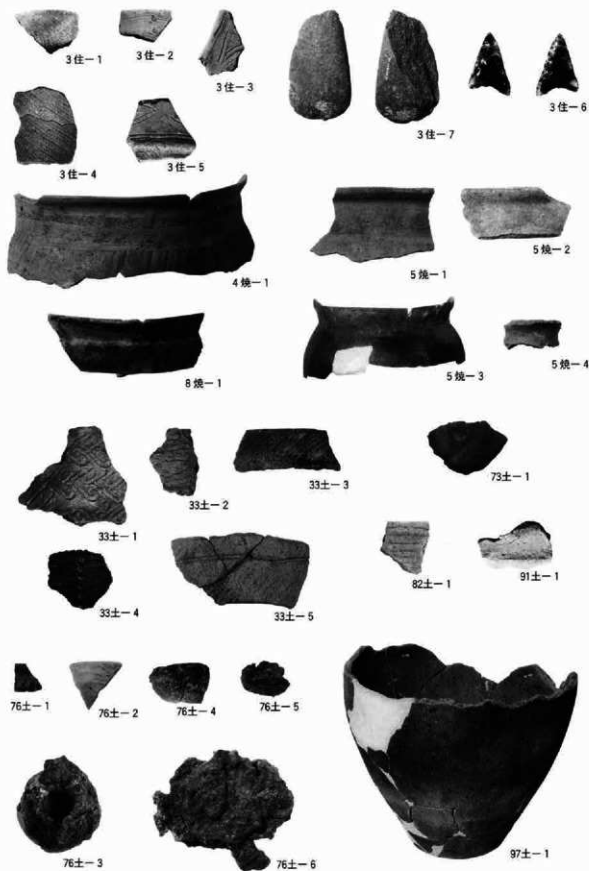


1住-18

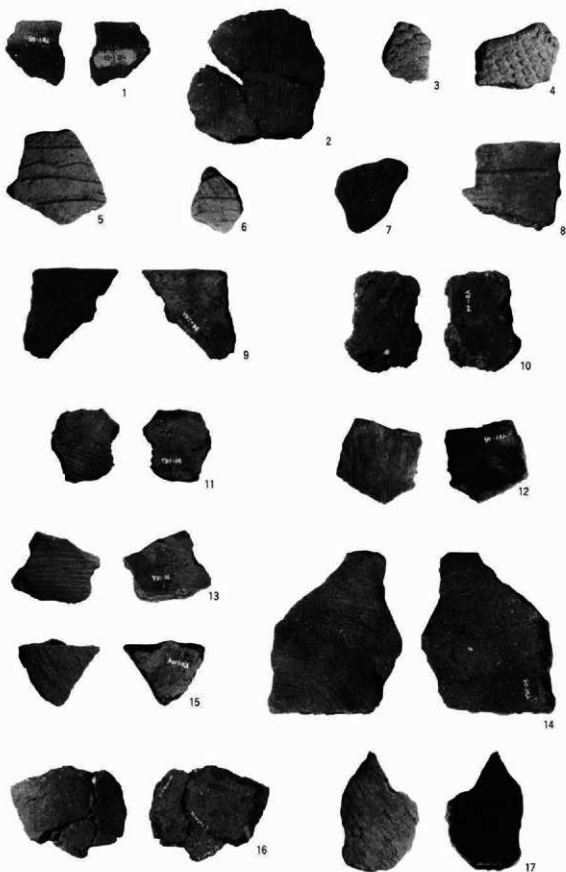


1住-19

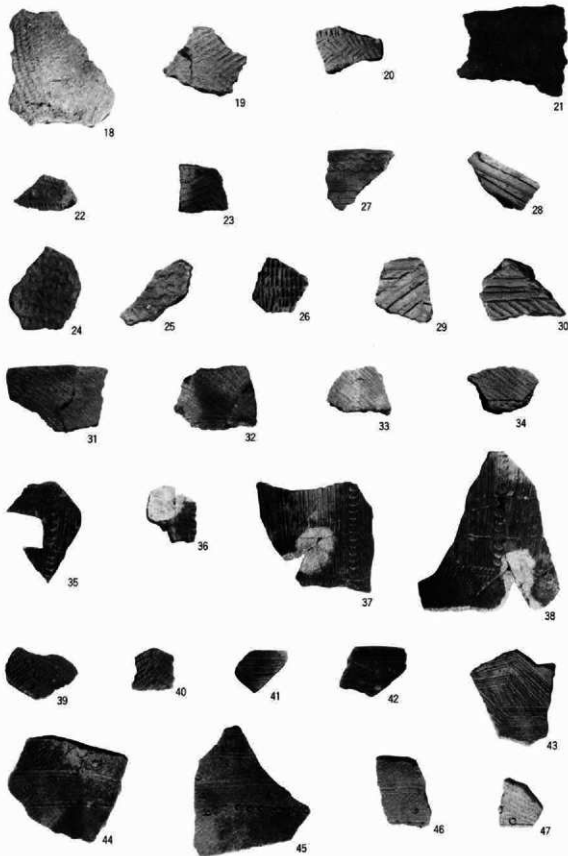
PL 18

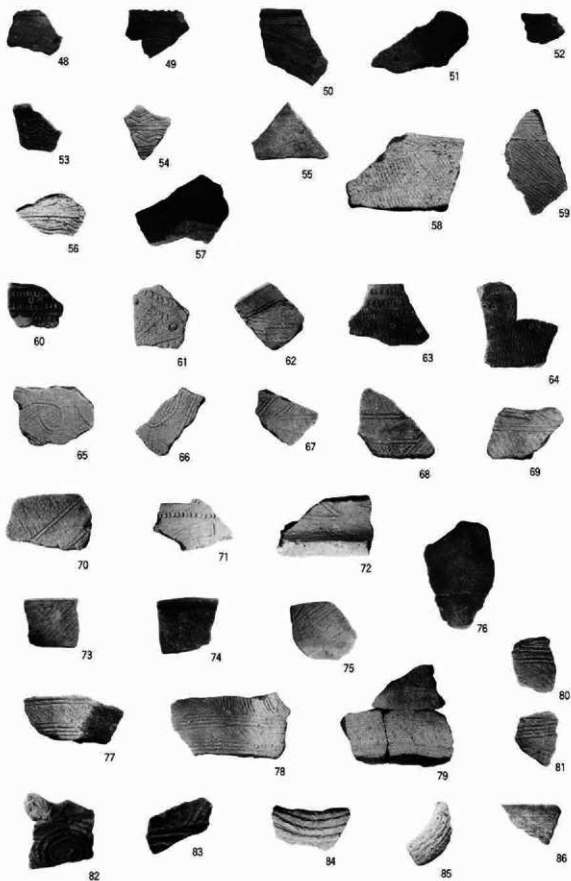


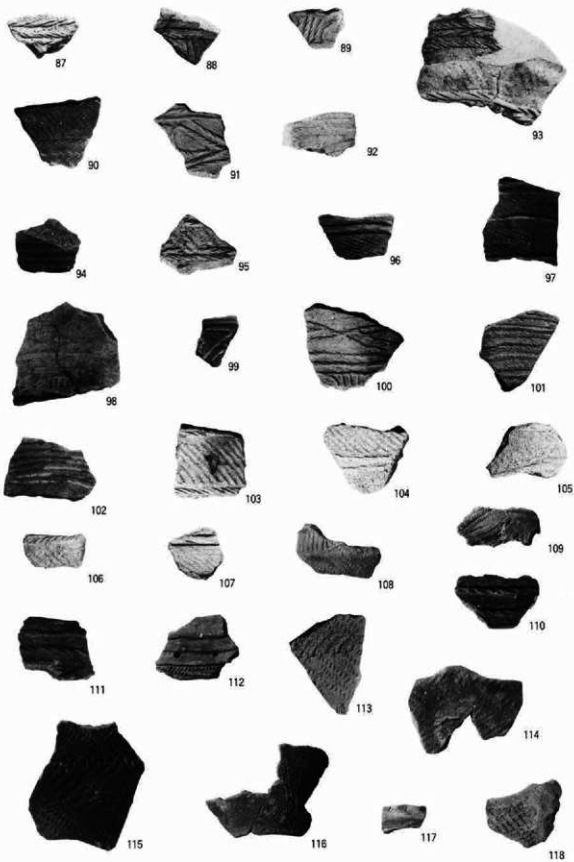
3号住居、4・5・8号烧土、33・73・76・82・91・97号土坑出土遺物

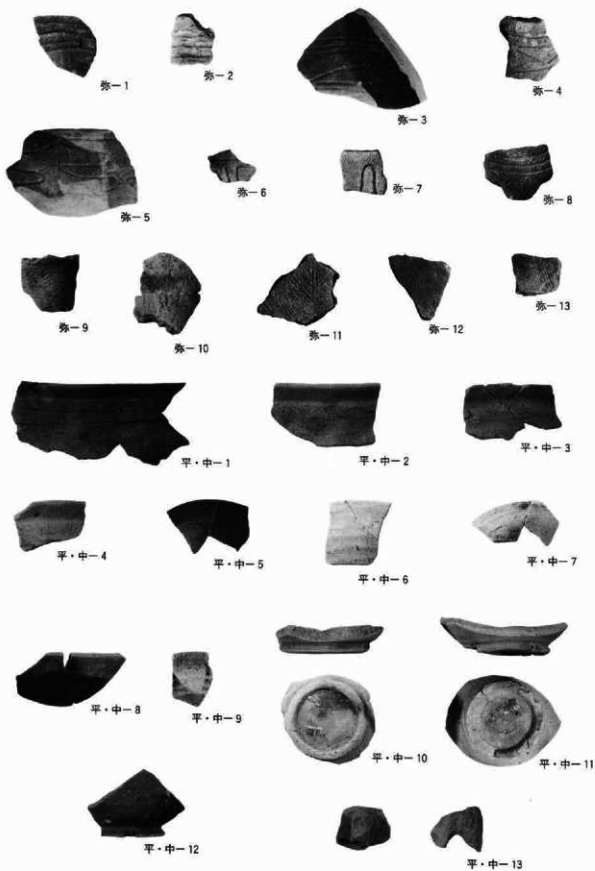


遺構外出土土器 (1)

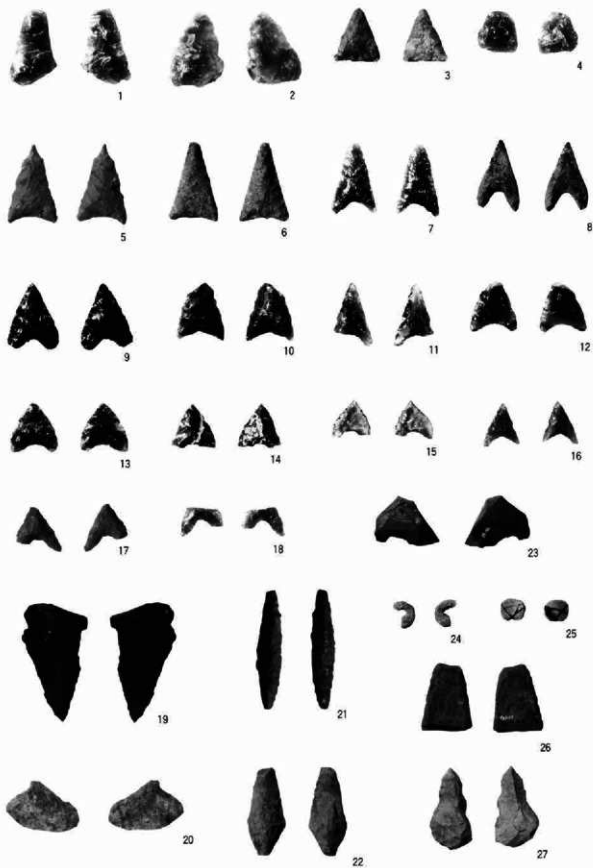








弥生時代、平安時代・中世遺構外出土土器





28



29



30



31



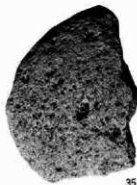
32



33



34



35



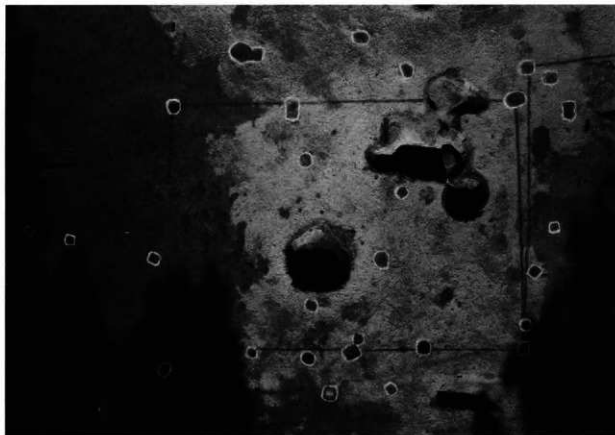
36



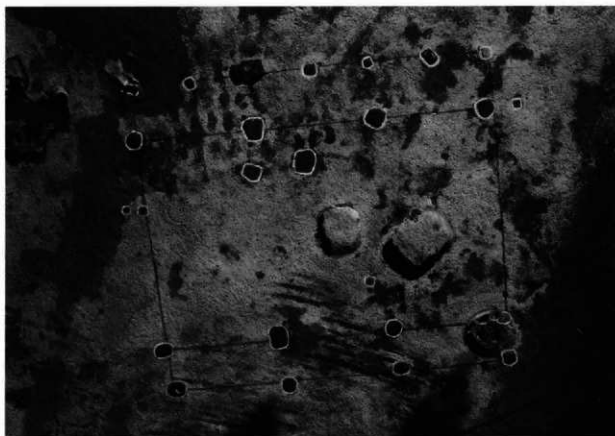
37



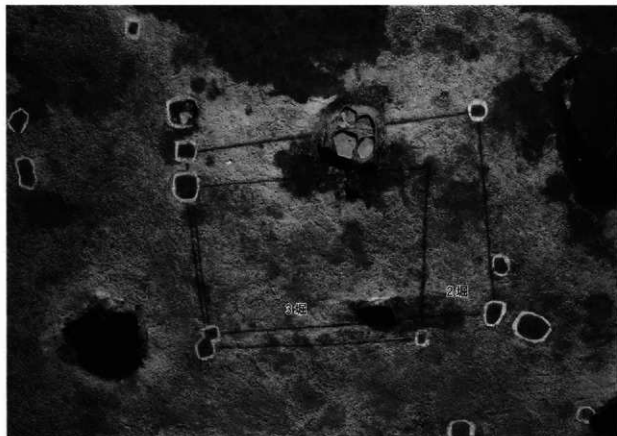
38



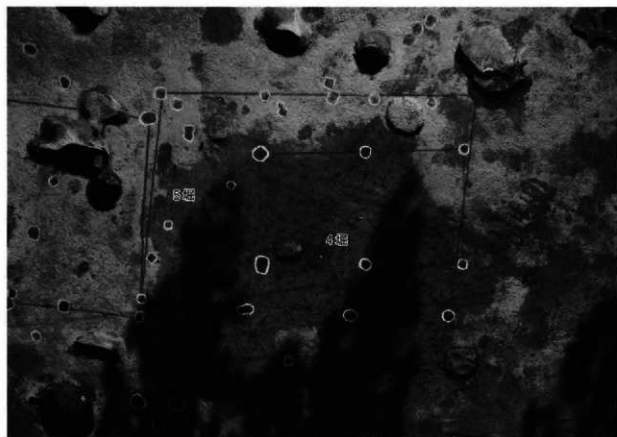
81区1号掘立柱建物全景



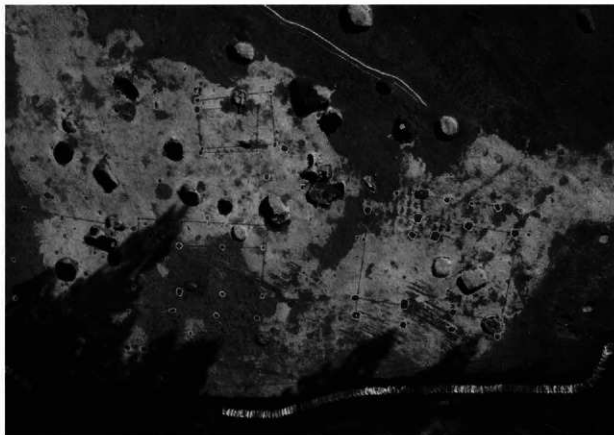
90区1号掘立柱建物全景



90区 2・3号掘立柱建物全景



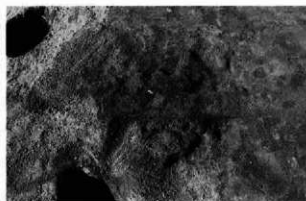
90区 4・5号掘立柱建物全景



81・90区掘立柱建物群全景南側



90区1号溝全景 北西→



90区1号埴土検出状況 東→



90区2号埴土セクション 東→



90区東側土坑群遠景 北→



90区1号柱列全景 西→



90区1・2号礎石見通し 南→



90区1号礎石 上→



90区2号礎石 上→



90区1号礎石 東→



90区2号礎石 東→



71区1号土坑全景 西→



81区1号土坑全景 南西→



81区2号土坑全景 東→



71区1号土坑セクション 南→



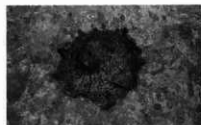
81区1号土坑セクション 南→



81区2号土坑セクション 南東→



81区3号土坑全景 北西→



81区4号土坑全景 南→



81区5号土坑全景 南→



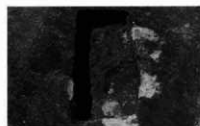
81区3号土坑セクション 北→



81区4号土坑セクション 南→



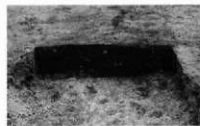
81区5号土坑セクション 南→



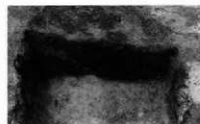
81区6号土坑全景 南東→



81区7号土坑全景 南東→



81区7号土坑セクション 南→



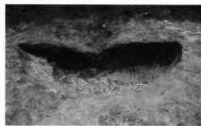
81区6号土坑セクション 南→



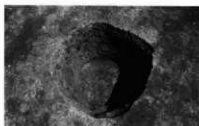
81区7号土坑セクション 南東→



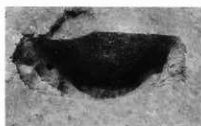
81区8号土坑全景 北→



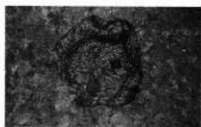
81区8号土坑セクション 北→



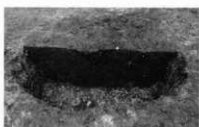
81区9号土坑全景 南→



81区9号土坑セクション 南→



81区10号土坑全景 南→



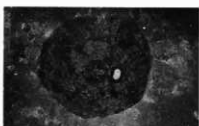
81区10号土坑セクション 南→



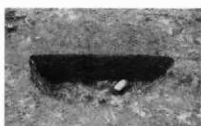
81区11号土坑全景 南→



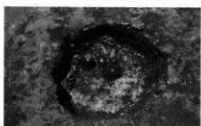
81区11号土坑セクション 南→



81区12号土坑全景 東→



81区12号土坑セクション 東→



81区13号土坑全景 南→



81区13号土坑セクション 南→



81区14号土坑全景 南東→



81区14号土坑セクション 南→



81区15号土坑全景 東→



81区15号土坑セクション 南→



81区16号土坑全景 南東→



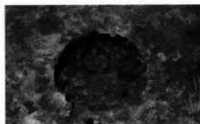
81区16号土坑セクション 南→



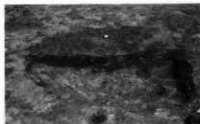
81区17号土坑全景 西→



81区17号土坑セクション 南→



81区18号土坑全景 南東→



81区18号土坑セクション 南→



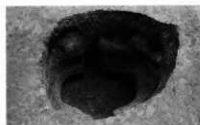
81区19号土坑全景 東→



81区19号土坑セクション 南東→



81区20号土坑セクション 東→



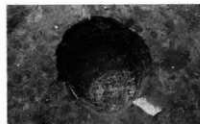
81区20号土坑全景 東→



81区21号土坑全景 東→



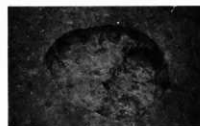
81区21号土坑セクション 北東→



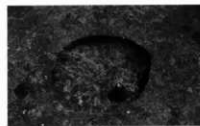
81区22号土坑全景 東→



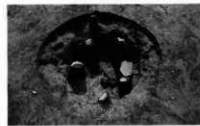
81区22号土坑セクション 東→



81区23号土坑全景 東→



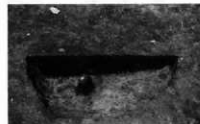
81区24号土坑全景 南→



81区25号土坑全景 南東→



81区23号土坑セクション 南東→



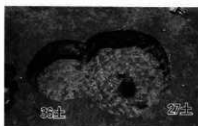
81区24号土坑セクション 東→



81区25号土坑セクション 東→



81区26号土坑全景 東→



81区27・36号土坑全景 北→



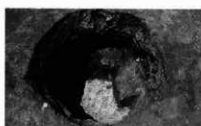
81区36号土坑セクション 南西→



81区26号土坑セクション 東→



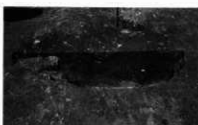
81区27号土坑セクション 南西→



81区28号土坑全景 東→



81区28号土坑セクション 東→



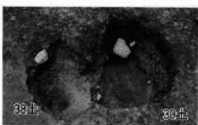
81区29号土坑セクション 東→



81区30号土坑セクション 北東→



81区29号土坑全景 東→



81区30・38号土坑全景 東→



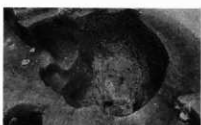
81区38号土坑セクション 東→



81区31号土坑全景 南→



81区32号土坑全景 南→



81区33号土坑全景 南→



81区31号土坑セクション 東→



81区32号土坑セクション 東→



81区33号土坑セクション 南→



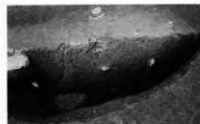
81区34・35号土坑全景 東→



81区37号土坑全景 北→



81区39号土坑全景 南東→



81区35号土坑セクション 東→



81区37号土坑セクション 北東→



81区39号土坑セクション 西→



81区40号土坑全景 南→



81区40号土坑セクション 南→



81区41号土坑逆茂木産検出状況 南→



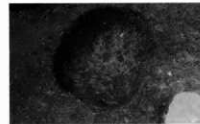
81区40号土坑逆茂木セクション 南→



81区41号土坑全景 西→



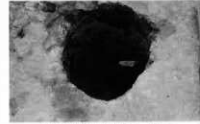
81区41号土坑セクション 南→



81区42号土坑全景 南→



81区43号土坑全景 西→



81区44号土坑全景 西→



81区42号土坑セクション 南→



81区43号土坑セクション 東→



81区44号土坑セクション 西→



81区45号土坑全景 南→



81区45号土坑セクション 南→



81区48号土坑全景 南→



81区48号土坑セクション 南→



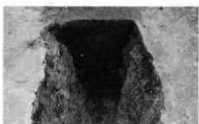
81区46号土坑全景 北→



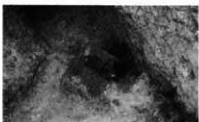
81区46号土坑セクション 西→



81区49号土坑全景 北→



81区49号土坑セクション 南東→



81区48号土坑炭化物出土状況 西→



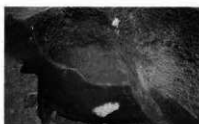
81区47号土坑全景 西→



81区47号土坑セクション 南→



81区50号土坑全景 南→



81区50号土坑セクション 南→



81区51号土坑全景 南西→



81区51号土坑セクション 南東→



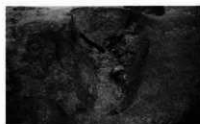
81区53号土坑セクション 南→



81区55号土坑全景 東→



81区52号土坑全景 東→



81区54号土坑全景 東→



81区52号土坑セクション 東→



81区54号土坑セクション 南→



81区56号土坑全景 南→



81区53号土坑全景 北→



81区55号土坑セクション 東→



81区56号土坑As-Kk検出面 南→



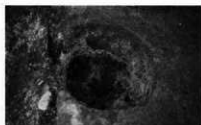
81区56号土坑セクション 南→



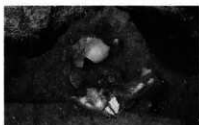
81区57号土坑全景 東→



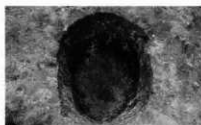
81区57号土坑セクション 西→



81区58号土坑全景 南→



81区58号土坑遺物出土状況 東→



81区59号土坑全景 東→



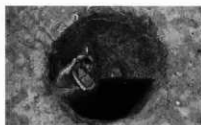
81区58号土坑遺物出土状況 南→



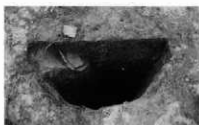
81区58号土坑セクション 南東→



81区60号土坑全景 南→



81区60号土坑遺物出土状況透景 東→



81区60号土坑セクション 東→



81区61号土坑セクション 北→



81区60号土坑遺物出土状況近景 東→



81区61号土坑全景 東→



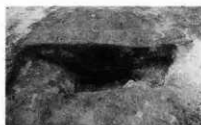
81区62号土坑全景 北→



81区62号土坑セクション 東→



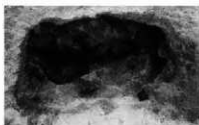
81区63号土坑セクション 南→



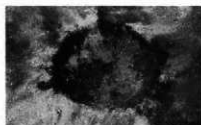
81区64号土坑セクション 東→



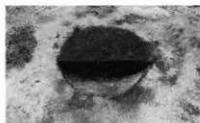
81区63号土坑全景 南→



81区64号土坑全景 北→



81区65号土坑全景 西→



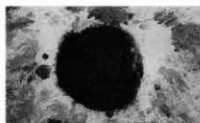
81区65号土坑セクション 東→



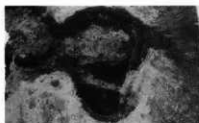
81区66号土坑セクション 南→



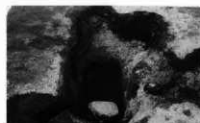
81区67号土坑セクション 東→



81区66号土坑全景 西→



81区67号土坑全景 東→



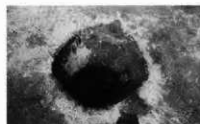
81区68号土坑全景 東→



81区68号土坑焼土検出状況 南→



81区69号土坑全景 南→



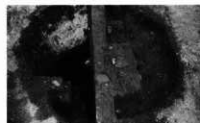
81区70号土坑全景 南→



81区68号土坑セクション 東→



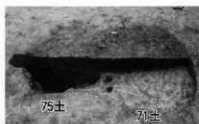
81区69号土坑セクション 南→



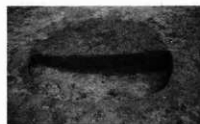
81区70号土坑遺物出土状況 南→



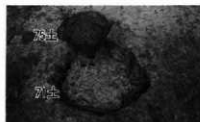
81区70号土坑セクション 西→



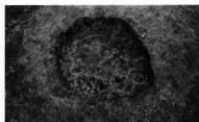
81区71・75号土坑セクション 西→



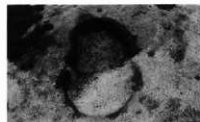
81区72号土坑セクション 南→



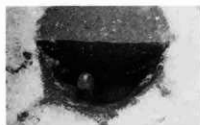
81区71・75号土坑全景 南東→



81区72号土坑全景 西→



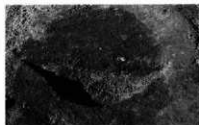
81区73号土坑全景 東→



90区7号土坑セクション 南→



90区8号土坑セクション 東→



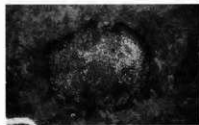
90区9号土坑セクション 南→



90区8号土坑全景 北→



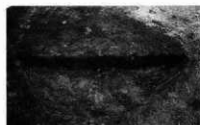
90区9号土坑全景 南→



90区10号土坑全景 南→



90区10号土坑セクション 東→



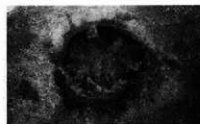
90区11号土坑セクション 東→



90区12号土坑セクション 南→



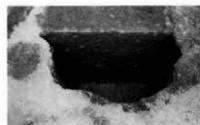
90区11号土坑全景 南→



90区12号土坑全景 南→



90区13号土坑全景 西→



90区13号土坑セクション 西→



90区14号土坑炭化材出土状況 東→



90区14号土坑セクション 西→



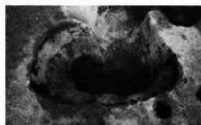
90区14号土坑全景 西→



90区14号土坑炭化材出土状況 南→



90区15号A土坑全景 西→



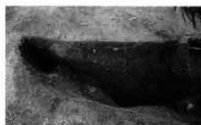
90区15号土坑全景 西→



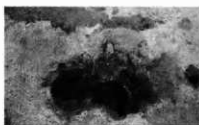
90区16号土坑全景 北→



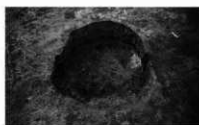
90区17号土坑セクション焼土検出状況 北→



90区15号土坑セクション 南東→



90区17号土坑全景 南→



90区18号土坑全景 西→



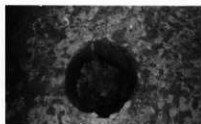
90区18号土坑セクション 西→



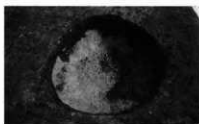
90区19号土坑セクション 東→



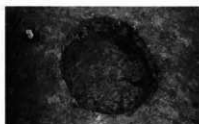
90区20号土坑セクション 東→



90区19号土坑全景 東→



90区20号土坑全景 西→



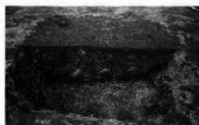
90区21号土坑全景 東→



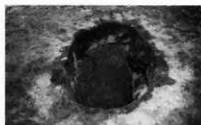
90区21号土坑セクション 東→



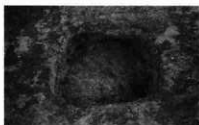
90区23号土坑セクション 北→



90区25号土坑セクション 東→



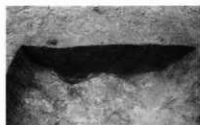
90区23号土坑全景 北→



90区25号土坑全景 北→



90区26号土坑全景 北→



90区26号土坑セクション 北→



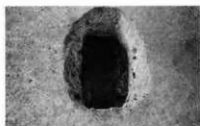
90区27号土坑セクション 南東→



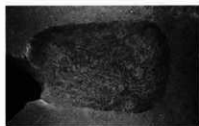
90区29号土坑セクション 西→



90区27号土坑全景 北西→



90区29号土坑全景 東→



90区31号土坑全景 北西→



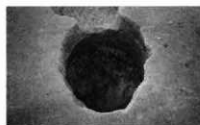
90区31号土坑セクション 南東→



90区32号土坑セクション 北→



90区33号土坑セクション 北→



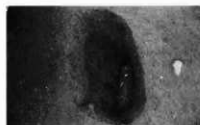
90区32号土坑全景 北東→



90区33号土坑全景 西→



90区34号土坑全景 北→



90区34号土坑遺物出土状況 東→



90区36号土坑全景 南→



90区37号土坑全景 北→



90区34号土坑セクション 西→



90区36号土坑セクション 南東→



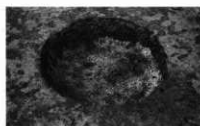
90区37号土坑セクション 東→



90区39号土坑全景 東→



90区41号土坑全景 北西→



90区42号土坑全景 東→



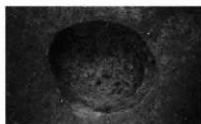
90区39号土坑セクション 東→



90区41号土坑セクション 北→



90区42号土坑セクション 東→



90区43号土坑全景 北→



90区44号土坑全景 北→



90区45号土坑全景 北東→



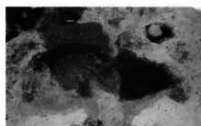
90区43号土坑セクション 北→



90区44号土坑セクション 北→



90区45号土坑セクション 南東→



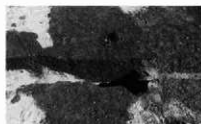
90区46号土坑全景 北西→



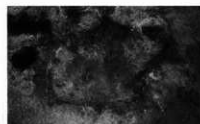
90区47号土坑全景 北西→



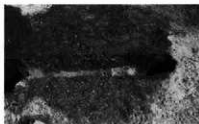
90区47号土坑セクション 西→



90区46号土坑セクション 西→



90区48号土坑全景 南→



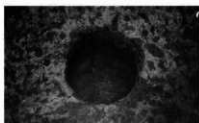
90区48号土坑セクション 西→



90区49号土坑全景 南→



90区49号土坑セクション 東→



90区50号土坑全景 北東→



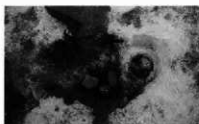
90区50号土坑セクション 南東→



90区51号土坑全景 北→



90区51号土坑セクション 東→



90区52号土坑遺物出土状況 南東→



90区52号土坑セクション 南東→



81区ローム面全景 遺構検出状況 北西→



81区1号集石-1



81区1号集石-2



81区1号集石-3



81区4土-1



81区13土-1



81区13土-2



81区13土-3



81区13土-4



81区13土-5



81区13土-6



81区25土-1



81区25土-2



81区25土-6



81区25土-3



81区25土-4



81区25土-5



81区30土-1



81区30土-2



81区30土-3



81区29土-1



81区54土-1



81区58土-1



81区58土-2



81区60土-1



81区58土-3



81区60土-2



81区60土-3



81区63土-1



81区63土-2



81区63土-3



81区66土-1



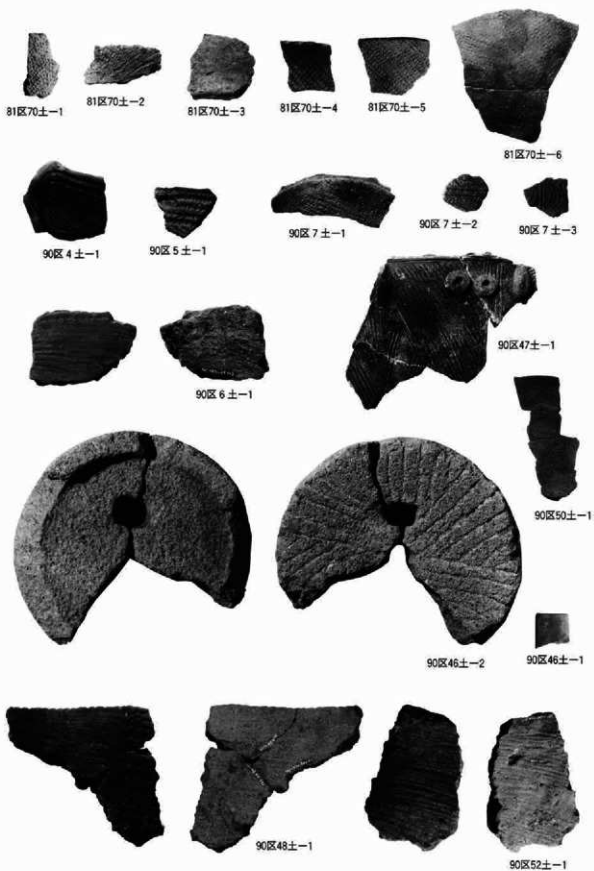
81区63土-4



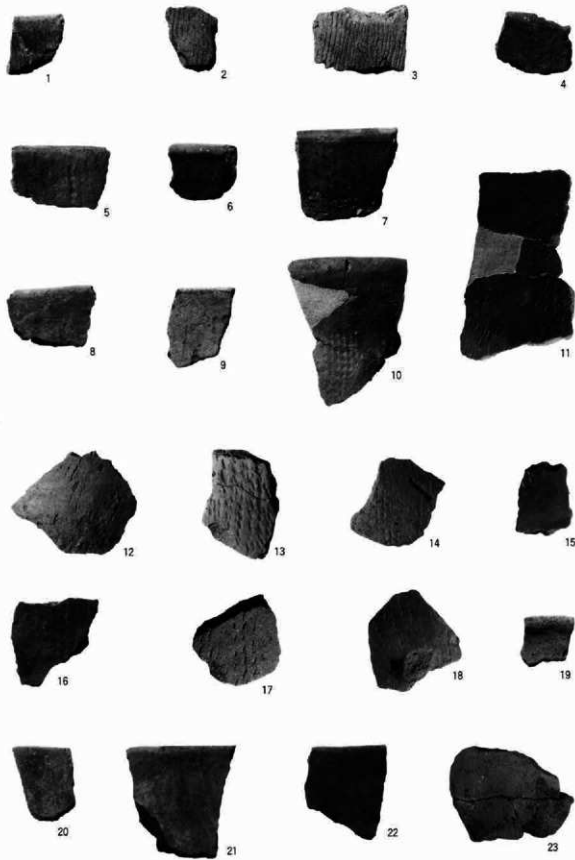
81区66土-2



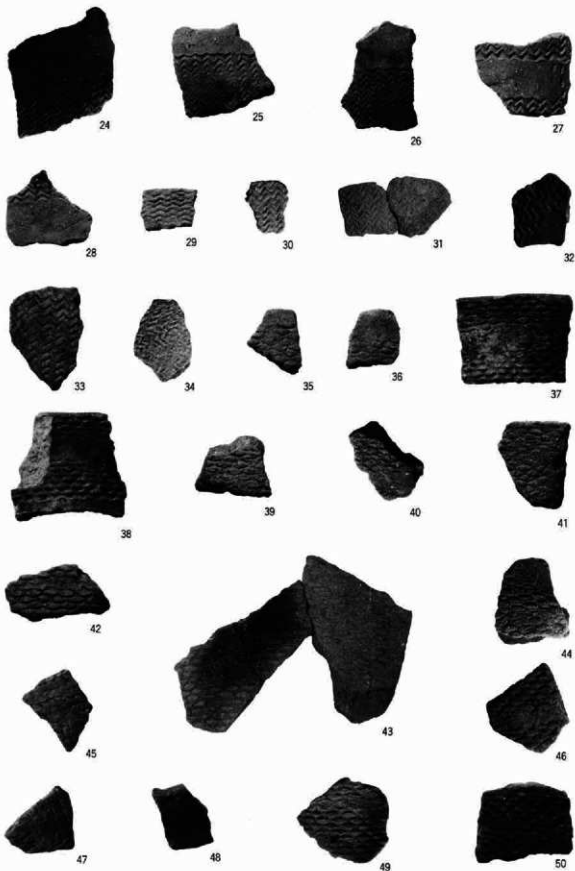
81区66土-3



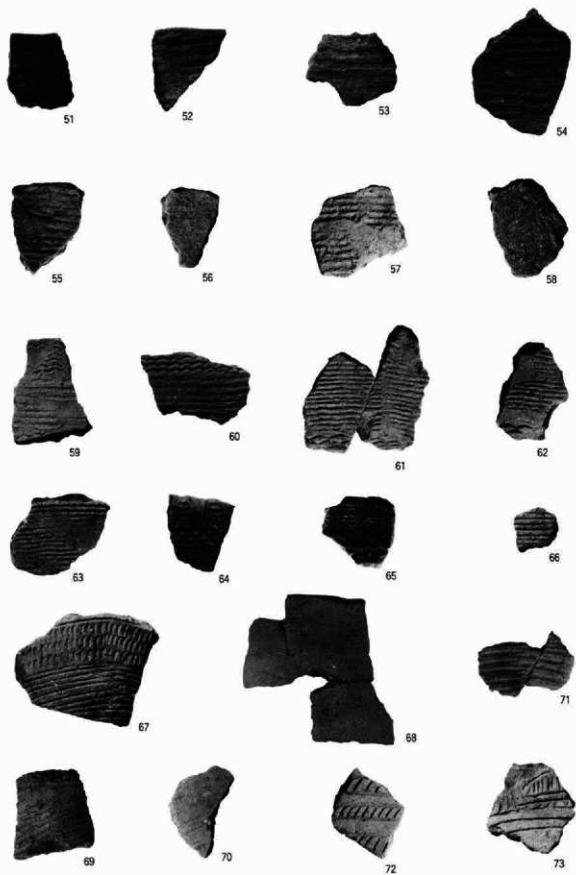
81区70号、90区4~7・46~48・50・52号土坑出土遺物



遺構外出土土器 (1)



遺構外出土器 (2)







90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112



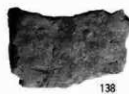
113

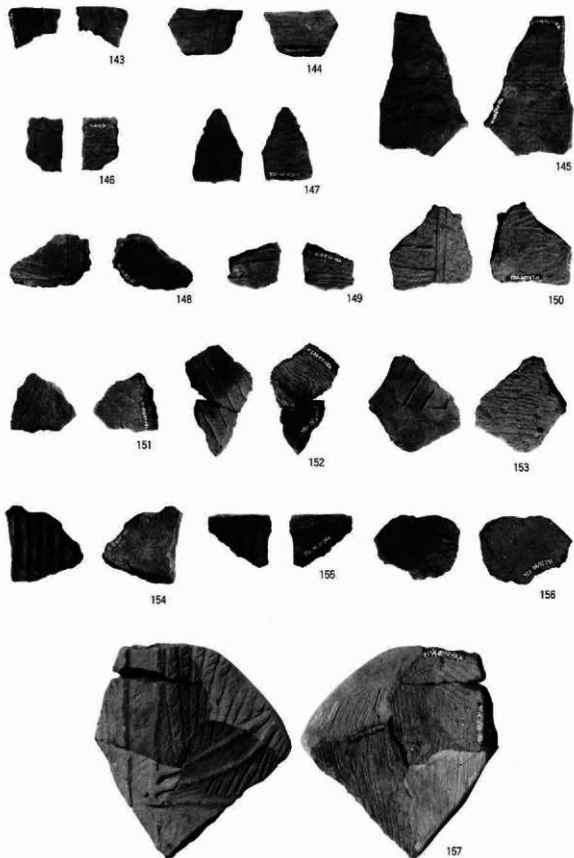


114



115







158



160



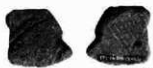
162



159



161



163



164



165



167



166



168



169



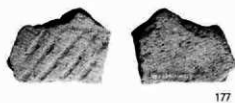
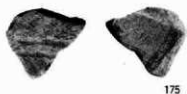
171



172



170





187



188



189



190



191



192



193



194



195



196



197



198



199



200



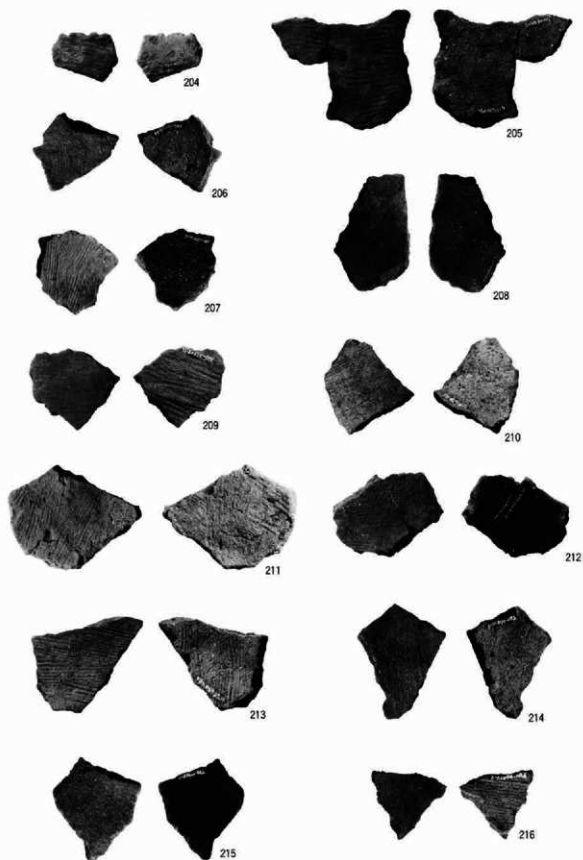
201

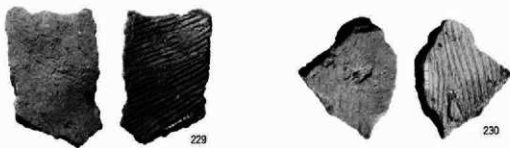
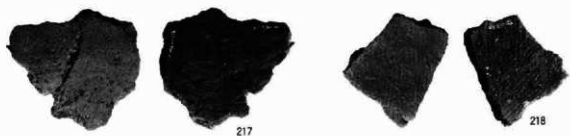


202



203







231



232



233



234



235



236



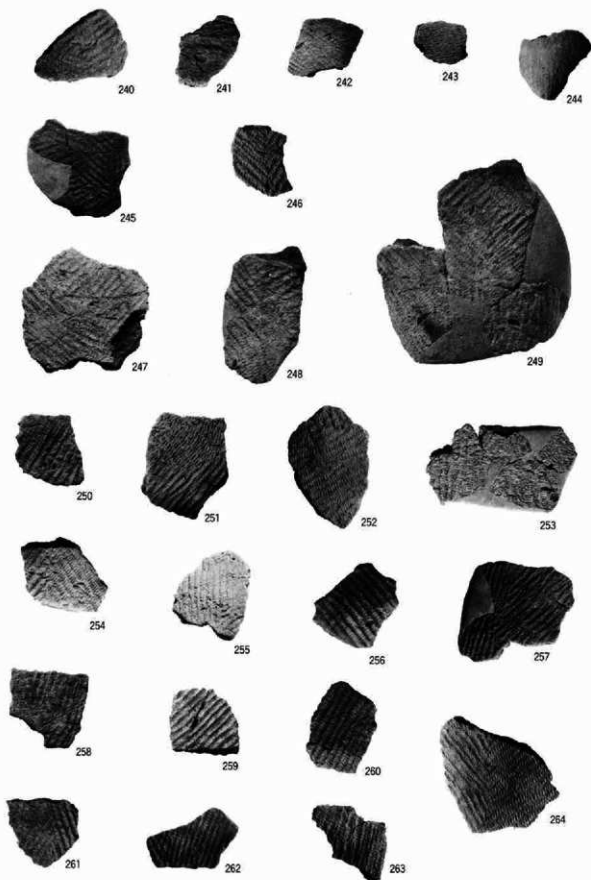
237



238



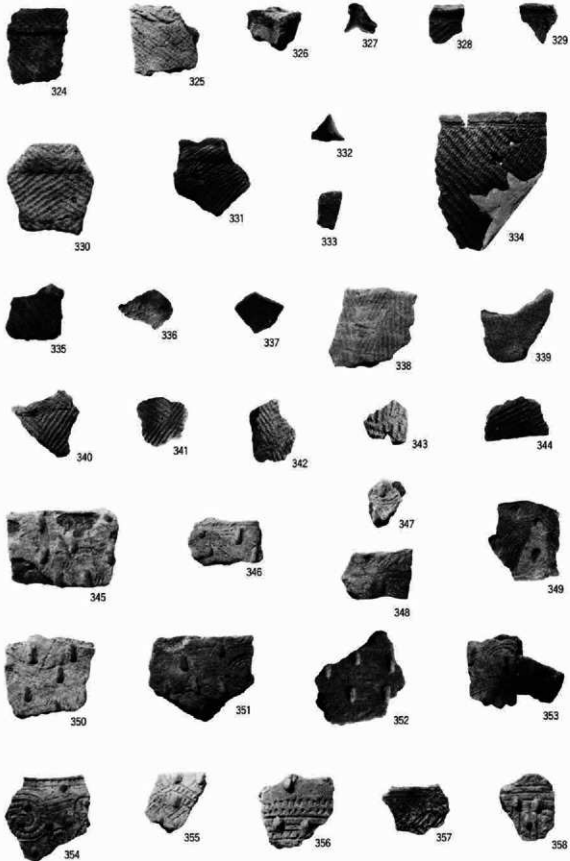
239

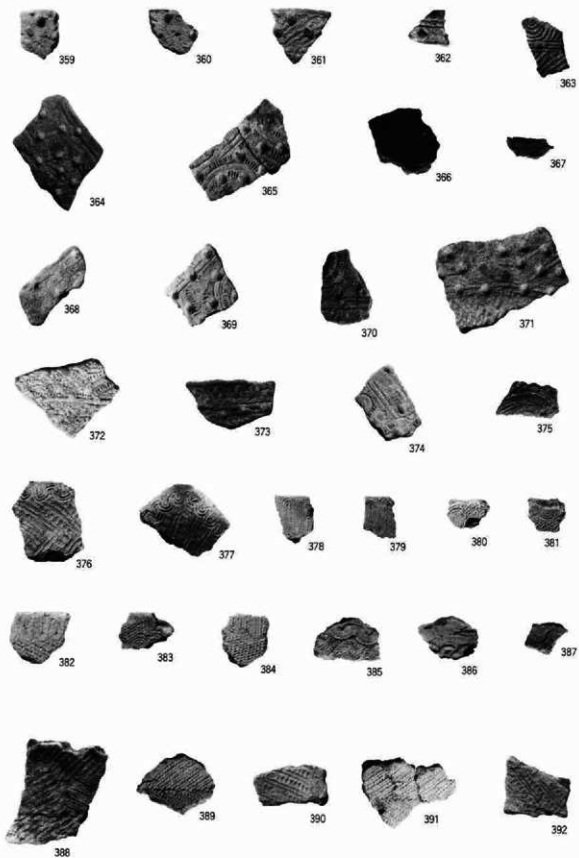






遺構外出土土器 (16)







393



394



395



396



397



398



399



400



401



402



403



404



405



406



407



408



409



410



411



412



413



414



415



416



417



418



419



420



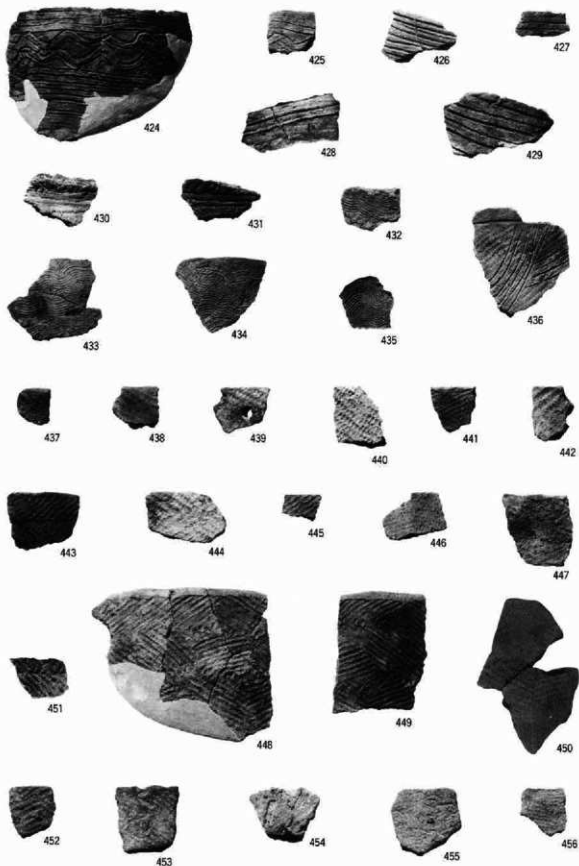
421

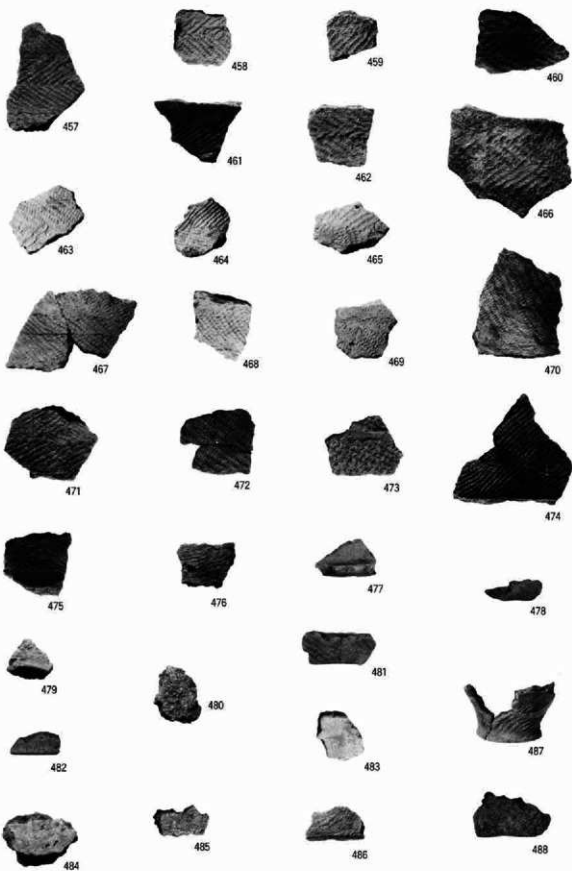


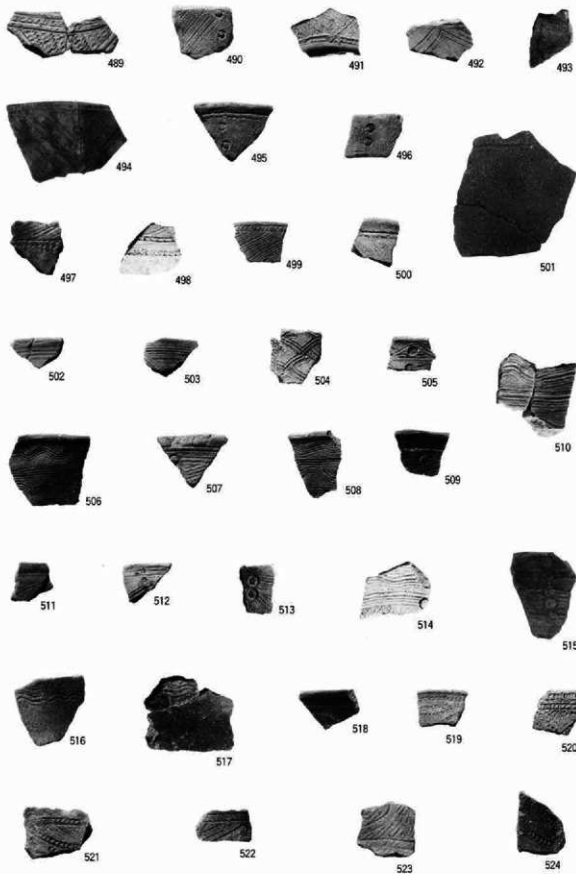
422

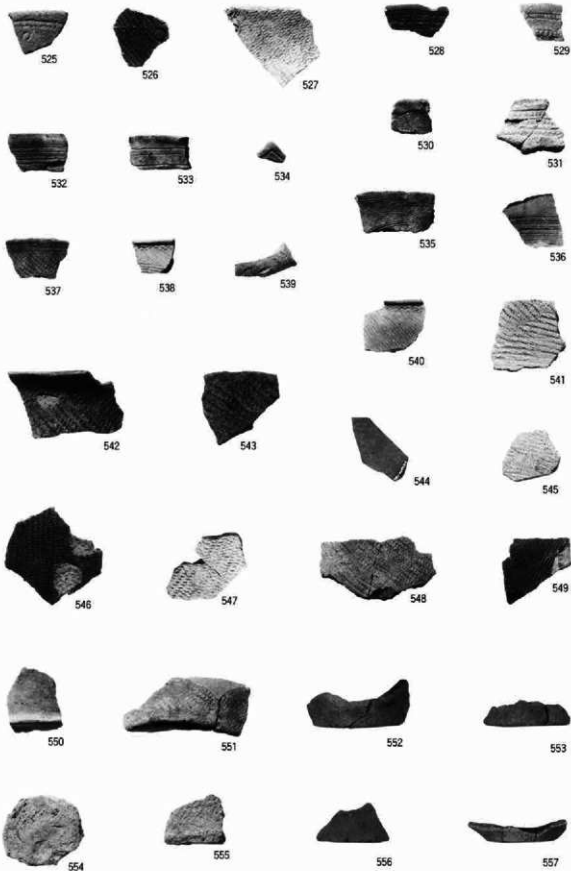


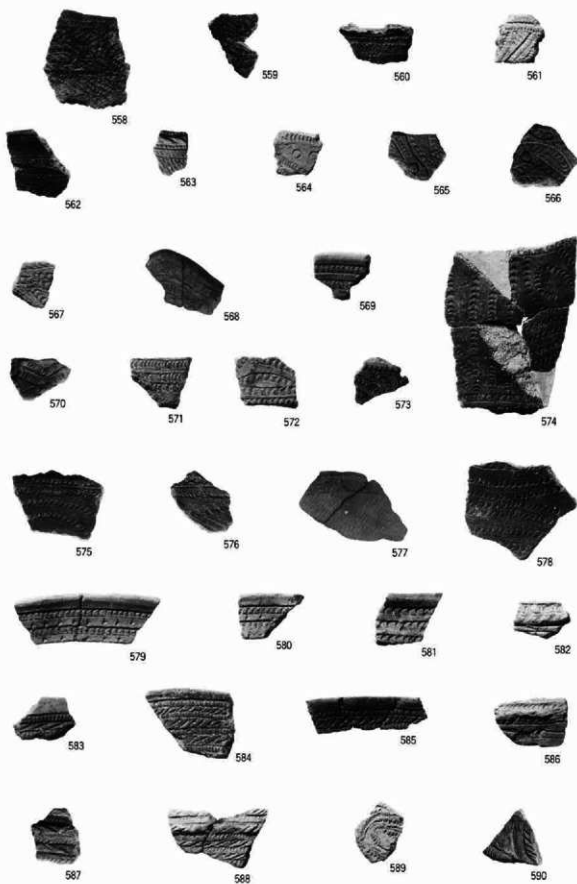
423

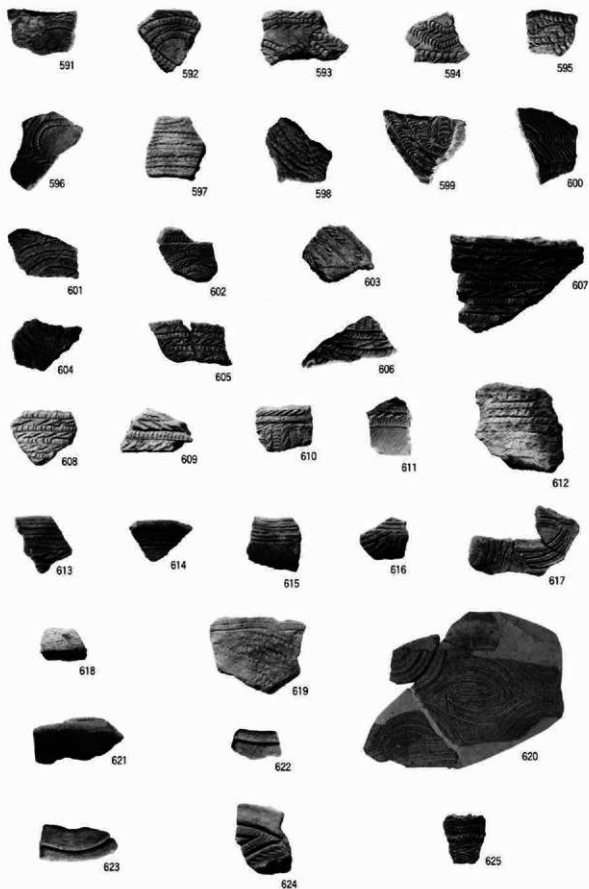




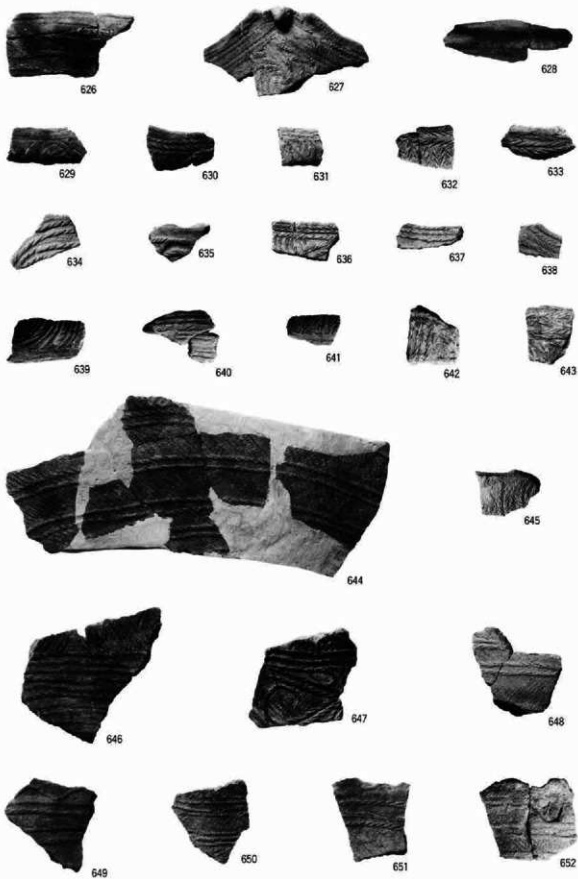








遺構外出土土器 (25)





653



654



655



656



657



658



659



660



661



662



663



664



665



666



667



668



669



670



671



672



673



674



675



676



677



678



679



680



681



682



683



684



685



686



687



688



689



690



693



696



691



692



694



695



697



698



699



700



701



702



703



704



705



706



707



708



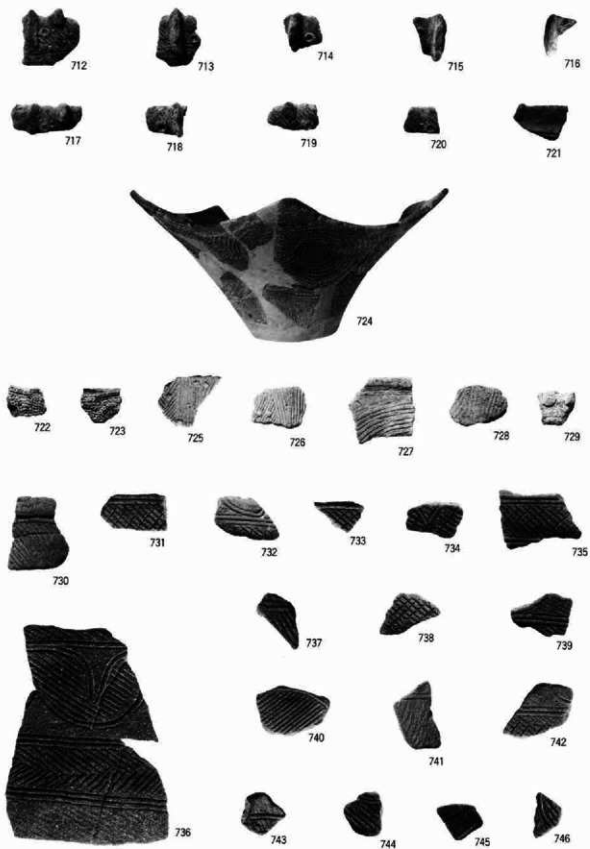
709

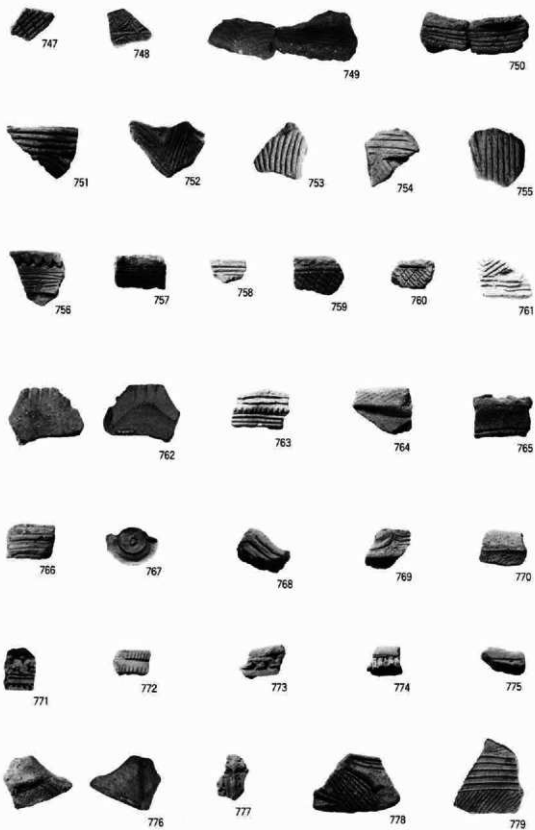


710



711







780



781



782



783



784



785



786



787



788



789



790



791



792



793



794



795



796



797



798



799



800



805



801



802



803



804



806



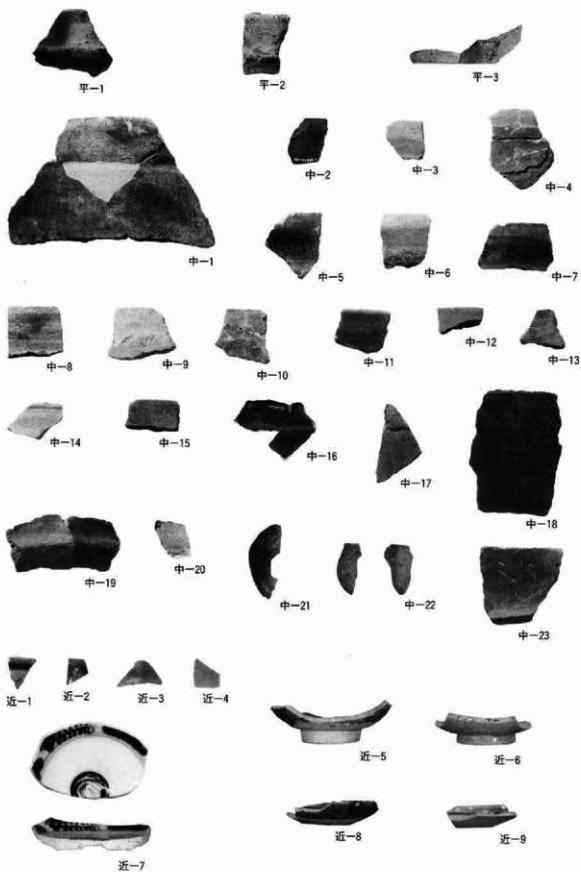
807



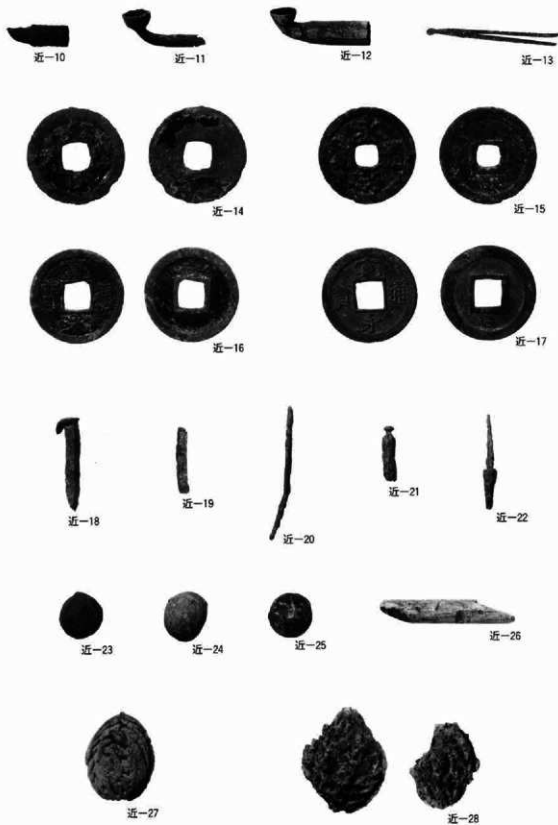
808

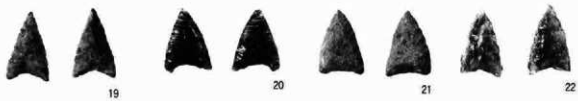
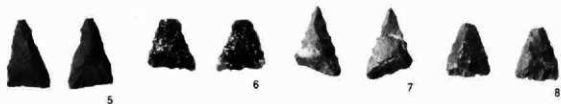


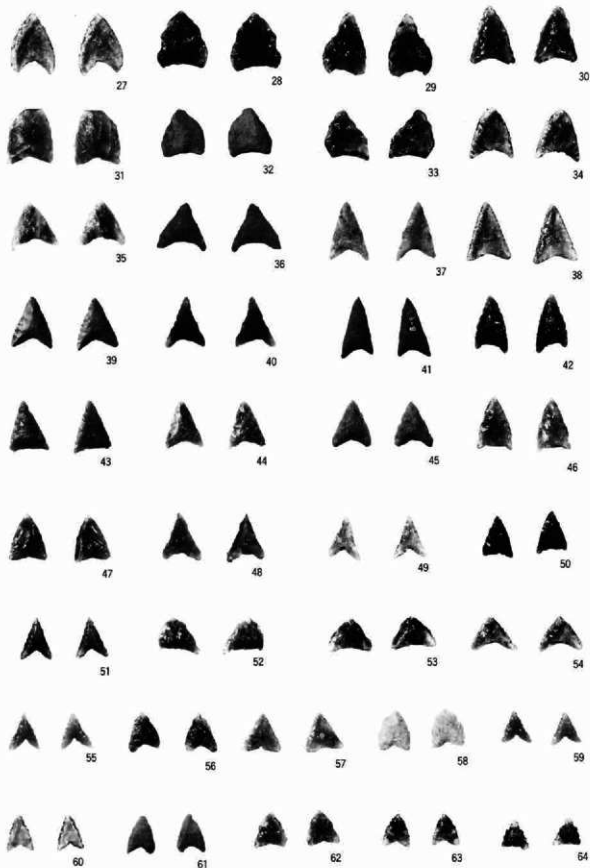
809

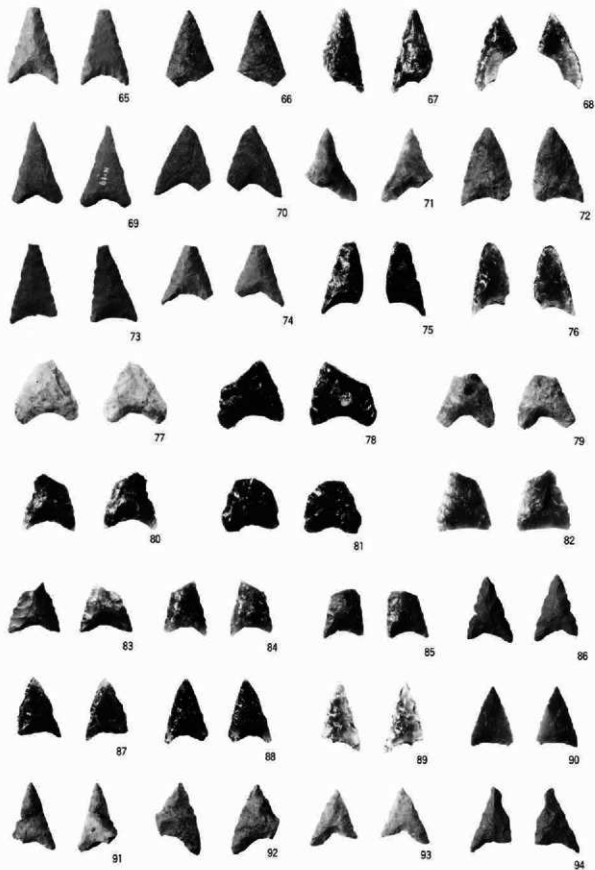


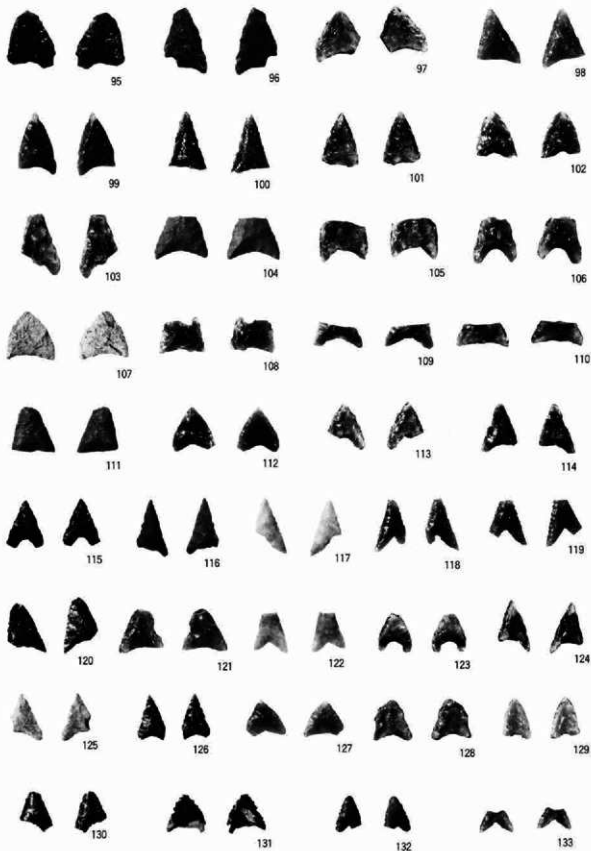
平安時代、中世、近世・近現代(1)遺構外出土遺物

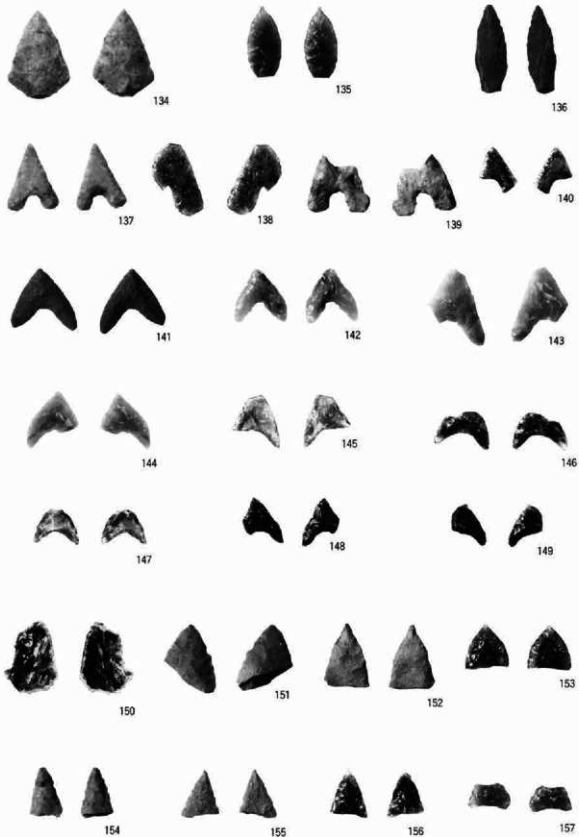














158



159



160



161



162



163



164



165



166



167



168



169



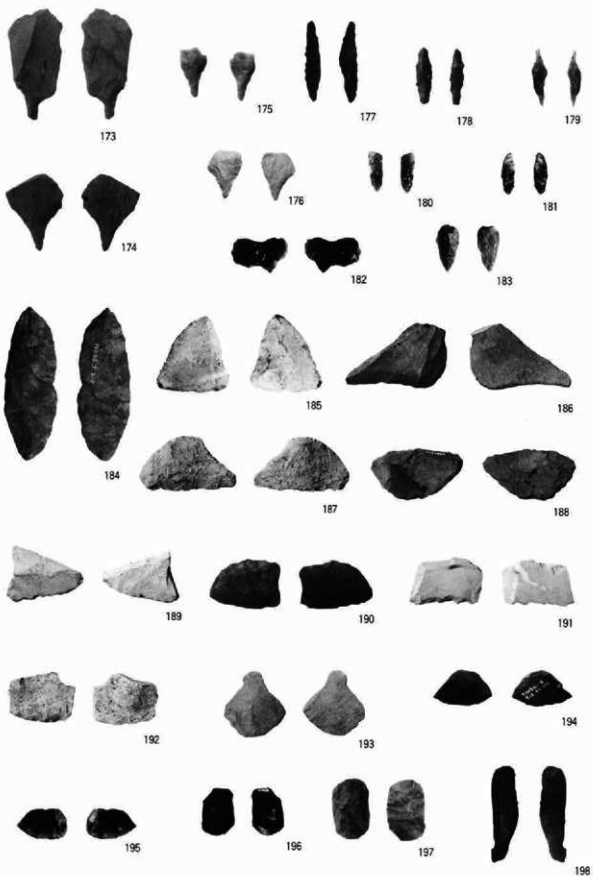
170



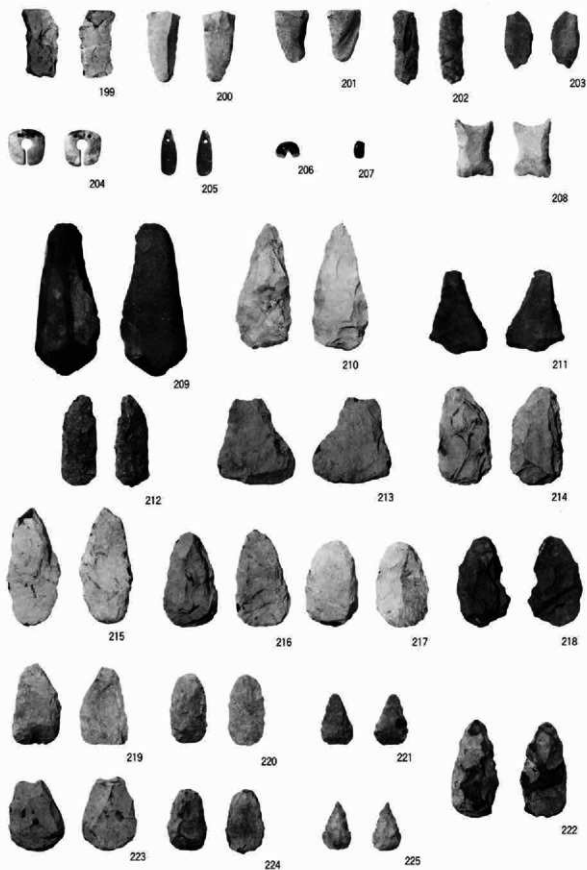
171

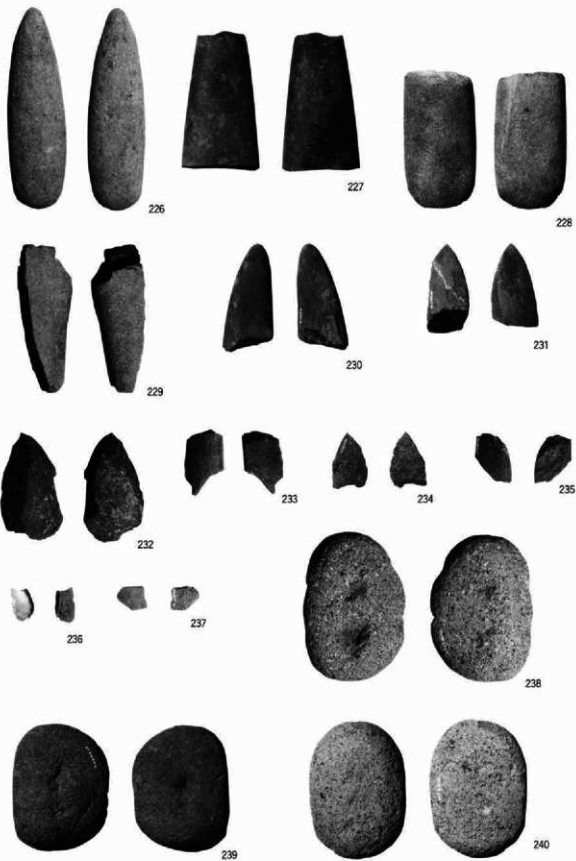


172



遺構外出土石器 (7)





遺構外出土石器 (9)



241



242



243



244



245



246



247



248



249



250



251



252



253



254



255



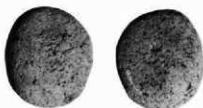
256



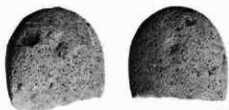
257



258



259



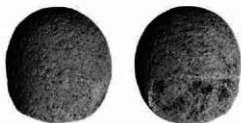
260



261



262



263



264

265



266

267



268



269



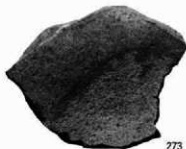
270



271



272



273



274



275



276



277



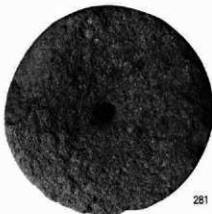
278



279



280



281



財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第401集

三平 I・II 遺跡

ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

平成19年(2007)2月23日 印刷

平成19年(2007)2月28日 発行

発行／編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地の2

電話027952-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org>

印刷／上武印刷株式会社